

田邊思帆里, 青柳一彦^{*1}, 横崎宏^{*2}, 佐々木博己^{*1}:
上皮間葉転換を伴うdiffuse型胃がんを同定するための
遺伝子発現の特徴.
第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

^{*1} 国立がん研究センター研究所

^{*2} 神戸大学大学院医学研究科

田邊思帆里, 青柳一彦^{*1}, 横崎宏^{*2}, 佐々木博己^{*1}:
胃がん細胞と間葉系幹細胞の遺伝子発現変動解析に
よる細胞の性質判定マーカーの同定.
第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

^{*1} 国立がん研究センター研究所

^{*2} 神戸大学大学院医学研究科

合田幸広: 多成分系としての生薬・漢方製剤の特性と課
題.
日本薬剤学会第28年会 (2013.5)

堀井周文*, 小此木明*, 大窪俊樹*, 鎌倉浩之, 合田幸
広: 小青竜湯エキス製剤及び湯剤の同等性に関する研究
(第2報).
第30回和漢医薬学会学術大会 (2013.8)

* クラシエ製薬

伏見直子^{*1}, 伏見裕利^{*2}, 安食菜穂子^{*3}, 御影雅幸^{*4},
川原信夫^{*3}, 合田幸広: 生薬「滑石」の基原について
(3): 日本薬局方および中国薬典収載品の分光測色計に
よる鑑別.
日本生薬学会第60回年会 (2013.9)

^{*1} ウチダ和漢薬

^{*2} 富山大学和漢薬研究所

^{*3} 医薬基盤研薬用植物資源研究センター

^{*4} 金沢大学薬学部

徳本廣子, 下村裕子, 袴塚高志, 小関良宏*, 合田幸広:
医薬品中に混入するタバコ葉の鑑別法.
日本生薬学会第60回年会 (2013.9)

* 東京農工大学工学部生命工学科

Goda, Y: Introduction of qNMR to the Japanese
Pharmacopoeia (JP) for specification of marker

compounds used for standardization of herbal
medicines.

61st International Congress and Annual Meeting of the
Society for Medicinal Plant and Natural Product
Research (2013.9)

Goda, Y: Current Status and Future Plans of
Standardization for Herbal Medicines in Japan.

Follow up meeting to GA2013 at the Univ. of Applied
Sciences (2013.9)

合田幸広: 「健康食品」の品質に関する課題.
日本アントシアニン研究会第3回研究会 (2012.11)

合田幸広: 分析から判る, 健康食品の品質に関する課題.
生薬分析討論会 (2013.11)

合田幸広: 生薬・生薬製剤に関する12年3ヶ月.
生薬学会関西支部平成25年度秋期講演会 (2013.11)

合田幸広: 医薬品としての生薬・漢方薬研究.
日本薬学会東海支部講演会 (2014.2)

天倉吉章^{*1}, 山上沙織^{*1}, 好村守生^{*1}, 吉田隆志^{*1}, 瀧
野裕之^{*2}, 合田幸広, 川原信夫^{*2}: HPTLCによる国内流
通生薬の成分比較 (第4報).
日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1} 松山大学薬学部

^{*2} 医薬基盤研薬用植物資源研究センター

好村守生^{*1}, 天倉吉章^{*1}, 山上沙織^{*1}, 吉田隆志^{*1}, 日
向昌司, 日向須美子^{*2}, 花輪壽彦^{*2}, 合田幸広: 縮合型
タンニンの簡易部分構造解析法の検討.
日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1} 松山大学薬学部

^{*2} 北里大学東洋医学総合研究所

呉暁テイ*, Shu ZHU*, 于曉麗*, 合田幸広, 小松かつ
子*: Gentiana属生薬の基原と品質に関する研究(2)
Gentiana属4種及び竜胆のITS配列について.
日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 富山大学和漢薬研究所

上野歩^{*1}, 白石加奈子^{*1}, 永瀬敬子^{*1}, 山路誠一^{*1}, 寺林進^{*2}, 酒井英二^{*3}, 合田幸広, 川原信夫^{*4}: 薬用植物総合情報データベース構築のための基盤整備に関する研究～市場流通生薬の組織形態(3)・タクシャ～.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1} 日本薬科大学

^{*2} 横浜薬科大学

^{*3} 岐阜薬科大学

^{*4} 医薬基盤研薬用植物資源研究センター

永瀬敬子^{*1}, 浅沼舞^{*1}, 山路誠一^{*1}, 寺林進^{*2}, 酒井英二^{*3}, 合田幸広, 川原信夫^{*4}: 薬用植物総合情報データベース構築のための基盤整備に関する研究～市場流通生薬の組織形態(4)・オンジ～.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1} 日本薬科大学

^{*2} 横浜薬科大学

^{*3} 岐阜薬科大学

^{*4} 医薬基盤研薬用植物資源研究センター

伊豆津健一, 四方田千佳子, 奥田晴宏, 川西徹: 3D X線マイクロCTスキャンを用いた凍結乾燥医薬品の評価: 凍結後熱処理と氷晶核形成誘導の影響.

日本薬剤学会第28年会 (2013.5)

于照コ^{*}, 大館亮平^{*}, 吉橋泰生^{*}, 米持悦生^{*}, 四方田千佳子, 奥田晴宏, 伊豆津健一, 寺田勝英^{*}: 凍結乾燥条件がMyo-Inositolの結晶形態に及ぼす影響について.

日本薬剤学会第28年会 (2013.5)

^{*} 東邦大学薬学部・大学院薬学研究科

伊豆津健一, 四方田千佳子, 合田幸広, 奥田晴宏: 凍結乾燥医薬品の工程効率化に向けた熱処理と氷晶核形成誘導の製剤品質への影響.

低温生物工学会 (2013.6)

伊豆津健一: 溶出性評価法の動向について.

日本薬剤学会経口吸収フォーカスグループ第4回合宿討論会 (2013.8)

伊豆津健一, 柴田寛子, 吉田寛幸, 四方田千佳子, 合田幸広: 凍結水溶液の濃縮相における医薬品成分の混合性と結晶化.

熱測定討論会 (2013.11)

伊豆津健一: ジェネリック医薬品のさらなる信頼性向上に向けた課題と取り組み.

全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

伊豆津健一: 凍結溶液における濃縮相の相分離と製剤における結晶化制御.

ソフトマター研究会 (2013.12)

伊豆津健一: ジェネリック医薬品の品質に関する情報検討会をはじめとした取り組み.

レギュラトリーサイエンス学会シンポジウム (2014.2)

伊豆津健一, 吉田寛幸, 柴田寛子, 合田幸広: 凍結乾燥製剤の結晶性制御に向けた研究: 凍結濃縮相の混合性情報の活用.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

于照コ^{*}, 合田幸広, 伊豆津健一, 米持悦生^{*}, 吉橋泰生^{*}, 寺田勝英^{*}: 凍結乾燥製剤の賦形剤の結晶多形形成に及ぼす処方と工程因子.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*} 東邦大学薬学部・大学院薬学研究科

藤井香穂梨^{*1,2}, 伊豆津健一, 久米美汀^{*1}, 吉野建史^{*1}, 岸澄^{*3}, 吉橋泰生^{*1}, 寺田勝英^{*1}: 凍結乾燥医薬品新規賦形剤としてのmeso-erythritolの物性評価.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1} 東邦大学薬学部・大学院薬学研究科

^{*2} (株)ポーラファルマ

^{*3} (株)リガク

Shibata H, Izutsu K, Yomota C, Okuda H, Goda Y: Separation and quantification of polyethylene glycol-conjugated liposome components by reversed-phase HPLC analysis with UV and evaporative light scattering detection.

AAPS Annual Meeting 2013 (2013.11)

柴田寛子, 四方田千佳子, 奥田晴宏: マイクロスフェア型徐放性製剤の薬物放出性評価: フロースルーセル法溶出試験装置の利用.

日本薬剤学会第28年会 (2013.5)

吉田寛幸, 奥田晴宏, 四方田千佳子: カスケードインパクトのプレセパレーター内液種が粒子径評価に与える

影響に関する検討.

日本薬剤学会第28年会 (2013.5)

Yoshida H, Yomota C, Izutsu K, Okuda H, Goda Y: Effect of lactose hydrate on the dissolution and permeation profiles of inhaled steroids.

AAPS Annual Meeting 2013 (2013.11)

吉田寛幸：吸入剤評価法の現状と課題 - 規格試験の国際調和と生物学的同等性について -.

第5回粉末吸入剤研究会シンポジウム (2013.11)

吉田寛幸, 伊豆津健一, 柴田寛子, 桑名明美, 合田幸広：プロカテロール塩酸塩水和物の粉末吸入剤における振とう操作と薬物排出量に関する検討.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

宮崎玉樹, 阿曾幸男, 奥田晴宏：高分子で被覆した非晶質ニフェジピン固体表面の結晶化抑制.

日本薬剤学会第28年会 (2013.5)

阿曾幸男, 宮崎玉樹, 合田幸広：異なる結晶形のリシノプリルを含有する市販製剤の保存安定性.

第57回日本薬学会関東支部大会 (2013.10)

宮崎玉樹, 阿曾幸男, 合田幸広：スルファチアゾールの多形転移に及ぼす湿度の影響.

第57回日本薬学会関東支部大会 (2013.10)

Miyazaki T, Aso Y, Goda Y, Okuda H: Inhibition of surface crystallization of amorphous nifedipine by coating with PVP and HPMC.

AAPS Annual Meeting (2013.11)

阿曾幸男, 宮崎玉樹, 合田幸広：異なる結晶形のリシノプリルを含有する市販製剤の物理的, 化学的保存安定性の比較.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

宮崎玉樹, 阿曾幸男, 合田幸広：スルファチアゾールII型結晶の多形転移速度に及ぼす温度と湿度の影響.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

Katori N: The Guidelines for BMV in Japan - update of status and main items.

7th Workshop on Recent Issues in Bioanalysis (7th WRIB) (2013.4)

香取典子：日本におけるBMVガイドラインの状況とこれからの動き.

第26回バイオメディカル分析化学シンポジウム (BMAS2013) (2013.8)

Katori N: Involvement in the pharmacokinetics and the history of regulated bioanalysis in Japan.

第28回日本薬物動態学会年会 (JSSX2013) (2013.10)

Katori N: Japan's perspective on Partial-validation in Small Molecule Regulated Bioanalysis - Method Transfer and Life Cycle Management -.

8th Workshop on Recent Issues in Bioanalysis (8th WRIB) (2014.3)

Sakamoto T, Sasaki T^{*1}, Kimura H^{*1}, Kambara O^{*1}, Tanabe T^{*2}, Hiyama Y, Katori N, Okuda H: Application of terahertz/far-infrared spectroscopic analysis of an active pharmaceutical ingredient (API) and other medical additives for a pharmaceutical process analytical technology (PPAT).

International Workshop on Optical Terahertz Science and Technology (2014.4)

^{*1} Shizuoka University

^{*2} Tohoku University

Murayama K^{*1}, Sakamoto T, Fujimaki Y^{*2}, Kitagawa M^{*3}, Komiyama M^{*1}, Koganei S^{*2}, Hiyama Y, Katori N, Okuda H: Transmission measurement of tablet in very short-time by using high-speed and high-sensitive Near Infrared spectrometer.

16th International Conference on Near Infrared Spectroscopy (2014.6)

^{*1} Yokogawa Electric

^{*2} Tokyo Metropolitan Industrial Technology Research Institute

^{*3} Eisai

Sakamoto T, Sasaki T^{*1}, Kimura H^{*1}, Fujimaki Y^{*2}, Tanabe T^{*3}, Hiyama Y, Katori N, Okuda H: Vibrational spectral analysis of pharmaceutical ingredients during a tableting process by cross-sectional use of near-, mid-, and far-infrared/terahertz electro-magnetic waves for process understanding.

7th International Conference on Advanced Vibrational

Spectroscopy (2013.8)

*¹Shizuoka University*²Tokyo Metropolitan Industrial Technology Research Institute*³Tohoku UniversitySasaki T^{*1}, Kimura H^{*1}, Kambara O^{*1}, Sakamoto T, Nishizawa J^{*2}: Polarization Terahertz Spectroscopy of Organic Single Crystals Grown by TDM Method.

7th International Conference on Advanced Vibrational Spectroscopy (2013.8)

*¹Shizuoka University*²Sophia University佐々木哲朗^{*1}, 木村寛子^{*1}, 神原大^{*1}, 坂本知昭, 西澤潤一^{*2}: 医薬品単結晶のテラヘルツ偏光分光スペクトルとDFT計算の比較.

第74回応用物理学会秋季学術講演会 (2013.9)

*¹静岡大学*²上智大学Sakamoto T, Sasaki T^{*}, Kimura H^{*}, Hiyama Y, Katori N, Okuda H: Analysis of hydration and dehydration on xanthine related compounds during pharmaceutical granulation process using terahertz spectroscopy.

38th International Conference on Infrared, Millimeter and Terahertz waves (2013.9)

* Shizuoka University

坂本知昭, 佐々木哲朗^{*}, 木村寛子^{*}, 香取典子, 合田幸広: テラヘルツ及び赤外分光法を用いた医薬品成分の品質特性解析.

日本分光学会テラヘルツ分光部会シンポジウム (2013.10)

* 静岡大学

佐々木哲朗^{*}, 坂本知昭, 木村寛子^{*}, 神原大^{*}: 単結晶偏光分光測定を用いた医薬品のテラヘルツ帯分子振動解析.

第23回日本赤外線学会研究発表会 (2013.10)

* 静岡大学

坂本知昭, 佐々木哲朗^{*}, 木村寛子^{*}, 香取典子, 合田幸広: 製薬用顆粒物調製における結合剤作用の分子振動分光学的解析.

第29回近赤外フォーラム (2013.11)

* 静岡大学

坂本知昭: OMCL認定に向けた国立医薬品食品衛生研究所の取り組みとPIC/Sオンサイト査察について.

日本PDA製薬学会第20回年会 (2013.12)

坂本知昭, 佐々木哲朗^{*}, 木村寛子^{*}, 香取典子, 合田幸広: セルロース誘導体の糊化作用が水和キサンチン化合物の脱水に与える影響及び脱水・非晶質化メカニズムの分子振動解析.

第61回応用物理学会春季学術講演会 (2014.3)

* 静岡大学

佐々木哲朗^{*1}, 木村寛子^{*1}, 神原大^{*1}, 坂本知昭, 西澤潤一^{*2}: テオフィリン無水物単結晶のテラヘルツ偏光分光スペクトル測定.

第61回応用物理学会春季学術講演会 (2014.3)

*¹静岡大学*²東北大学坂本知昭, 佐々木哲朗^{*}, 木村寛子^{*}, 香取典子, 合田幸広: 分子振動解析による水和医薬品の脱水及び非晶質化に対する結合剤作用の分子科学的考察.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 静岡大学

小出達夫, 香取典子, 奥田晴宏: 近赤外イメージングによる製剤の混合均一性評価における医薬品原料の粒子径の影響についての検討.

日本薬剤学会第28年会 (2013.5)

Saito N^{*1}, Fukami T^{*1}, Yamamoto Y^{*2}, Koide T, Katori N, Hisada H^{*3}, Suzuki T^{*1}, Tomono K^{*1}: Pharmaceutical Evaluation of Atorvastatin Calcium Tablets on the Internet- Basic Investigation of Substandard Medicines in Japan.

5th Asian Arden Conference (2013.8)

*¹日本大学薬学部

*² 帝京平成大学薬学部

*³ (株)テックアナリシス

小出達夫：イメージング技術を用いた造粒顆粒及び製剤評価。

日本薬剤学会第4回経口吸入フォーカスグループ第4回合宿討論会 (2013.8)

Koide T, Katori N, Fukami T^{*1}, Yamamoto Y^{*2}, Okuda H: Analyzing the quality of solid dosage forms by using pharmaceutical imaging techniques.

FIP World Congress 2013 (2013.9)

*¹ 日本大学薬学部

*² 帝京平成大学薬学部

山本佳久^{*1}, 小島理美^{*1}, 竹内理紗^{*2}, 深水啓朗^{*2}, 小出達夫, 香取典子, 鈴木豊史^{*2}, 伴野和夫^{*2}: 加熱融解したアセトアミノフェン坐剤における主薬の均一性に関する研究。

第23回日本医療薬学会年会 (2013.9)

*¹ 帝京平成大学薬学部

*² 日本大学薬学部

小出達夫：飛行時間型二次イオン質量分析法 (TOF-SIMS) を用いた医薬品製剤のイメージング。

第19回創薬フォーラム若手研究会 (2013.12)

竹内理紗^{*1}, 斉藤奈央子^{*1}, 深水啓朗^{*1}, 山本佳久^{*2}, 小出達夫, 香取典子, 鈴木豊史^{*1}, 伴野和夫^{*1}: ネット経由で個人輸入される医療用医薬品の品質評価-アトルバスタチンCa錠の場合。

第19回創薬フォーラム若手研究会 (2013.12)

*¹ 日本大学薬学部

*² 帝京平成大学薬学部

小島理美^{*1}, 竹内理紗^{*2}, 山本佳久^{*1}, 深水啓朗^{*2}, 小出達夫, 香取典子, 鈴木豊史^{*2}, 伴野和夫^{*2}: 加熱融解したアセトアミノフェン坐剤における主薬の均一性。

第19回創薬フォーラム若手研究会 (2013.12)

*¹ 帝京平成大学薬学部

*² 日本大学薬学部

小出達夫, 深水啓朗^{*}, 香取典子, 奥田晴宏, 鈴木豊史^{*},

伴野和夫^{*}, 合田幸広: 超低波数及びアンチストークス領域を用いたラマン分光法による主薬及び医薬品添加物の確認試験に関する研究。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 日本大学薬学部

山本佳久^{*1}, 小島理美^{*1}, 増田彩^{*1}, 竹内理紗^{*2}, 深水啓朗^{*2}, 小出達夫, 香取典子, 鈴木豊史^{*2}, 伴野和夫^{*2}: 加熱融解したアセトアミノフェン坐剤における主薬の均一性および溶出性に関する研究。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 帝京平成大学薬学部

*² 日本大学薬学部

加藤くみ子, 運敬太, 川西徹, 奥田晴宏, 合田幸広: シリカ粒子, 酸化チタンと腸管上皮細胞株との相互作用に関する研究。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

運敬太, 加藤くみ子, 合田幸広: コレカルシフェロール含有リポソームによる抗腫瘍活性に関する研究。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

加藤くみ子, 川西徹, 奥田晴宏, 合田幸広: ナノ医薬品のレギュラトリーサイエンス研究。

「スマートライフケア社会への変革を先導するものづくりオープンイノベーション拠点」キックオフシンポジウム (2014.3)

加藤くみ子, 南條邦江, 合田幸広, 奥田晴宏, 山口照英, 川西徹: ノンポーラスシリカゲルカラムによるIgG2アイソフォームのHPLC分離に関する研究。

第24回クロマトグラフィー科学会議 (2013.11)

加藤くみ子, 運敬太, 川西徹, 奥田晴宏, 合田幸広: リポソーム及び内包薬物の細胞内動態に関する研究。

第22回日本バイオイメージング学会学術集会 (2013.9)

運敬太, 加藤くみ子, 奥田晴宏: リポソームに内封されたドキシソルピシンの細胞内動態に及ぼすリポソーム構成脂質の影響。

第29回日本DDS学会学術集会 (2013.7)

運敬太, 加藤くみ子, 奥田晴宏: リポソーム中のポリエチレングリコール (PEG) 修飾リン脂質の細胞内動態特

性評価.

日本薬剤学会第28年会 (2013.5)

加藤くみ子, 日高征幸, 運敬太, 川西徹, 奥田晴宏: シリカ粒子, 酸化チタンの物理的・化学的特性とin vitro腸管吸収モデルによる細胞透過性との関連性について.

日本薬剤学会第28年会 (2013.5)

石井明子: バイオ後続品/バイオシミラーに関する国内外の規制動向と開発の課題.

第19回代々木会特別講演会 (2013.5)

Hyuga S^{*1}, Hyuga M, Amakura Y^{*2}, Goda Y, Hanawa T^{*1}: Herbacetin, a biologically active constituent of Ephedrae herba, suppresses the HGF-induced motility of human breast cancer cells through inhibition of c-Met phosphorylation.

The 64th annual meeting of the Japan Society for Oriental Medicine, 3rd Academic Meeting of Global Research Network for Traditional Medicine (GRNTM) (2013.5)

*¹ 北里大学東洋医学総合研究所

*² 松山大学薬学部

日向須美子^{*1}, 日向昌司, 天倉吉章^{*2}, 合田幸広, 花輪壽彦^{*1}: がん転移抑制効果を有する漢方薬の基礎研究から導き出された活性成分のユニークな薬理作用と臨床応用への可能性.

日本薬剤学会第28年会 (2013.5)

*¹ 北里大学東洋医学総合研究所

*² 松山大学薬学部

川崎ナナ: 高分子医薬品の質量分析.

第20回クロマトグラフィーシンポジウム (2013.6)

石井明子: 日本のBMV (リガンド結合法) ガイドライン策定状況.

第20回クロマトグラフィーシンポジウム (2013.6)

Hyuga M, Takakura D, Hashii N, Ishii A, Niimi S, Kawasaki, N: Shotgun proteomics of residual host cell derived proteins in Protein A chromatography eluate. Measurement of Residual Host Cell Protein and DNA in Biotechnology Products Workshop (2013.6)

Nakazawa S, Hashii N, Kawasaki N: Analysis of interaction between TNF-alpha and anti-TNF-alpha agents using hydrogen/deuterium exchange and mass spectrometry.

61st ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics (2013.6)

Hashii N, Kuribayashi R, Harazono A, Nakazawa S, Kawasaki N: Development of a peptide affinity column for anti-TNF-alpha monoclonal antibodies.

61st ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics (2013.6)

長瀬翔太郎^{*1}, 山下真代^{*1}, 飯田愛未^{*1}, 渡利彰浩^{*1}, 近藤昌夫^{*1}, 深澤征義^{*2}, 多田稔, 石井明子, 八木清仁^{*1}: 上皮細胞を標的とした創薬基盤研究第1報~claudin-1特異性抗体の創製~.

第29回日本DDS学会学術集会 (2013.7)

*¹ 大阪大学大学院

*² 国立感染症研究所

清水芳実^{*1}, 李相儒^{*1}, 渡利彰浩^{*1}, 近藤昌夫^{*1}, 深澤征義^{*2}, 多田稔, 石井明子, 國安弘基^{*3}, 八木清仁^{*1}: 上皮細胞を標的とした創薬基盤研究第3報~claudin-4特異性抗体の創製~.

第29回日本DDS学会学術集会 (2013.7)

*¹ 大阪大学大学院

*² 国立感染症研究所

*³ 奈良県立医大

Yoshitake H^{*1}, Endo S^{*2}, Hasegawa A^{*3}, Hashii N, Kawasaki N, Takamori K^{*2}, Fujiwara H^{*4}, Araki Y^{*2}: Structure of the Oligosaccharide Chain in the Molecular Epitope for An Anti-Sperm Auto-Monoclonal Antibody, Ts4.

SSR 46th Annual Meeting (2013.6)

*¹ 日本医科大学大学院

*² 順天堂大学大学院

*³ 兵庫医科大学

*⁴ 京都大学大学院

川崎ナナ: バイオ医薬品の品質管理—クオリティ・バイ・デザインと質量分析.

第40回BMSコンファレンス (2013.7)

日向昌司, 日向須美子^{*1}, 天倉吉章^{*2}, 川崎ナナ, 合田幸広, 花輪壽彦^{*1}: 麻黄の活性成分・Herbacetinのマルチキナーゼ阻害作用.

第30回和漢医薬学会 (2013.8)

^{*1} 北里大学東洋医学総合研究所

^{*2} 松山大学薬学部

日向須美子^{*1}, 日向昌司, 天倉吉章^{*2}, 合田幸広, 花輪壽彦^{*1}: 麻黄の活性成分・Herbacetinによるがん細胞の運動能, 増殖, 及び腫瘍増殖の抑制.

第30回和漢医薬学会 (2013.8)

^{*1} 北里大学東洋医学総合研究所

^{*2} 松山大学薬学部

川崎ナナ: バイオ後続品の品質・安全性評価と課題. 製剤機械技術学会第22回講演会 (2013.8)

伊藤孝司^{*1}, 小林功^{*2}, 西岡宗一郎^{*1}, 原園景, 久保勇樹^{*3}, 真板宣夫^{*4}, 辻大輔^{*1}, Rahman Md Motiur^{*1}, 池戸駿介^{*1}, 石井明子, 川崎ナナ, 町井博明^{*2}, 瀬筒秀樹^{*2}: バイオ医薬品の生産基材としてのトランスジェニックカイコとネオグライコバイオロジクス創製への応用. 日本糖質学会第32回年会 (2013.8)

^{*1} 徳島大学大学院

^{*2} 農業生物資源研究所

^{*3} 増田化学工業(株)

^{*4} 徳島大学疾患酵素学研究所

伊達公恵^{*1}, 川崎ナナ, 橋井則貴, 小川温子^{*1,2}: 膵臓酵素の糖鎖認識による糖質消化と吸収の制御機構.

日本糖質学会第32回年会 (2013.8)

^{*1} お茶の水女子大学大学院

^{*2} お茶の水女子大学糖鎖科学教育研究センター

中尾広美^{*1}, 山内拓也^{*2}, 滝野佑人^{*2}, 松本尚悟^{*1}, 川崎ナナ, 川寄伸子^{*1}, 豊田英尚^{*2}, 川寄敏祐^{*1}: 単クローン抗体R-10Gを用いた脳ケラタン硫酸プロテオグリカンの研究.

日本糖質学会第32回年会 (2013.8)

^{*1} 立命館大学糖鎖工学研究センター

^{*2} 立命館大学薬学部

西岡宗一郎^{*1}, 小林功^{*2}, 辻大輔^{*1}, 池戸駿介^{*1}, 瀬筒秀樹^{*2}, 町井博明^{*2}, 原園景, 石井明子, 川崎ナナ, 伊藤孝司^{*1}: トランスジェニックカイコ絹糸腺由来ヒトカテプシンAの糖鎖修飾と機能評価.

日本糖質学会第32回年会 (2013.8)

^{*1} 徳島大学大学院

^{*2} 農業生物資源研究所

鈴木琢雄, 宮崎ひろ, 石井明子, 多田稔, 川西徹, 川崎ナナ: 蛍光標識抗体医薬品とその分解物の分離イメージング法.

第22回日本バイオイメージング学会学術集会 (2013.9)

多田稔, 立松謙一郎^{*}, 原園景, 石井明子, 瀬筒秀樹^{*}, 町井博明^{*}, 川崎ナナ: トランスジェニックカイコを用いて生産された抗CD20抗体の特性解析.

第86回日本生化学会大会 (2013.9)

^{*} 農業生物資源研究所

高倉大輔, 橋井則貴, 川崎ナナ: LC/MS/MSによる糖タンパク質の部位特異的糖鎖解析のための改良ゲル内消化法.

第86回日本生化学会大会 (2013.9)

中澤志織, 橋井則貴, 川崎ナナ: Analysis of interaction between TNF α and anti-TNF α agents using hydrogen/deuterium exchange and mass spectrometry. 第86回日本生化学会大会 (2013.9)

西岡宗一郎^{*1}, 小林功^{*2}, 辻大輔^{*1}, 池戸駿介^{*1}, 瀬筒秀樹^{*2}, 町井博明^{*2}, 原園景, 石井明子, 川崎ナナ, 伊藤孝司^{*1}: トランスジェニックカイコ絹糸腺由来組換えヒトカテプシンAの分子修飾と機能解析.

第86回日本生化学会大会 (2013.9)

^{*1} 徳島大学大学院

^{*2} 農業生物資源研究所

豊田淑江, 山口照英: 単核球由来血管内皮前駆細胞はM2マクロファージ様に分化している.

第86回日本生化学会大会 (2013.9)

小林哲, 遊佐敬介, 川崎ナナ: 各種免疫抑制剤の投与症例におけるウイルス感染症プロファイルの比較.

レギュラトリーサイエンス学会学術大会 (2013.9)

橋井則貴：抗体医薬品高親和性ペプチドカラムの開発とバイオアナリシスへの応用.

第61回質量分析総合討論会 (2013.9)

石井明子, 西村和子, 鈴木琢雄, 多田稔, 川崎ナナ：ペプチド及びタンパク質医薬品のバイオアナリシス.

日本薬物動態学会第28回年会 (2013.10)

山下真代^{*1}, 長瀬翔太郎^{*1}, 飯田愛未^{*1}, 白砂圭敬^{*2}, 深澤証義^{*2}, 近藤昌夫^{*1}, 多田稔, 石井明子, 渡利彰浩^{*1}, 八木清仁^{*1}：抗Claudin-1抗体の創製と評価.

日本薬物動態学会第28回年会 (2013.10)

^{*1} 大阪大学大学院

^{*2} 国立感染症研究所

Hyuga M, Hyuga S^{*}, Kawasaki N, Hanawa T^{*} : Recovery effect of Kampo Medicines on MDR-1-Mediated Multidrug Resistance in Hepatocellular Carcinoma HuH-7/PTX Cells.

第72回日本癌学会学術総会 (2013.10)

^{*} 北里大学東洋医学総合研究所

Hyuga S^{*1}, Hyuga M, Amakura Y^{*2}, Goda Y, Hanawa T^{*1} : Herbacetin in Ephedra herb suppresses motility and growth of cancer cells through inhibition of Met and Aurora kinase B.

第72回日本癌学会学術総会 (2013.10)

^{*1} 北里大学東洋医学総合研究所

^{*2} 松山大学薬学部

川崎ナナ：バイオ医薬品の糖鎖試験の現状と課題.

第24回クロマトグラフィー科学会議 (2013.11)

苑宇哲, 高林誠, 前田洋助^{*}, 原田信志^{*}, 遊佐敬介：ネコカリシウイルスの非宿主細胞における馴化について.

第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11)

^{*} 熊本大学大学院

中野雄介^{*}, 前田洋助^{*}, 門出和精^{*}, 寺沢広美^{*}, 遊佐敬介, 原田信志^{*} : HIV-1のcoreceptorのoligomer形成がHIV-1の感染感受性に与える影響.

第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11)

^{*} 熊本大学大学院

前田洋助^{*}, 寺沢広美^{*}, 光浦智将^{*}, 中野雄介^{*}, 門出和精^{*}, 遊佐敬介, 原田信志^{*} : ウイルス産生細胞におけるGLUT1発現によるHTLV-1エンベロープタンパク質融合能の現弱.

第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11)

^{*} 熊本大学大学院

Kawasaki N : Current situation and issues in Japanese Pharmacopoeia.

10th Annual Meeting of DIA Japan 2013 (2013.11)

Ishii A, Nishimura K, Kawasaki N : Regulated bioanalysis of therapeutic peptides and proteins in Japan.

Immunogenicity Summit 2013 (2013.11)

Nagase S^{*1}, Yamashita M^{*1}, Iida M^{*1}, Shirasago Y^{*2}, Fukasawa M^{*2}, Tada M, Ishii A, Watari A^{*1}, Yagi K^{*1}, Kondoh M^{*1} : Claudin-1-specific monoclonal antibodies and their inhibitory activity against hepatitis C virus infection.

IBC's 24th annual Antibody Engineering & Therapeutics (2013.12)

^{*1} 大阪大学

^{*2} 国立感染症研究所

Iida M^{*1}, Li X^{*1}, Kuniyasu H^{*2}, Fukasawa M^{*3}, Tada M, Ishii A, Watari A^{*1}, Yagi K^{*1}, Kondoh M^{*1} : Development of claudin-4-specific monoclonal antibodies and their anti-tumor activities.

IBC's 24th annual Antibody Engineering & Therapeutics (2013.12)

^{*1} 大阪大学

^{*2} 奈良県立医科大学

^{*3} 国立感染症研究所

Hashii N, Nakagawa N^{*}, Takakura D, Oka S^{*}, Kawasaki N : O-glycosylation analysis at Thr379 of α -dystroglycan from COS-1 cells by liquid chromatography/mass spectrometry.

International Symposium on Glyco-Neuroscience (2014.1)

* Graduate School of Medicine, Kyoto University

Midorikawa R^{*1}, Kandel MB^{*1}, Wakazono Y^{*1}, Kawasaki N, Oka S^{*2}, Takamiya K^{*1}: N-glycosylation modulates AMPA receptor channel properties. International Symposium on Glyco-Neuroscience (2014.1)

*¹ 宮崎大学大学院

*² 京都大学大学院

川崎ナナ：バイオ後続品の品質確保に係るレギュラトリーサイエンス上の課題。第11回レギュラトリーサイエンス学会シンポジウム (2014.2)

Ishii A: The Japanese Draft BMV Guideline for Ligand Binding Assay. 8th Workshop on Recent Issues in Bioanalysis (2014.3)

橋井則貴, 栗林亮佑, 太田悠葵, 原園景, 鈴木琢雄, 川崎ナナ：抗体医薬品親和性ペプチドのバイオアナリシスへの応用。日本薬学会第134年会 (2014.3)

原園景, 橋井則貴, 栗林亮佑, 柳原繁弘^{*1}, 西基宏^{*1}, 岡本寿美子^{*2}, 寺島勇^{*2}, 森啓太郎^{*3}, 山口秀人^{*3}, 佐藤貴之^{*4}, 村上弘次^{*5}, 岩田美紀^{*6}, 前田由貴子^{*6}, 前田瑛起^{*7}, 山田英丙^{*7}, 水野保子^{*8}, 岡野清^{*8}, 大庭澄明^{*9}, 川崎ナナ：酸性糖鎖の糖鎖試験法に関する研究。日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 協和発酵キリン(株)

*² 中外製薬(株)

*³ アステラス製薬(株)

*⁴ 大日本住友製薬(株)

*⁵ (一社) 日本血液製剤機構

*⁶ (株) 住化分析センター

*⁷ 武田薬品工業(株)

*⁸ (株) 東レリサーチセンター

*⁹ 持田製薬(株)

中澤志織, 橋井則貴, 川崎ナナ：水素／重水素交換および質量分析法を利用したtumor necrosis factor alpha (TNF α) アンタゴニストとTNF α の相互作用解析。日本薬学会第134年会 (2014.3)

鈴木琢雄, 宮崎ちひろ, 石井明子, 多田稔, 川崎ナナ：未分解抗体と分解物の分離イメージング法の開発と抗体医薬品の生体内分布解析。日本薬学会第134年会 (2014.3)

川東祐美^{*1}, 李相儒^{*1}, 國安弘基^{*2}, 多田稔, 石井明子, 深澤征義^{*3}, 渡利彰浩^{*1}, 近藤昌夫^{*1}, 八木清仁^{*1}：上皮を標的とした創薬基盤研究～Claudin-4抗体の作製および抗腫瘍活性解析～。日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 大阪大学

*² 奈良県立医科大学

*³ 国立感染症研究所

木村友香^{*1}, 李相儒^{*1}, 飯田愛未^{*1}, 多田稔, 石井明子, 國安弘基^{*2}, 深澤征義^{*3}, 渡利彰浩^{*1}, 近藤昌夫^{*1}, 八木清仁^{*1}：上皮を標的とした創薬基盤研究～Dual specific claudin-3/4抗体の動態特性および抗腫瘍活性解析～。日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 大阪大学

*² 奈良県立医科大学

*³ 国立感染症研究所

日向須美子^{*1}, 日向昌司, 好村守生^{*2}, 天倉吉章^{*2}, 合田幸広, 花輪壽彦^{*1}：HerbacetinによるMet及びAurora kinase Bのキナーゼ活性阻害を介した抗腫瘍効果。日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 北里大学東洋医学総合研究所

*² 松山大学薬学部

石井明子, 中村隆広^{*}：医薬品開発における生体試料中薬物濃度分析法 (リガンド結合法) バリデーションに関するガイドライン (案) の概要。第5回JBFシンポジウム (2014.3)

* (株) 新日本科学

石井明子, 多田稔, 鈴木琢雄, 川崎ナナ：次世代抗体医薬品の非臨床評価。日本薬学会第134年会 (2014.3)

太田悠葵, 橋井則貴, 原園景, 鈴木琢雄, 川崎ナナ：抗体医薬品の分子変化体モニターリングシステム。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

Kikura-Hanajiri R: An update on the situation of new drugs in Japan.

Third international multi-disciplinary forum on new drugs (2013.6)

永井智紀*, 花尻 (木倉) 瑠理, 菅野さな枝*, 鷺盛久*, 千葉正悦*, 竹下裕史*, 高田女里*, 河村麻衣子, 合田幸広, 向井敏二*: いわゆる「脱法ハーブ」吸入による急死の剖検例.

第97次日本法医学会学術全国集会 (2013.6)

* 聖マリアンナ医科大学

花尻 (木倉) 瑠理, 内山奈穂子, 合田幸広: 新規流通違法ドラッグの *in vitro* 活性評価について.

日本法中毒学会第32年会 (2013.7)

内山奈穂子, 松田諭, 花尻 (木倉) 瑠理, 合田幸広: 2012年度に実施した違法ドラッグ製品の流通実態調査結果について.

日本法中毒学会第32年会 (2013.7)

鈴木麻友*, 高山卓大*, 轟木堅一郎*, 井之上浩一*, 関俊哲*, 花尻 (木倉) 瑠理, 合田幸広, 豊岡利正*: ヒト肝ミクロソームを用いたUPLC-TQS-MS/MSによる違法ドラッグの代謝物探索研究.

第11回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム2013 (2013.8)

* 静岡県立大学薬学部

在間一将, 最所和宏, 丸山卓郎, 合田幸広: Dapoxetine および Flibanserin の LC-PDA-MS 分析.

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

渥美さやか, 鈴木隆太*¹, 高橋豊*², 袴塚高志, 合田幸広: 西洋ハーブの有効性・安全性及び品質評価に関する研究 (12) チェストツリー市場品の品質評価.

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

*¹ 日本大学生物資源科学部

*² エムエス・ソリューションズ(株)

渥美さやか, 牧野利明*¹, 伊藤美千穂*², 能勢充彦*³, 鄭美和, 三上正利*⁴, 柴原直利*⁵, 花輪壽彦*⁶, 一般用

漢方製剤委員会*⁷, 袴塚高志, 合田幸広: 一般用漢方製剤の安全性確保に関する研究(1): 「安全に使うための漢方処方確認票」の作成.

第30回和漢医薬学会学術大会 (2013.8)

*¹ 名古屋市立大学大学院薬学研究科

*² 京都大学大学院薬学研究科

*³ 名城大学薬学部

*⁴ ミカミ薬局

*⁵ 富山大学和漢医薬学総合研究所

*⁶ 北里大学東洋医学総合研究所

*⁷ 日本漢方生薬製剤協会

Kikura-Hanajiri R: The situation of new psychoactive substances in Japan.

International expert consultation on new psychoactive substances (2013.9)

Uchiyama N, Matsuda S, Kawamura M, Kikura-Hanajiri R, Goda Y: Two new designer drugs, MT-45 (I-C6) and Noopept (GVS-111), detected with a synthetic cannabinoid A-834735 in illegal products.

51st Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists (2013.9)

Saisho K, Kikura-Hanajiri R, Goda Y: Survey of the emergence of erectile dysfunction medicines and their related compounds adulterated to health food products in Japan for the last decade.

51st Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists (2013.9)

Kikura-Hanajiri R, Kawamura M, Kanno S*, Nagai T*, Takada M*, Mukai T*, Goda Y: Determination of MAM-2201 and its metabolites in a fatal case and the binding affinities of MAM-2201 at the cannabinoid CB1 and CB2 receptors.

51st Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists (2013.9)

* St. Marianna University School of Medicine

Kanno S*, Kikura-Hanajiri R, Sagi M*, Nagai T*, Chiba S*, Takeshita H*, Takada M*, Kawamura M, Goda Y, Mukai T*: A fatal case after smoking herb containing a synthetic cannabinoid MAM-2201.

51st Annual Meeting of the International Association of

Forensic Toxicologists (2013.9)

* St. Marianna University School of Medicine

渥美さやか, 牧野利明^{*1}, 伊藤美千穂^{*2}, 能勢充彦^{*3}, 鄭美和, 三上正利^{*4}, 柴原直利^{*5}, 花輪壽彦^{*6}, 一般用漢方製剤委員会^{*7}, 袴塚高志, 合田幸広: 一般用漢方製剤の安全性確保に関する研究(2): 「安全に使うための漢方処方の確認票」の作成.

日本生薬学会第60回年会 (2013.9)

^{*1} 名古屋市立大学大学院薬学研究科

^{*2} 京都大学大学院薬学研究科

^{*3} 名城大学薬学部

^{*4} ミカミ薬局

^{*5} 富山大学和漢医薬学総合研究所

^{*6} 北里大学東洋医学総合研究所

^{*7} 日本漢方生薬製剤協会

糸田幸恵, 勢ノ康代, 袴塚高志, 合田幸広: 新規漢方処方の品質規格に関する基礎的検討(15) 腸内細菌 *Clostridium difficile* の増殖を抑制する漢方処方について.

日本生薬学会第60回年会 (2013.9)

渥美さやか, 寺坂和祥^{*1}, 瀧野裕之^{*2}, 高橋豊^{*3}, 橋井則貴, 川崎ナナ, 水上元^{*1}, 川原信夫^{*2}, 袴塚高志, 合田幸広: イオンモビリティ分離技術を利用した生薬中の異性体成分の構造推定法に関する研究(2): 大黃中のアントラキノン配糖体について.

第55回天然有機化合物討論会 (2013.9)

^{*1} 名古屋市立大学大学院薬学研究科

^{*2} (独) 医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター

^{*3} エムエス・ソリューションズ(株)

Kikura-Hanajiri R, Uchiyama N, Kawamura M, Goda Y: The emerging of new synthetic cannabinoids and their binding affinities at the cannabinoid CB1 and CB2 receptors.

SOFT 2013 Annual Meeting (2013.10)

Uchiyama N, Kikura-Hanajiri R, Aritake K^{*1}, Goda Y, Urade Y^{*1,2}: Effects of MAM-2201 and α -PVP on electroencephalogram power spectra and locomotor activity in rats.

SOFT 2013 Annual Meeting (2013.10)

^{*1} 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

^{*2} (公財) 大阪バイオサイエンス研究所

河村麻衣子, 内山奈穂子, 花尻(木倉)瑠理, 合田幸広: 平成24年度違法ドラッグ製品の全国買い上げ調査について.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

最所和宏, 花尻(木倉)瑠理, 合田幸広: 平成24年度無承認無許可医薬品の買い上げ調査について - 強壯用健康食品等 -.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

渥美さやか, 牧野利明^{*1}, 伊藤美千穂^{*2}, 能勢充彦^{*3}, 鄭美和^{*4}, 三上正利^{*5}, 柴原直利^{*6}, 花輪壽彦^{*7}, 一般用漢方製剤委員会^{*8}, 袴塚高志, 合田幸広: 一般用漢方製剤の安全性確保に関する研究(3): 「安全に使うための漢方処方の確認票」の実用化に向けたアンケート調査.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1} 名古屋市立大学大学院薬学研究科

^{*2} 京都大学大学院薬学研究科

^{*3} 名城大学薬学部

^{*4} 北里大学生命科学研究科

^{*5} ミカミ薬局

^{*6} 富山大学和漢医薬学総合研究所

^{*7} 北里大学東洋医学総合研究所

^{*8} 日本漢方生薬製剤協会

鈴木麻友^{*}, 高山卓大^{*}, 轟木堅一郎^{*}, 井之上浩一^{*}, 関俊哲^{*}, 花尻(木倉)瑠理, 合田幸広, 豊岡利正^{*}: *in vitro* 試験におけるLC/MS/MSを用いた違法ドラッグの代謝物構造予測.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*} 静岡県立大学薬学部

釜谷奈未^{*}, 池田理恵^{*}, 瀨上由貴^{*}, 池田朝美^{*}, 花尻瑠理, 川上茂^{*}, 和田光弘^{*}, 中島憲一郎^{*}: エトカチノンおよびペンチロン単回投与時のマウス脳内アミン濃度に及ぼす影響評価.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*} 長崎大学大学院薬学研究科

大嶋直浩, 在間一将, 鎌倉浩之, 丸山卓郎, 合田幸広, 濱戸茜^{*1}, 山本豊^{*1}, 姜東孝^{*1}, 横倉胤夫^{*2}: ミャンマ

一産サンソウニン（酸棗仁）の特異的成分の同定について。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ (株) 栃本天海堂

*² 日本粉末薬品(株)

浅沼舞^{*1}, 山路誠一^{*1}, 伏谷眞二^{*1}, 若菜大悟, 丸山卓郎, 鎌倉浩之, 合田幸広, 杉村康司^{*2}, 飯田修^{*2}, 李昭瑩^{*3}: *Sida* 属植物の組織形態学的研究(5).

日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 日本薬科大学

*² (独) 医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター

*³ 中国医薬大学

緒方潤, 内山奈穂子, 花尻(木倉)瑠理, 合田幸広, 袴塚高志: 法規制植物のLAMPを用いた簡易検出法の検討. 日本薬学会第134年会 (2014.3)

坂上祐香*, 湯浅宗光, 合田幸広, 袴塚高志: 新規漢方処方品質規格に関する基礎的検討(16)半夏が有する抗炎症性サイトカインの発現増強活性.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 東京理科大学大学院薬学研究科

最所和宏, 花尻(木倉)瑠理, 合田幸広, 袴塚高志: インターネット買い上げ健康食品中の専ら医薬品成分含有調査.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

内山奈穂子, 有竹浩介^{*1}, 花尻(木倉)瑠理, 裏出良博^{*1,2}, 合田幸広, 袴塚高志: 新規流通違法ドラッグ成分である合成カンナビノイドのマウス自発運動量に及ぼす作用.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

*² (公財) 大阪バイオサイエンス研究所

河村麻衣子, 花尻(木倉)瑠理, 内山奈穂子, 最所和宏, 緒方潤, 合田幸広, 袴塚高志: 薬毒物試験法II-6. 大麻試験法6・2カンナビノイド受容体作動薬2. アミノアルキルインドール類(ナフトイルインドール類).

日本薬学会第134年会 (2014.3)

内山奈穂子, 有竹浩介^{*1}, 裏出良博^{*1,2}: 睡眠覚醒障害モデル動物リポカリン型プロスタグランジンD合成酵素及びアデノシンA2A受容体遺伝子欠損マウスの自発行動におけるカンナビノイドの作用.

第87回日本薬理学会年会 (2014.3)

*¹ 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

*² (公財) 大阪バイオサイエンス研究所

内田恵理子, 古田美玲, 菊池裕, 窪崎敦隆, 遊佐精一, 宮原美知子, 佐々木裕子^{*1}, 小原有弘^{*2}, 大谷梓^{*2}, 松山晃文^{*3}, 大倉華雪^{*3}, 山口照英: 日局参考情報「バイオテクノロジー応用医薬品/生物起源由来医薬品の製造に用いる細胞基材に対するマイコプラズマ否定試験」のPCR法の見直しに関する共同研究.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 国立感染症研究所

*² (独) 医薬基盤研究所

*³ (財) 先端医療振興財団

吉田徳幸, 井上貴雄, 内田恵理子, 小比賀聡*, 佐藤陽治: オフターゲット効果の安全性評価法の確立に向けた基盤研究.

第5回日本RNAi研究会 (2013.8)

* 大阪大学大学院薬学研究科

Yoshida T, Uchida E, Sasaki K, Obika S*, Sato Y, Inoue T: In Silico Analysis of Off-target Effects of Oligonucleotide Therapeutics.

9th Annual Meeting of the Oligonucleotide Therapeutics Society (2013.10)

* 大阪大学大学院薬学研究科

吉田徳幸, 内田恵理子, 小比賀聡*, 佐藤陽治, 井上貴雄: 核酸医薬品のオフターゲット効果に関する基盤研究. 第11回アンチセンスシンポジウム (2013.11)

* 大阪大学大学院薬学研究科

吉田徳幸, 内田恵理子, 小比賀聡*, 佐藤陽治, 井上貴雄: オフターゲット効果の安全性評価法の確立に向けた基盤研究.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 大阪大学大学院薬学研究科

佐藤光利*, 大木貴之*, 久保朋恵*, 佐藤陽治, 武藤里志*: ヒト間葉系幹細胞における免疫応答性に関する検討.

第87回日本薬理学会年会 (2014.3)

* 東邦大学

Sato Y: Tumorigenicity tests for human cell-processed therapeutic products.

IABS-JST Joint Workshop (2014.3)

佐藤陽治: 再生医療等製品の品質・安全性確保のための技術的課題.

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

佐藤陽治: ヒト多能性幹細胞加工製品に残存する未分化多能性幹細胞の高感度検出法の開発.

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

黒田拓也, 安田智, 草川森士, 松山さと子, 川真田伸*¹, 澤芳樹*², 佐藤陽治: デジタルPCRを用いたヒトiPS細胞由来分化細胞に残存する未分化iPS細胞の高感度検出法の開発.

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

*¹ 先端医療振興財団

*² 大阪大学

城しおり, 黒田拓也, 安田智, 草川森士, 佐藤陽治: ヒトiPS細胞の分化プロペンシティ予測のための細胞特性プロファイリング.

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

田埜慶子, 安田智, 梅澤明弘*, 佐藤陽治: ヒト多能性幹細胞由来再生医療製品中に混入する未分化細胞の高効率培養法の開発.

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

* 国立成育医療研究センター

Kuroda T, Yasuda S, Kusakawa S, Kawamata S*, Sato Y: Application of droplet digital PCR technology to detection of residual undifferentiated cells in cardiomyocytes derived from human iPS cells.

World Stem Cell Summit 2013 (2013.12)

* Foundation for Biomedical Research and innovation

Kusakawa S, Machida K*¹, Yasuda S, Takada N, Kuroda T, Sawada R, Matsuyama A*², Tsutsumi H*¹, Kawamata S*², Sato Y: Characterization of in vivo tumorigenicity test using severe immunodeficient NOD/Shi-scid IL2rgnull mice for quality assessment of human cell-processed therapeutic products.

World Stem Cell Summit 2013 (2013.12)

*¹ Central Institute for Experimental Animals

*² Foundation for Biomedical Research and innovation

Yasuda S: Application of digital PCR on quality assessment of products derived from human pluripotent stem cells.

Second Annual Droplet Digital PCR User Meeting (2013.10)

Sato Y: Japanese Regulatory Principles for Ensuring Quality and Safety of Cell/Tissue-Processed Products. World Summit on Regenerative Medicine 2013 (2013.10)

佐藤陽治: レギュラトリーサイエンスからみた再生医療実現への課題.

第8回レギュラトリーサイエンス学会シンポジウム (2013.10)

佐藤陽治: ヒトiPS細胞由来移植細胞中に残存する未分化細胞のin vitro検出法の開発.

第23回日本サイトメトリー学会学術集会 (2013.6)

Kusakawa S, Machida K*¹, Yasuda S, Kuroda T, Sawada R, Tsutsumi H*¹, Kawamata S*², Sato Y: Validation of in vivo tumorigenicity test for the process control of cell/tissue-engineered products using severe immunodeficient NOG mice.

International Society for Stem Cell Research 11 th Annual Meeting (2013.6)

*¹ Central Institute for Experimental Animals

*² Foundation for Biomedical Research and innovation

佐藤陽治: iPS創薬の鍵を握る細胞の品質管理.

バイオフィナンスギルド第11期第10回セミナー

(2013.5)

安田智：再生医療製品における品質・安全性試験の開発と評価。

第1回軟骨再生医療レギュラトリーサイエンスフォーラム (2013.4)

Suresh T, Oshizawa T, Maekawa K, Saito Y, Sato Y, Suzuki T: Improvement of rat urinary proteomics by a differential precipitation of proteins.

Human Proteome Organization 12th World Congress (2013.9)

Suzuki T, Suresh T, Oshizawa T, Maekawa K, Saito Y, Sato Y: Basic factors that influence the rat urinary proteome.

第13回国際毒性学会 (2013.7)

鈴木孝昌, Suresh T, 本間正充, 鈴木和博, 佐藤陽治：次世代DNAシーケンサーの染色体異常解析への応用。日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

Suresh T, 斎藤嘉朗, 本間正充, 佐藤陽治, 鈴木孝昌：ヘモグロビンアダクトーム：環境変異原に対する暴露マーカーとしての新しいアプローチ。

日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

降旗千恵*, 櫻井幹也*, 渡辺貴志*, 鈴木孝昌：Toxicogenomics/JEMS・MMS V: クリセン投与48時間後までのマウス肝臓における遺伝子発現変化。

日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

* 青山学院大学

Suzuki T, Suresh T, Yamada M, Honma M, Suzuki K, Sato Y: Use of the next generation sequencers for the evaluation of genomic integrity of cellular therapy products.

11th International Conference on Environmental Mutagens (2013.11)

齧島由二, 福井千恵, 山崎佳世^{*1}, 野村祐介, 小園知, 熊田秀文^{*2}, 藤澤彩乃^{*3}, 井上薫, 森川朋美, 市村亮平, 前田潤, 高橋美和, 河上強志, 伊佐間和郎, 柚場俊康^{*4}, 浜田信城^{*2}, 鄭雄一^{*3}, 小川久美子, 新見伸吾, 吉田緑：DEHP代替可塑剤を利用した新規血液バッグの開発：ラット精巣に及ぼすDOTPの影響評価。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 民生科学協会

*² 神奈川歯科大学

*³ 東京大学

*⁴ 川澄化学工業

齧島由二, 福井千恵, 澤田留美, 河野健, 野村祐介, 新見伸吾：ヒト骨髄由来間葉系幹細胞の増殖能に対する抗酸化剤の影響評価。

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

齧島由二, 福井千恵, 長部真博*, 上野良之*, 菅谷博之*, 棚橋一裕*, 野村祐介, 松岡厚子, 新見伸吾：ポリスルホン材料表面に吸着する蛋白質の網羅的比較定量解析：PVP含量と血液適合性の相関性について。

第35回日本バイオマテリアル学会大会 (2013.11)

* 東レ

齧島由二, 福井千恵, 田中賢*, 野村祐介, 松岡厚子, 新見伸吾：HEMA/MEAランダム共重合体表面に吸着する蛋白質の網羅的比較定量解析：血液適合性評価マーカーの選定について。

第35回日本バイオマテリアル学会大会 (2013.11)

* 山形大学

野村祐介, 河上強志, 福井千恵, 柚場俊康^{*1}, 新藤智子^{*2}, 坂口圭介^{*3}, 谷川隆洋^{*3}, 犬飼香織^{*3}, 竹ノ内美香^{*3}, 伊佐間和郎, 松岡厚子, 新見伸吾, 齧島由二：溶血性試験用陽性対照材料Genapol X-080含有PVCシートの性能評価。

第35回日本バイオマテリアル学会大会 (2013.11)

*¹ 川澄化学工業

*² 食品薬品安全センター

*³ テルモ

天野亮^{*1}, 野村祐介, 永田崇^{*2}, 森瑤子^{*1}, 福永淳一^{*3,4}, 田中陽一郎^{*3,4}, 片平正人^{*2}, 中村義一^{*3,5}, 神津知子^{*3,4}, 坂本泰一^{*1,3}：転写因子AML1を標的としたRNAアプタマーによるDNAの擬態。

日本ケミカルバイオロジー学会第8回年会 (2013.6)

*¹ 千葉工業大学

*² 京都大学

*³CREST

*⁴埼玉県立がんセンター

*⁵東京大学医科学研究所

天野亮^{*1}, 野村祐介, 永田崇^{*2}, 森瑤子^{*1}, 福永淳一^{*3,4},
田中陽一郎^{*3,4}, 片平正人^{*2}, 中村義一^{*3,5}, 神津知子^{*3,4},
坂本泰一^{*1,3}: 転写因子AML1タンパク質とRNAアプタ
マーの相互作用解析.

日本生化学会関東支部例会 (2013.6)

*¹千葉工業大学

*²京都大学

*³CREST

*⁴埼玉県立がんセンター

*⁵東京大学医科学研究所

Fukunaga J^{*1,2}, Nomura Y, Tanaka Y^{*1,2}, Tanaka T^{*1,3},
Nakamura Y^{*1,4}, Kawai G^{*3}, Sakamoto T^{*1,3}, Kozu T^{*1,2}:
The Runt domain of AML1(RUNX1) binds a sequence-
conserved RNA motif that mimics a DNA element.

The 18th Annual Meeting of the RNA Society (2013.6)

*¹CREST

*²Saitama Cancer Center

*³Chiba Institute of Technology

*⁴University of Tokyo Institute of Medical Science

Amano R^{*1}, Nomura Y, Nagata T^{*2}, Kobayashi N^{*3}, Mori
Y^{*1}, Fukunaga J^{*4,5}, Tanaka Y^{*4,5}, Katahira M^{*2},
Nakamura Y^{*4,6}, Kozu T^{*4,5}, Sakamoto T^{*1,4}: Mluti-site
binding of high affinity aptamer against AML1 Runt
domain.

The 40th International Symposium on Nucleic Acids
Chemistry (2013.11)

*¹Chiba Institute of Technology

*²Kyoto University

*³University of Osaka Institute for Protein
Research

*⁴CREST

*⁵Saitama Cancer Center

*⁶The University of Tokyo Institute of Medical
Science

天野亮^{*1}, 野村祐介, 永田崇^{*2}, 小林直宏^{*3}, 森瑤子^{*1},
福永淳一^{*4,5}, 田中陽一郎^{*4,5}, 片平正人^{*2}, 中村義一^{*4,6},
神津知子^{*4,5}, 坂本泰一^{*1,4}: 転写因子AML1に対して複

数の結合部位を持つ高親和性RNAアプタマーの解析.
第36回分子生物学会年会 (2013.12)

*¹千葉工業大学

*²京都大学

*³大阪大学蛋白質研究所

*⁴CREST

*⁵埼玉県立がんセンター

*⁶東京大学医科学研究所

Miyajima-Tabata A, Kato R, Sakai K, Matsuoka A:
Effects of culture on polymer biomaterials on the
cellular responses to chemicals.

Eurotox 2013 (2013.9)

宮島敦子, 加藤玲子, 小森谷薫, 新見伸吾: 生体適合性
高分子医用材料上で培養したマクロファージ系細胞の細
胞応答.

第35回日本バイオマテリアル学会大会 (2013.11)

宮島敦子, 河上強志, 加藤玲子, 酒井恵子, 小森谷薫,
新見伸吾, 伊佐間和郎: 酸化金属ナノマテリアルのA549
細胞に対する細胞毒性および遺伝毒性.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

加藤玲子, 佐藤正人^{*1}, 岡田恵里^{*1}, 阿久津英憲^{*2}, 小
久保舞美^{*1}, 河毛知子^{*1}, 宮島敦子, 梅澤明弘^{*2}, 持田
譲治^{*1}, 新見伸吾: 多指症由来軟骨細胞の同種T細胞に
およぼす影響.

第27回日本軟骨代謝学会 (2014.2)

*¹東海大学医学部

*²国立成育医療研究センター

加藤玲子, 齋島由二, 福井千恵, 澤田留美, 宮島敦子,
新見伸吾: 生体親和性高分子材料によるヒト骨髄由来間
葉系幹細胞の機能への影響(2): タンパク質発現の網羅
的解析.

第35回日本バイオマテリアル学会大会 (2013.11)

志田崇之^{*}, 小関弘展^{*}, 依田周^{*}, 堀内英彦^{*}, 尾崎誠^{*},
迫田秀行: チタン系金属生体人工材料の表面粗さと表皮
ブドウ球菌付着量の関係.

第36回日本骨・関節感染症学会 (2013.7)

* 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

志田崇之*, 小関弘展*, 依田周*, 堀内英彦*, 尾崎誠*, 迫田秀行: 表面酸化ジルコニウム合金への表皮ブドウ球菌付着性.

第28回日本整形外科学会基礎学術集会 (2013.10)

* 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

迫田秀行, 京本政之*, 井上祐貴*, 石原一彦*, 新見伸吾: 人工関節摺動面材料の形状変化に基づく新規摩耗量評価法の開発.

第40回日本臨床バイオメカニクス学会 (2013.11)

* 東京大学大学院工学研究科

迫田秀行, 新見伸吾: スクアレンに起因する超高分子量ポリエチレンの劣化機構の耐久性評価による検討.

第26回バイオエンジニアリング講演会 (2014.1)

迫田秀行, 新見伸吾, 菅野伸彦*: 抜去した股関節インプラントの超高分子量ポリエチレンコンポーネントに含まれる脂質の測定.

第44回日本人工関節学会 (2014.2)

* 大阪大学大学院医学系研究科

Sakoda H, Uetsuki K*, Niimi S: Effects of irradiation-crosslinking, vitamin E blending and accelerated ageing on the delamination resistance of ultra-high molecular weight polyethylenes.

Orthopaedic Research Society, 60th Annual Meeting, 60, 1871 (2014.3)

* Nakashima Medical Co., Ltd.

Sawada R, Kono K, Isama K, Haishima Y, Matsuoka A: The effect of calcium-incorporated titanium surfaces on the osteogenic differentiation of human mesenchymal stem cells.

11th Annual Meeting of International Society for Stem Cell Research (2013.6)

Kono K, Sawada R, Matsuoka A: Overexpression of cyclin D2 promotes cell proliferation of human mesenchymal stem cells.

11th Annual Meeting of International Society for Stem Cell Research (2013.6)

Kusakawa S, Machida K*, Yasuda S, Kuroda T, Sawada R, Tsutsumi H*, Kawamata S*, Sato Y: Validation of in vivo tumorigenicity test for the process control of cell/tissue-engineered products using severe immunodeficient NOG mice.

11th Annual Meeting of International Society for Stem Cell Research (2013.6)

* Central Institute for Experimental Animals

澤田留美, 河野健, 加藤玲子, 新見伸吾: 生体親和性高分子によるヒト骨髄由来間葉系幹細胞の機能への影響 (1): 遺伝子発現の網羅的解析.

第35回日本バイオマテリアル学会大会 (2013.11)

河野健, 澤田留美, 新見伸吾: 間葉系幹細胞におけるレトロトランスポジションの解析とその影響に関する研究.

第36回日本分子生物学会年会 (2013.12)

Kusakawa S, Machida K*¹, Yasuda S, Takada N, Kuroda T, Sawada R, Matsuyama A*², Tsutsumi H*¹, Kawamata S*¹, Sato Y: Characterization of in vivo tumorigenicity test using severe immunodeficient NOG mice for quality assessment of human cell-processed therapeutic products.

World Stem Cell Summit 2013 (2013.12)

*¹ Central Institute for Experimental Animals

*² Foundation for Biomedical Research and Innovation

河野健, 澤田留美, 新見伸吾: 間葉系幹細胞の増殖培養過程における品質評価のための遺伝子発現解析.

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

河野健, 新見伸吾, 澤田留美: 間葉系幹細胞におけるレトロトランスポジションの解析とその影響に関する研究.

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

佐々木寛人*¹, 蟹江慧*¹, 澤田留美, 清田泰次郎*², 本多裕之*¹, 加藤竜司*¹: 間葉系幹細胞の継代培養における品質劣化の細胞形態と発現プロファイリングとの相関解析.

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

*¹ 名古屋大学

*² (株)ニコン

佐々木寛人^{*1}, 高橋厚妃^{*1}, 蟹江慧^{*1}, 竹内一郎^{*2}, 澤田留美, 清田泰次郎^{*3}, 本多裕之^{*1}, 加藤竜司^{*1}: 細胞画像情報解析による間葉系幹細胞分化能の品質プロファイリング.

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

^{*1} 名古屋大学

^{*2} 名古屋工業大学

^{*3} (株)ニコン

Nakaoka R: Activities of standardization for tissue-engineered medical products in International Organization for Standardization (ISO).

TERMIS-AP 2013 Annual Conference, Wuzhen, China (2013.10)

中岡竜介, 比留間瞳, 靛島由二, 新見伸吾: SAMを利用したベタイン構造膜表面調製とその構造に関する研究. 第35回日本バイオマテリアル学会大会 (2013.11)

中岡竜介: 再生医療分野における国際標準化の現状とその展望について.

第13回日本再生医療学会総会 (2014.3)

安里権也^{*}, 岩崎清隆^{*}, 高橋泰浩^{*}, 植松美幸, 中岡竜介, 新見伸吾, 梅津光生^{*}: 分枝付ヒト弓部大動脈瘤モデルにおける開窓型ステントグラフトの3次元留置過程の計測.

第26回バイオエンジニアリング講演会 (2014.1)

^{*} 早稲田大学TWIns

高橋泰浩^{*}, 岩崎清隆^{*}, 安里権也^{*}, 植松美幸, 中岡竜介, 新見伸吾, 梅津光生^{*}: 弾性を有するヒト弓部大動脈瘤モデルを用いた胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術におけるデリバリーシースの走行形状の検討.

第26回バイオエンジニアリング講演会 (2014.1)

^{*} 早稲田大学TWIns

Uematsu M, Haishima Y, Nakaoka R, Niimi S, Segawa K, Nakano T: A Novel Evaluation Methodology of Materials for Medical Devices Based on Molecular Dynamics Simulation.

15th International Conference on Biomedical Engineering (2013.12)

植松美幸, 靛島由二, 中岡竜介, 新見伸吾, 瀬川勝智, 中野達也: 血液適合性評価のための中間水同定シミュレーション.

第35回日本バイオマテリアル学会大会 (2013.11)

植松美幸: 手術ナビゲーションから評価型シミュレーションへの展開~レギュラトリーサイエンスへの貢献に向けて~.

日本生体医工学会専門別研究会第6回医療機器に関するレギュラトリーサイエンス研究会 (2013.10)

植松美幸, 此枝央人^{*1}, 櫻井裕之^{*1}, 正宗賢^{*2}, 中岡竜介, 新見伸吾, 鈴木孝司^{*3}, 村垣善浩^{*3}, 伊関洋^{*3}: 皮弁挙上時の血管走行把握を支援するナビゲーションの誤差検討.

第22回日本コンピュータ外科学会大会 (2013.9)

^{*1} 東京女子医科大学形成外科

^{*2} 東京大学大学院情報理工学系研究科

^{*3} 東京女子医科大学先端生命医科学研究所

Muragaki Y^{*1}, Uematsu M, Iseki H^{*1}, Umezu M^{*2}: Analysis of Risk-Benefit Balance of Decision-making of the Regulatory Agency of FDA for Market Approval of Therapeutic Medical Devices.

生体医工学シンポジウム2013 (2013.9)

^{*1} 東京女子医科大学

^{*2} 早稲田大学

Nie J^{*1}, Kamiuchi H^{*1}, Uematsu M, Konoeda H^{*2}, Sakurai H^{*2}, Masamune K^{*2}: User Interface Design and Accuracy Evaluation in an Overlay System with Tablet PC.

The 9th Asian Conference on Computer Aided Surgery (2013.9)

^{*1} IST, the University of Tokyo

^{*2} Tokyo Women's Medical University

植松美幸, 靛島由二, 中岡竜介, 新見伸吾, 中野達也, 瀬川勝智: 医用高分子材料表面の水和状態に関する分子動力的解析 (第2報).

第42回医用高分子シンポジウム (2013.11)

Uematsu M, Asato K^{*1}, Ichihashi T^{*1}, Umezu M^{*1}, Nakaoka R, Matsuoka A, Aomi S^{*2}, Iimura H^{*2}, Suzuki

T^{*2}, Muragaki Y^{*2}, Iseki H^{*2}: A Surgical Navigation System for Aortic Vascular Surgery: A Practical Approach.

The 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (2013.7)

*¹早稲田大学TWIns

*²東京女子医科大学

内野正, 竹澤俊明^{*1}, 山下邦彦^{*2}, 小島肇, 清水久美子, 秋山卓美, 五十嵐良明: Development of skin sensitization test method utilizing THP-1 cells cultured on a collagen vitrigel membrane chamber.

日本組織培養学会第86回大会 (2013.5)

*¹農業生物資源研究所

*²(株)ダイセル

田原麻衣子, 小濱とも子, 五十嵐良明: 香粧品中1,4-dioxane分析法の開発および製品の定量.
第38回日本香粧品学会 (2013.6)

香川(田中)聡子, 中森俊輔^{*1}, 大河原晋^{*2}, 岡元陽子, 真弓加織, 小林義典^{*1}, 五十嵐良明, 神野透人: 抗菌剤 Isothiazoline誘導体によるTRPイオンチャネルの活性化.
第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

*¹北里大学

*²九州保健福祉大学

内野正, 竹澤俊明^{*1}, 山下邦彦^{*2}, 小島肇, 清水久美子, 秋山卓美, 五十嵐良明: ビトリゲルチャンバーを培養担体とする皮膚感作性試験代替モデルの開発.
第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

*¹農業生物資源研究所

*²(株)ダイセル

小林憲弘, 沼野琢旬^{*1,2}, 中島弘尚^{*1}, 河部真弓^{*1}, 久保田領志, 広瀬明彦: 妊娠マウスを用いた気管内投与による多層カーボンナノチューブの生殖・発生毒性の評価.
第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

*¹DIMS医科学研究所

*²名古屋市立大学大学院

伊佐間和郎, 河上強志, 宮島敦子, 松岡厚子: 金属塩の

細胞毒性に及ぼすSiO₂及びTiO₂ナノ粒子の影響.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

小濱とも子, 五十嵐良明, 清水久美子, 内野正, 秋山卓美: LLNA:DA法及びh-CLAT法を用いたアクリレート及びメタクリレートの感作性評価.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

五十嵐良明: ナノマテリアルの経皮暴露評価.

第40回日本毒性学会学術年会シンポジウム (2013.6)

小林憲弘: 水質汚染事故時の対応について - 分析法の観点から -.

第22回環境化学討論会 (2013.7)

小林憲弘, 久保田領志, 浅見真理^{*}, 五十嵐良明: 水道水中のホルムアルデヒド簡易・迅速分析法の妥当性評価.

第22回環境化学討論会 (2013.7)

* 国立保健医療科学院

小林憲弘, 久保田領志, 塚本多矩^{*}, 五十嵐良明: 水道水中のホルムアルデヒド前駆物質のLC/MS/MS一斉分析法の開発.

第22回環境化学討論会 (2013.7)

* 島津製作所

久保田領志, 小林憲弘, 田原麻衣子, 杉本直樹, 五十嵐良明: 固相抽出-LC/MSによる水道水中フェノール及びクロロフェノール類の分析法の検討.

第22回環境化学討論会 (2013.7)

河上強志, 伊佐間和郎, 五十嵐良明: PVA製冷感タオル類中のイソチアゾリノン系防腐剤の実態.

第22回環境化学討論会 (2013.7)

河上強志, 伊佐間和郎, 岩田直樹^{*}, 高菅卓三^{*}, 五十嵐良明: 家庭用品に含まれる有機顔料由来PCBsの実態調査.

第22回環境化学討論会 (2013.7)

* (株)島津テクノリサーチ

Jinno H, Ohkawara S^{*}, Okamoto Y, Mayumi K, Tahara M, Ikarashi Y, Tanaka-Kagawa T: Isothiazolinone preservatives activate the sensory ion channels human

TRPA1 and TRPV1.
The XIII International Congress of Toxicology (2013.7)

* Kyushu University of Health and Welfare

Tanaka-Kagawa T, Okamoto Y, Mayumi K, Tahara M, Ikarashi Y, Jinno H: Variation in mRNA levels of TRPA1 and TRPV1 in human airway tissues.
The XIII International Congress of Toxicology (2013.7)

Isama K, Kawakami T, Miyajima A, Matsuoka A: Effect of SiO₂ and TiO₂ nanoparticles on the cytotoxicity of metal chlorides.

7th International Conference on Materials for Advanced Technology (2013.7)

神野透人, 岡元陽子, 伊東大我^{*1}, 前田成美^{*2}, 真弓加織, 田原麻衣子, 五十嵐良明, 香川(田中)聡子: 室内空气中総揮発性有機化合物の日内変動: 半導体式VOC検出器による評価.

フォーラム2013 衛生薬学・環境トキシコロジー (2013.9)

^{*1} 東京医薬専門学校

^{*2} 東京バイオテクノロジー専門学校

香川(田中)聡子, 中森俊輔^{*1}, 大河原晋^{*2}, 岡元陽子, 真弓加織, 田原麻衣子, 小林義典^{*1}, 五十嵐良明, 神野透人: 室内環境化学物質による侵害刺激.

フォーラム2013 衛生薬学・環境トキシコロジー (2013.9)

^{*1} 北里大学

^{*2} 九州保健福祉大学

鬼無悠^{*1}, 埴岡伸光^{*2}, 香川(田中)聡子, 神野透人, 成松鎮雄^{*1}: フタル酸モノ-2-エチルヘキシルの抱合反応に関与するヒトUDP-グルクロン酸転移酵素分子種.

フォーラム2013 衛生薬学・環境トキシコロジー (2013.9)

^{*1} 岡山大学

^{*2} 横浜薬科大学

河上強志, 伊佐間和郎, 五十嵐良明: PVA製冷感タオル中イソチアゾリノン系防腐剤の健康リスク評価.

フォーラム2013 衛生薬学・環境トキシコロジー (2013.9)

Isama K, Kawakami T, Matsuoka A*: Surface characteristics and apatite-forming ability of calcium-

incorporating titanium.

25th European Conference on Biomaterials (2013.9)

* PMDA

Uchino T, Shimizu K, Yamashita K^{*1}, Kojima H, Takezawa, T^{*2}, Akiyama T, Ikarashi Y: Development of the skin sensitization test method utilizing THP-1 cells cultured on a collagen vitrigel membrane chamber.

49th Congress of the European Societies of Toxicology (2013.9)

^{*1} Daicel Corporation

^{*2} National Institute of Agrobiological Sciences

五十嵐良明, 久保田領志, 小林憲弘, 田原麻衣子, 杉本直樹, 安藤正典^{*1}, 小嶋隼^{*2}, 尾川毅^{*2}: 平成24年度水道水質検査精度管理のための統一試料調査の結果および留意点について.

日本水道協会平成25年度全国会議(水道研究発表会) (2013.10)

^{*1} 山梨大学

^{*2} 厚生労働省

久保田領志, 小林憲弘, 田原麻衣子, 今村悠佑^{*1}, 木村謙治^{*1}, 小林利男^{*2}, 齋藤信裕^{*3}, 杉本智美^{*4}, 林広宣^{*5}, 古谷智仁^{*6}, 舟洞健二^{*2}, 三枝慎一郎^{*7}, 山田義隆^{*8}, 杉本直樹, 西村哲治^{*9}, 五十嵐良明: 固相抽出-誘導体化GC/MS法によるEDTA検査法の妥当性評価.

日本水道協会平成25年度全国会議(水道研究発表会) (2013.10)

^{*1} 福岡地区水道企業団

^{*2} 東京都水道局

^{*3} 仙台市水道局

^{*4} 名古屋市上下水道局

^{*5} 大阪市水道局

^{*6} 横浜市水道局

^{*7} 広島市水道局

^{*8} 千葉県水道局

^{*9} 帝京平成大学

小林憲弘, 久保田領志, 田原麻衣子, 木村謙治^{*1}, 林広宣^{*2}, 山田義隆^{*3}, 小林利男^{*4}, 舟洞健二^{*4}, 三枝慎一郎^{*5}, 古谷智仁^{*6}, 杉本智美^{*7}, 五十嵐良明: 固相抽出

-GC/MSによる水道水中農薬類の一斉分析法の妥当性評価.

日本水道協会平成25年度全国会議(水道研究発表会)(2013.10)

*¹福岡地区水道企業団

*²大阪市水道局

*³千葉県水道局

*⁴東京都水道局

*⁵広島市水道局

*⁶横浜市水道局

*⁷名古屋市上下水道局

神野透人, 岡元陽子, 真弓加織, 田原麻衣子, 香川(田中)聡子, 五十嵐良明: カーペットから放散される揮発性・準揮発性有機化合物に関する研究-室内環境への負荷量の予測-.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

香川(田中)聡子, 真弓加織, 岡元陽子, 田原麻衣子, 神野透人, 五十嵐良明: 消費生活用製品に使用されるイソチアゾリン系抗菌剤による気道刺激性に関する研究.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

田原麻衣子, 小濱とも子, 五十嵐良明: 界面活性剤配合製品中の1,4-ジオキサン分析法の検討.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

秋山卓美, 植野麻美, 清水久美子, 内野正, 田原麻衣子, 五十嵐良明: 化粧品・医薬部外品に配合される防腐剤のqNMR等による定量.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

久保田領志, 小林憲弘, 田原麻衣子, 杉本直樹, 五十嵐良明: 水道水質検査精度管理のための統一試料調査: 平成24年度の結果及び留意点について.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

小林憲弘, 久保田領志, 五十嵐良明: LC/MS/MSを用いた水道水中のアルデヒド前駆物質の一斉分析法の開発.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

河上強志, 伊佐間和郎, 岩田直樹*, 高菅卓三*, 五十嵐良明: 有機顔料に由来するポリ塩化ビフェニル(PCBs)の家庭用品中での実態.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

* (株)島津テクノリサーチ

河上強志, 伊佐間和郎, 五十嵐良明: PVA製タオルに使用されたイソチアゾリン系防腐剤の実態について.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

河上強志, 伊佐間和郎, 五十嵐良明: 欧州の違反事例からみたアゾ染料由来の特定芳香族アミン類の検出傾向.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

伊佐間和郎, 河上強志, 五十嵐良明: 携帯型空間除菌剤によって化学熱傷を引き起こす事故について.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

伊佐間和郎, 三友優花*, 河上強志, 五十嵐良明: 金属塩の細胞毒性に及ぼすSiO₂およびTiO₂ナノ粒子の影響.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

* 北里大学

小濱とも子, 五十嵐良明: 化粧品中の微量鉛不純物の分析法設定に関する検討.

第50回全国衛生化学技術協議会年会(2013.11)

伊佐間和郎, 河上強志, 松岡厚子*: カルシウム導入したチタンの表面特性とアパタイト形成能.

第35回日本バイオマテリアル学会大会(2013.11)

* 医薬品医療機器総合機構

神野透人, 大河原晋*, 岡元陽子, 田原麻衣子, 川原陽子, 真弓加織, 五十嵐良明, 香川(田中)聡子: 柔軟剤中の香料による気道刺激に関する研究.

平成25年室内環境学会学術大会(2013.12)

* 九州保健福祉大学

香川(田中)聡子, 大河原晋*, 田原麻衣子, 岡元陽子, 川原陽子, 真弓加織, 五十嵐良明, 神野透人: 家庭用品中の抗菌剤による気道刺激に関する研究.

平成25年室内環境学会学術大会(2013.12)

* 九州保健福祉大学

岡元陽子, 伊東大我*¹, 前田成美*², 真弓加織, 川原陽子, 田原麻衣子, 香川(田中)聡子, 五十嵐良明, 神野透人: 室内空気中総揮発性有機化合物濃度の評価方法に

関する研究：瞬時値と24時間平均値の比較。
平成25年室内環境学会学術大会（2013.12）

*¹ 東京医薬専門学校

*² 東京バイオテクノロジー専門学校

田原麻衣子, 岡元陽子, 香川（田中）聡子, 真弓加織,
川原陽子, 神野透人, 五十嵐良明：カーペットから放散
される揮発性有機化合物の簡易試験法に関する研究。
平成25年室内環境学会学術大会（2013.12）

斎藤育江*, 大貫文*, 神野透人, 香川（田中）聡子, 保
坂三継*, 中江大*: 住宅ハウスダスト中の臭素系難燃剤。
平成25年室内環境学会学術大会（2013.12）

* 東京都健康安全研究センター

内野正, 清水久美子, 竹澤俊明*¹, 山下邦彦*², 小島肇,
秋山卓美, 五十嵐良明：ビトリゲルチャンバーを用いた
皮膚感作性試験代替モデル（下面暴露法）。
日本動物実験代替法学会第26回大会（2013.12）

*¹ 農業生物資源研究所

*² (株)ダイセル

河上強志, 伊佐間和郎, 五十嵐良明：PVA製冷感タオル
中のイソチアゾリノン系防腐剤について。
第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大
会（2013.12）

五十嵐良明, 田原麻衣子, 小濱とも子, 林正人*¹, 安田
純子*², 武知めぐみ*³, 久世哲也*⁴, 高野勝弘*⁵, 宮澤
法政*⁶, 小島尚*⁷, 坂口洋*⁸, 藤井まき子*⁹：生活用品
試験法 化粧品試験法 1,4-ジオキサン。

日本薬学会第134年会（2014.3）

*¹ (株)資生堂

*² (株)コーセー

*³ ポーラ化成工業(株)

*⁴ (株)カネボウ化粧品

*⁵ 日本化粧品工業連合会

*⁶ 埼玉県衛生研究所

*⁷ 帝京科学大学

*⁸ 北里大学

*⁹ 昭和薬科大学

藤井まき子*, 佐藤あんな*, 増田年紀*, 小泉直也*, 渡

辺善照*, 五十嵐良明, 穂山浩：Popliteal lymph node
assay (PLNA法) によるコチニール色素の抗原性評価と
その問題点。

日本薬学会第134年会（2014.3）

* 昭和薬科大学

神野透人, 岡元陽子, 真弓加織, 田原麻衣子, 川原陽子,
小島弘幸*¹, 武内伸治*¹, 齋藤育江*², 上村仁*³, 五十
嵐良明, 香川（田中）聡子：化学イオン化GC/MS/MSに
よるハウスダスト中準揮発性有機化合物の解析。

日本薬学会第134年会（2014.3）

*¹ 北海道立衛生研究所

*² 東京都健康安全研究センター

*³ 神奈川県衛生研究所

香川（田中）聡子, 大河原晋*, 岡元陽子, 真弓加織,
田原麻衣子, 川原陽子, 五十嵐良明, 神野透人：衣料用
柔軟仕上げ剤中の香料成分によるヒト侵害受容体TRPA1
の活性化。

日本薬学会第134年会（2014.3）

* 九州保健福祉大学

田原麻衣子, 香川（田中）聡子, 岡元陽子, 杉山寛治*¹,
五十嵐良明, 倉文明*², 神野透人：LC/MS/MSを用いた
直接分析法による水中のハロ酢酸類の定量。

日本薬学会第134年会（2014.3）

*¹ (株)マルマ

*² 国立感染症研究所

武内伸治*¹, 神和夫*¹, 佐藤正幸*¹, 小林智*¹, 小島弘
幸*¹, 齋藤育江*², 上村仁*³, 香川（田中）聡子, 神野
透人：居住住宅における室内空気中の可塑剤及び有機リ
ン系難燃剤の分別定量。

日本薬学会第134年会（2014.3）

*¹ 北海道立衛生研究所

*² 東京都健康安全研究センター

*³ 神奈川県衛生研究所

秋山卓美, 清水久美子, 藤巻日出夫, 内野正, 五十嵐良
明：Rhododendrol及びraspberry ketoneの細胞毒性発現
機構。

日本薬学会第134年会（2014.3）

味村真弓*, 中島晴信*, 吉田仁*, 吉田俊明*, 河上強志, 伊佐間和郎: 有害物質含有家庭用品規制法で規制されている繊維製品中のトリス (2,3-ジプロモプロピル) ホスフェイト (TDBPP) 分析法の改定に向けた検討.
日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 大阪府立公衆衛生研究所

河上強志, 宮島敦子, 小森谷薫, 加藤玲子, 伊佐間和郎: NiOナノ粒子の細胞毒性に及ぼす懸濁液中の二次粒子径の影響.
日本薬学会第134年会 (2014.3)

伊佐間和郎, 河上強志, 五十嵐良明: 化学熱傷を起こした携帯型空間除菌剤について.
日本薬学会第134年会 (2014.3)

片岡洋平, 渡邊敬浩, 石川智子, 松田りえ子: ミネラルウォーター中のホルムアルデヒド, ジクロロアセトニトリル, フタル酸エステル分析法の検討.
第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

菊地博之, 渡邊敬浩, 赤木浩一*, 松田りえ子: 魚介類中のメチル水銀を対象としたGC-MS法の改良.
第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

* 福岡市保健環境研究所

堤智昭, 足立利華, 松田りえ子: 燻製食品中の多環芳香族炭化水素の分析.
第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

鍋師裕美, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 松田りえ子: 食品中の放射性ストロンチウムと放射性セシウム存在比について.
第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

湯浅友太郎*, 渡邊文子*, 水越一史*, 中村宗知*, 根本了: LC-MS/MSによる農産物中の1-ナフタレン酢酸試験法の検討.
第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

* (財)日本食品分析センター

上野英二*, 井上知美*, 大野春香*, 渡辺美奈恵*, 猪飼誉友*, 森下智雄*, 根本了, 松田りえ子: サロゲート物質を用いたデュアルカラムGC-MSによる食品中残留農薬の多成分分析.

第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

* 愛知県衛生研究所

松田りえ子: 食品中の放射性セシウム濃度と調理による影響.
環境放射能除染学会 (2013.6)

堤智昭, 天倉吉章*¹, 中村昌文*², 半田洋士*², 松田りえ子, 手島玲子: 高感度CALUXアッセイによる市販魚中ダイオキシン類のスクリーニング法の開発.
第22回環境化学討論会 (2013.7)

*¹ 松山大学薬学部

*² (株)日吉

鍋師裕美, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 中村里香, 松田りえ子, 手島玲子: 市販流通食品中の放射性セシウム検査～平成24年度流通食品検査のまとめ～.
第22回環境化学討論会 (2013.7)

Tsutsumi T, Amakura Y*¹, Nakamura M*², Handa H*², Denison MS*³, Matsuda R, Teshima R: Highly Sensitive CALUX Assay for Screening Dioxins in Retail Fish. The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2013.8)

*¹ Matsuyama University

*² Hiyoshi Corporation

*³ University of California, Davis

Takahashi K*, Nakagawa R*, Kajiwara J*, Ashizuka Y*, Yasutake D*, Watanabe T, Tsutsumi T, Matsuda R: Determination of Brominated Flame Retardants in Food Samples of Japan. The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2013.8)

* Fukuoka Institute of Health and Environmental Sciences

天倉吉章*¹, 好村守生*¹, 奈須祐樹*¹, 堤智昭, 松田りえ子, 手島玲子, 中村昌文*², 半田洋士*², 吉田隆志*¹: ブロッコリーに含まれるAhR活性化成分.
日本生薬学会第60回年会 (2013.9)

*¹ 松山大薬学薬学部

*² (株)日吉

森末千尋*¹, 好村守生*¹, 山上沙織*¹, 堤智昭, 松田りえ子, 手島玲子, 中村昌文*², 半田洋士*², 吉田隆志*¹, 天倉吉章*¹: カッコニに含まれる天然AhRリガンドの探索研究.

第52回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 (2013.10)

*¹松山大薬学薬学部

*² (株)日吉

手島玲子, 中村亮介, 中村里香, 酒井信夫, 安達玲子: 加水分解小麦による小麦アレルギー発症の基礎的検討. 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会 (2013.11)

中村政志*¹, 矢上晶子*¹, 相原道子*², 森田栄伸*³, 秀道広*⁴, 手島玲子, 松永佳世子*¹: ELISA法によるグールパール19S特異IgE抗体評価の有用性評価.

第63回日本アレルギー学会秋季学術大会 (2013.11)

*¹藤田保健衛生大学医学部皮膚科学

*²横浜市立大学医学部皮膚科学

*³鳥根大学医学部皮膚科学

*⁴広島大学医学部皮膚科学

中村政志*¹, 矢上晶子*¹, 相原道子*², 森田栄伸*³, 秀道広*⁴, 手島玲子, 松永佳世子*¹: ELISA法によるグールパール19S特異IgE抗体評価を施行した全症例のまとめ.

第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (2013.11)

*¹藤田保健衛生大学医学部皮膚科学

*²横浜市立大学医学部皮膚科学

*³鳥根大学医学部皮膚科学

*⁴広島大学医学部皮膚科学

佐々木和実*, 西嶋桂子*, 安宅花子*, 酒井信夫, 手島玲子: 小麦グルテンの酸加水分解時間による分子量分布・脱アミド化率の変化.

第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (2013.11)

* (独)製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター

片岡洋平, 渡邊敬浩, 林智子, 手島玲子: ミネラルウオ

ーター中の陰イオン性化合物及び元素濃度の実態調査. 第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

齊藤静夏, 根本了, 松田りえ子, 手島玲子: LC-MS/MSを用いた茶熱湯浸出液中の残留農薬一斉分析法.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

齊藤静夏, 根本了, 松田りえ子, 手島玲子: 超臨界流体抽出及びGC-MS/MSを用いた野菜・果実中の残留農薬一斉分析の検討.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

坂井隆敏, 根本了, 手島玲子: 畜水産物の試料調製中に起こり得る農薬等の分解抑制方法の検討.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

高附巧, 堤智昭, 前田朋美, 松田りえ子, 手島玲子: 冷凍・レトルト食品中の塩素化ダイオキシン類実態調査.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

堤智昭, 足立利華, 渡邊敬浩, 松田りえ子, 手島玲子: 燻製食品中の多環芳香族炭化水素の含有実態調査.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

鍋師裕美, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 中村里香, 松田りえ子, 手島玲子: 平成24年度における市販流通食品中の放射性セシウム検査のまとめ.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

渡邊敬浩, 片岡洋平, 石川智子, 松田りえ子, 手島玲子: 食品中の有害物質分析法妥当性確認ガイドラインの検討.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

松田りえ子, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 鍋師裕美, 手島玲子: 都道府県等が実施した食品中の放射性物質検査結果の解析.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

植草義徳, 鍋師裕美, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 松田りえ子, 手島玲子: 食品を介した放射性物質の摂取量の推定.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

片岡洋平, 渡邊敬浩, 林智子, 蜂須賀暁子, 手島玲子: 東日本大震災・津波被害地域における食品中の金属類濃度実態調査.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

齊藤静夏, 根本了, 手島玲子: LC-QTOF-MSを用いた野菜・果実中の残留農薬一斉分析の検討.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

堤智昭, 足立利華, 渡邊敬浩, 松田りえ子, 手島玲子: 燻製食品中に含まれる多環芳香族炭化水素の実態調査.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

鍋師裕美, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 松田りえ子, 手島玲子: わかさぎ中放射性セシウムの調理による除去効果に関する検討.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

渡邊敬浩, 片岡洋平, 五十嵐敦子, 高橋哲夫^{*1}, 清水正法^{*2}, 高津和弘^{*3}, 寺田久屋^{*4}, 小林博美^{*5}, 中村雅子^{*6}, 石川順子^{*7}, 山本雄三^{*8}, 古謝あゆ子^{*9}, 松田りえ子, 手島玲子: 有害物質摂取量の推移と今後の推定について.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

*¹ 北海道立衛生研究所

*² 新潟県保健環境科学研究所

*³ 横浜市衛生研究所

*⁴ 名古屋市衛生研究所

*⁵ 滋賀県衛生科学センター

*⁶ 福井県衛生環境研究センター

*⁷ 香川県環境保健研究センター

*⁸ 宮崎県衛生環境研究所

*⁹ 沖縄県衛生環境研究所

松田りえ子, 渡邊敬浩, 五十君静信, 手島玲子, 蜂須賀暁子: 種々の分布を持つロットからのサンプリングにおけるサンプリングプランと誤判定率の関係.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

石井里枝*, 高橋邦彦*, 根本了, 松田りえ子: LC-MS/MSによる農産物及び畜水産物中のプロピリスルフロンの分析法の開発.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* 埼玉県衛生研究所

宮脇栄子*, 福沢栄太*, 飯塚誠一郎*, 中村宗知*, 根本了: LC-MS/MSによる畜水産物中のオラキンドックス及びカルバドックス分析法の検討.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* (財)日本食品分析センター

Satoh R*, Kameyama M*, Teshima R: Identification of IgE-binding proteins in buckwheat.

5th International Symposium on Molecular Allergology (2013.12)

* NARO Food Research Institute, Analytical Science Division

Akiyama H: Food additive regulations in Japan. 245th American Chemical Society (ACS) National Meeting and Exposition (2013.4)

Akiyama H: An update on regulation of food additive in Japan.

The 80th Annual Meeting of Korean Society of Food Science and Technology (KoSFoST) (2013.8)

穂山浩: アルミニウムの摂取量.

第29回食品化学シンポジウム (2013.10)

穂山浩, 海老澤元宏*: 低分子化合物の食物アレルギー. 第50回日本小児アレルギー学会 (2013.10)

* 国立病院機構相模原病院臨床研究センター

穂山浩: 食品添加物のリスク管理と分析法について.

第5回食品薬学シンポジウム (2013.11)

穂山浩: 学術論文の読み方・書き方 (主に英文).

第1回日本食品衛生学会食品衛生研究者育成基礎セミナー (2014.2)

大月典子, 穂山浩, 工藤善^{*1}, 杉山圭一, 阿部裕, 六鹿元雄, 伊藤裕才, 多田敦子, 杉本直樹, 瀧野裕之^{*2}, 川原信夫^{*2}, 吉松嘉代^{*2}: 人工水耕栽培により生産した甘草の安全性評価に関する研究.

第6回甘草に関するシンポジウム (2013.7)

*¹ 鹿島建設(株)

*² (独)医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター

大月典子, 杉本直樹, 伊藤裕才, 建部千絵, 佐藤恭子, 梅本尚之*, 深溝慶*, 穂山浩: カルミン酸とタンパク質の反応性に関する検討.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* 近畿大学大学院農学研究科

山内良子^{*1}, 小浜友紀子^{*1}, 島村智子^{*2}, 柏木丈広^{*2}, 受田浩之^{*2}, 穂山浩, 松井利郎^{*3}, 石川洋哉^{*1}: 酸化防止剤評価における各種抗酸化測定法の相関.
第62回日本食品保蔵科学学会大会 (2013.6)

^{*1} 福岡女子大学国際文理学部

^{*2} 高知大学教育研究部自然科学系

^{*3} 九州大学大学院農学研究院

山元涼子^{*1}, 藤田睦^{*1}, 山内良子^{*1}, 島村智子^{*2}, 柏木丈広^{*2}, 受田浩之^{*2}, 穂山浩, 松井利郎^{*3}, 石川洋哉^{*1}: Median effect analysisによるチオール化合物と各種抗酸化物測定法の相関.
第50回化学関連支部合同大会 (2013.7)

^{*1} 福岡女子大学国際文理学部

^{*2} 高知大学教育研究部自然科学系

^{*3} 九州大学大学院農学研究院

吉松嘉代^{*1}, 河野徳昭^{*1}, 乾貴幸^{*1}, 瀨野裕之^{*1}, 川原信夫^{*1}, 工藤善^{*2}, 高橋豊^{*3}, 新穂大介^{*4}, 田村幸吉^{*4}, 大月典子, 穂山浩: 人工水耕栽培システムにより生産した甘草等漢方薬原料生薬の実用化に向けた実証的研究.
第6回甘草に関するシンポジウム (2013.7)

^{*1} (独) 医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター

^{*2} 鹿島建設(株)

^{*3} エムエス・ソリューションズ(株)

^{*4} 丸善製薬(株)

小俣洋奈^{*1}, 久木田卓弥^{*2}, 片山茂^{*1,2}, 穂山浩, 中村宗一郎^{*1,2}: THP-1由来樹状細胞を用いたアレルギー性評価法のハプテン抗原への応用.
日本動物細胞工学会2013年度大会 (2013.7)

^{*1} 信州大学農学部

^{*2} 信州大学大学院農学研究科

中島光一^{*1}, 箕川剛^{*1}, 張慧利^{*1}, 森本隆司^{*1}, 伊藤澄夫^{*1}, 山川有子^{*2}, 穂山浩: コチニール色素中のタンパク質検出のための前処理法開発.
日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

^{*1} 三栄源エフ・エフ・アイ(株)

^{*2} 山川皮ふ科

片山茂*, 小俣洋奈*, 大月典子, 穂山浩, 中村宗一郎*:

THP-1由来樹状細胞の抗原提示能を指標としたコチニール色素のアレルゲン性評価.
日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

* 信州大学

高島令王奈^{*1}, 大西真理^{*2}, 小岩智宏^{*3}, 布藤聡^{*2}, 峯岸恭考^{*4}, 穂山浩, 手島玲子, 真野潤一^{*1}, 古井聡^{*1}, 橘田和美^{*1}: 遺伝子組換えダイズMON89788 (RRS2) 及びA2704-12 (LLS) の系統特異的検知法の開発と妥当性確認.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} 食品総合研究所

^{*2} ファスマック

^{*3} 農林水産消費安全技術センター

^{*4} ニッポンジーン

Suzuki A^{*1}, Kasahara Y^{*2}, Wada A^{*3}, Duc HPN^{*3}, Thuy QHB^{*4}, Akiyama H: Illudin S production in the vegetative mycelia of *Omphalotus guepiniformis* cultured in different conditions.
The Second International Conference on Integration of Science and Technology for Sustainable Development (ICIST) (2013.11)

Suzuki A^{*1}, Kasahara Y^{*2}, Wada A^{*3}, Duc HPN^{*3}, Thuy QHB^{*4}, Akiyama H: Illudin S production in the vegetative mycelia of *Omphalotus guepiniformis* cultured in different conditions.
The Second International Conference on Integration of Science and Technology for Sustainable Development (ICIST) (2013.11)

^{*1} Tokyo City University

^{*2} Yamagata Prefectural Institute of Public Health

^{*3} Biotechnology Center in Ho Chi Minh City

^{*4} University of Science Ho Chi Minh City

原田晋^{*1}, 山川有子^{*2}, 杉本直樹, 穂山浩: ブラッドオレンジジュースによるコチニールアレルギー症例の報告.
第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (2013.12)

^{*1} はらだ皮膚科クリニック

^{*2} 山川皮ふ科

佐藤恭子: 第3版食品中の食品添加物分析法に向けて.
第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

佐藤恭子: アルミニウムの摂取量.

日本食品衛生学会第16回特別シンポジウム (2013.9)

佐藤恭子, 建部千絵, 岸弘子^{*1}, 箕川剛^{*2}, 伊藤澄夫^{*2}, 新藤哲也^{*3}, 小林千種^{*3}, 大石充男^{*3}, 渡部健二郎^{*4},

中西資^{*5}, 本田俊一^{*6}, 秋山裕^{*6}, 田中麻紀子^{*6}, 櫻井有里子^{*7}, 笹尾忠由^{*7}: 食品添加物試験法 塩基性タール色素 (オーラミンO, パラローズアニリンおよびローダミンB): TLC, HPLCおよびLC-MS (/MS) による定性.
日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1} 神奈川県衛生研究所

^{*2} 三栄源エフ・エフ・アイ(株)

^{*3} 東京都健康安全研究センター

^{*4} (一財)東京顕微鏡院

^{*5} (一財)日本食品分析センター

^{*6} (一財)日本冷凍食品検査協会

^{*7} 横浜市衛生研究所

久保田浩樹, 滝川香織^{*1}, 関根百合子^{*2}, 工藤礼佳^{*2}, 氏家あけみ^{*3}, 酒井国嘉^{*4}, 川原るみ子^{*4}, 古謝あゆ子^{*5}, 國仲奈津子^{*5}, 宮本文夫^{*6}, 石井俊靖^{*6}, 寺見祥子, 佐藤恭子, 穂山浩: マーケットバスケット方式による保存料及び着色料の一日摂取量調査.
第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

^{*1} 札幌市衛生研究所

^{*2} 仙台市衛生研究所

^{*3} 香川県環境保健研究センター

^{*4} 長崎市保健環境試験所

^{*5} 沖縄県衛生環境研究所

^{*6} 千葉県衛生研究所

久保田浩樹, 寺見祥子, 原貴彦^{*}, 平川佳則^{*}, 飯塚太由^{*}, 建部千絵, 大槻崇, 佐藤恭子, 穂山浩: 食品中の銅クロロフィリンナトリウム及び銅クロロフィル分析法の改良.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*} (一財)食品環境検査協会

建部千絵, 鐘熙寧, 小宮沙登美, 大槻崇, 久保田浩樹, 佐藤恭子, 穂山浩: 食品中の未指定塩基性タール色素の分析法の検討.
第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

建部千絵, 長谷川晴子^{*1}, 細川晶^{*1}, 原貴彦^{*2}, 安河内義和^{*3}, 佐藤恭子, 穂山浩: 食用タール色素純度試験法の検証(1).
第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

^{*1} (一財)日本食品分析センター

^{*2} (一財)食品環境検査協会

^{*3} (一財)日本冷凍食品検査協会

大槻崇, 久保田浩樹, 建部千絵, 佐藤恭子, 穂山浩: 固相抽出法を用いた柑橘類, りんご及びびなし中のピリメタニル分析法の確立.
日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

Ohtsuki T, Sato K, Sugimoto N, Akiyama H: Absolute quantitative analysis of preservatives in processed foods by proton nuclear magnetic resonance spectroscopy.

5th Asia-Pacific NMR Symposium in Conjunction with ANZMAG2013 (2013.10)

大槻崇, 佐藤恭子, 杉本直樹, 多田敦子, 合田幸広, 河村葉子, 穂山浩: qNMR による添加物定量用試薬の規格試験法について.
第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

大槻崇, 鐘熙寧, 久保田浩樹, 建部千絵, 加藤友香理^{*1}, 寺田久屋^{*1}, 関戸晴子^{*2}, 岸弘子^{*2}, 田原正一^{*3}, 植松洋子^{*3}, 佐藤恭子, 穂山浩: 加工食品中のスクラロース分析における前処理法と分析手法の検討.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} 名古屋市衛生研究所

^{*2} 神奈川県衛生研究所

^{*3} 東京都健康安全研究センター

大槻崇, 小田琢磨, 建部千絵, 佐藤恭子, 穂山浩: ヘッドスペースGCを用いた食品中のイソプロパノール分析法.
日本薬学会第134年会 (2014.3)

古庄紀子, 関口若菜, 伊藤道男^{*1}, 石黒聡^{*1}, 西村勉^{*1}, 山崎壮^{*2}, 建部千絵, 伊藤裕才, 多田敦子, 大槻崇, 久保田浩樹, 杉本直樹, 佐藤恭子, 穂山浩: 食品添加物公定書における鉛試験法の改正.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} (一財)日本食品分析センター

^{*2} 実践女子大学

戸井田敏彦^{*}, 東恭平^{*}, 建部(佐々木)千絵, 佐藤恭子, 穂山浩: 食品添加物のアルギン酸およびアルギン酸塩の定量法について.
第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

* 千葉大学大学院薬学研究院

杉本直樹, 田原麻衣子, 大槻崇, 多田敦子, 伊藤裕才, 佐藤恭子, 五十嵐良明, 合田幸広, 穂山浩: qNMRスペクトルライブラリの構築.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

多田敦子, 石附京子, 末松孝子^{*1}, 有福和樹^{*2}, 伊藤裕才, 大槻崇, 大月典子, 吉松嘉代^{*3}, 川原信夫^{*3}, 山崎壮^{*4}, 杉本直樹, 穂山浩: カンゾウ油性抽出物の成分組成に基づく解析.

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

^{*1} JEOL RESONANCE Inc.

^{*2} 日本電子(株)

^{*3} (独)医薬基盤研究所

^{*4} 実践女子大学

多田敦子, 杉本直樹, 伊藤裕才, 秋山卓美, 五十君静信, 山崎壮, 穂山浩: 増粘安定剤の食品添加物公定書微生物限度試験法の検討.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

多田敦子, 石附京子, 島村智子^{*1}, 受田浩之^{*1}, 深井俊夫^{*2}, 山崎壮^{*3}, 杉本直樹, 穂山浩: 既存添加物カンゾウ油性抽出物の抗酸化活性要因と寄与率.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} 高知大学

^{*2} 横浜薬科大学

^{*3} 実践女子大学

伊藤裕才, 石附京子, 多田敦子, 杉本直樹, 穂山浩: 既存添加物「カロブ色素」の成分解析.

第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

Ito Y, Ishizuki K, Sekiguchi W, Tada A, Sugimoto N, Akiyama H: Identification and quantification of di-C-glycosylapigenins in carob germ flour.

The 6th International Conference on Polyphenols and Health (2013.10)

伊藤裕才, 石附京子, 多田敦子, 杉本直樹, 穂山浩: 既存添加物「カロブ色素」の成分分析.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

伊藤裕才, 張替直樹^{*}, 石附京子, 関口若菜, 多田敦子, 四宮一聡^{*}, 杉本直樹, 穂山浩: 既存添加物「コチニール色素」中の新規微量色素成分の成分単離生成および構造決定.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* 日本大学

石附京子, 高田大^{*}, 多田敦子, 伊藤裕才, 大槻崇, 佐藤恭子, 兎川忠靖^{*}, 穂山浩, 杉本直樹: PULCON法とAQARI法によるqNMRの定量精度の比較評価.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 明治薬科大学

棚田千尋^{*}, 井之上浩一^{*}, 杉本直樹, 関俊哲^{*}, 轟木堅一郎^{*}, 豊岡利正^{*}, 穂山浩: UPLCによるクチナシ黄色素の成分分析に関する検討.

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

* 静岡県立大学

Nakajima N^{*}, Sugimoto N, Yoshikawa S^{*}, Ohki K^{*}, Kamiya M^{*}: A specific antifouling strategy of *Sargassum siliquastrum* (Phaeophyceae) against epiphytism of *Neosiphonia harveyi* (Rhodophyta).

10th International Phycological Congresses (2013.8)

* Fukui Prefectural University

好村守生^{*1}, 天倉吉章^{*1}, 吉田隆志^{*1}, 多田敦子, 伊藤裕才, 杉本直樹, 山崎壮^{*2}, 穂山浩: 既存添加物「ゲンチアナ抽出物」の成分研究.

日本生薬学会第60回年会 (2013.9)

^{*1} 松山大学

^{*2} 実践女子大学

柴田光^{*}, 田中理恵^{*}, 永津明人^{*}, 多田敦子, 伊藤裕才, 杉本直樹, 穂山浩: 食品原料として用いられているキハダ抽出残渣に含有されるberberineの定量.

日本生薬学会第60回年会 (2013.9)

* 金城学院大学

大森清美^{*1}, 多田敦子, 石附京子, 杉本直樹, 浅野間正晴^{*2}, 山崎壮^{*3}, 穂山浩: 既存添加物「ジャマイカカッ

シア抽出物」の安全性に関する研究.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

*¹ 神奈川県衛生研究所

*² 名古屋市衛生研究所

*³ 実践女子大学

西川弘晃*, 井之上浩一*, 棚田千尋*, 杉本直樹, 関俊哲*, 轟木堅一郎*, 穂山浩, 豊岡利正*: 荷電化粒子検出HPLC法によるレバン評価の検討.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 静岡県立大学

六鹿元雄, 阿部裕, 山口未来, 松山重倫*, 大畑昌輝*, 田中秀幸*, 城野克広*, 穂山浩: 器具・容器包装の規格試験における金属の標準原液と市販標準液の同等性確認. 日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

* (独)産業技術総合研究所

六鹿元雄, 阿部裕, 河村葉子, 阿部智之*¹, 石井里枝*², 伊藤裕子*³, 大野浩之*⁴, 大野雄一郎*⁵, 尾崎麻子*⁶, 柿原芳輝*⁷, 岸弘子*⁸, 柴田博*⁹, 菌部博則*¹⁰, 高坂典子*¹¹, 但馬吉保*¹², 田中葵*¹³, 野村千枝*¹⁴, 疋田晃典*¹⁵, 村上亮*¹⁶, 和田岳成*¹⁷, 渡辺一成*¹⁸, 穂山浩: 原子吸光光度法によるカドミウム及び鉛溶出試験の試験室間共同試験.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

*¹ (一財)日本冷凍食品検査協会

*² 埼玉県衛生研究所

*³ 愛知県衛生研究所

*⁴ 名古屋市衛生研究所

*⁵ (一財)千葉県薬剤師会検査センター

*⁶ 大阪市立環境科学研究所

*⁷ (一財)日本穀物検定協会

*⁸ 神奈川県衛生研究所

*⁹ (一財)東京顕微鏡院

*¹⁰ (一財)日本文化用品安全試験所

*¹¹ (一財)食品薬品安全センター

*¹² (一財)食品環境検査協会

*¹³ (一社)日本海事検定協会

*¹⁴ 大阪府立公衆衛生研究所

*¹⁵ 長野県環境保全研究所

*¹⁶ (公社)日本食品衛生協会

*¹⁷ (一財)日本食品分析センター

*¹⁸ (一財)化学研究評価機構

六鹿元雄, 阿部智之*¹, 阿部裕, 石井里枝*², 伊藤裕子*³, 大野浩之*⁴, 大野雄一郎*⁵, 尾崎麻子*⁶, 柿原芳輝*⁷, 金子令子*⁸, 河村葉子, 岸弘子*⁹, 柴田博*¹⁰, 菌部博則*¹¹, 高坂典子*¹², 但馬吉保*¹³, 田中葵*¹⁴, 野村千枝*¹⁵, 疋田晃典*¹⁶, 村上亮*¹⁷, 和田岳成*¹⁸, 渡辺一成*¹⁹, 穂山浩: 合成樹脂製器具・容器包装におけるカドミウム及び鉛材質試験の試験室間共同試験.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

*¹ (一財)日本冷凍食品検査協会

*² 埼玉県衛生研究所

*³ 愛知県衛生研究所

*⁴ 名古屋市衛生研究所

*⁵ (一財)千葉県薬剤師会検査センター

*⁶ 大阪市立環境科学研究所

*⁷ (一財)日本穀物検定協会

*⁸ 東京都健康安全センター

*⁹ 神奈川県衛生研究所

*¹⁰ (一財)東京顕微鏡院

*¹¹ (一財)日本文化用品安全試験所

*¹² (一財)食品薬品安全センター

*¹³ (一財)食品環境検査協会

*¹⁴ (一社)日本海事検定協会

*¹⁵ 大阪府立公衆衛生研究所

*¹⁶ 長野県環境保全研究所

*¹⁷ (公社)日本食品衛生協会

*¹⁸ (一財)日本食品分析センター

*¹⁹ (一財)化学研究評価機構

Abe Y, Mutsuga M, Yamaguchi M, Ohno H*, Kawamura Y, Akiyama H: Characterization and quantification of nylon oligomers in kitchen utensils. 127th AOAC Annual Meeting & Exposition (2013.8)

* Nagoya City Public Health Research Institute

阿部裕, 六鹿元雄, 河村葉子, 阿部智之*¹, 石井里枝*², 伊藤裕子*³, 大野浩之*⁴, 大野雄一郎*⁵, 尾崎麻子*⁶, 柿原芳輝*⁷, 岸弘子*⁸, 柴田博*⁹, 菌部博則*¹⁰, 高坂典子*¹¹, 但馬吉保*¹², 田中葵*¹³, 野村千枝*¹⁴, 疋田晃典*¹⁵, 村上亮*¹⁶, 和田岳成*¹⁷, 渡辺一成*¹⁸, 穂山浩: ICP及びICP-MSによるカドミウム及び鉛溶出試験の試験室間共同試験.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

*¹ (一財)日本冷凍食品検査協会

*² 埼玉県衛生研究所

*³ 愛知県衛生研究所

*⁴ 名古屋市衛生研究所

*⁵ (一財)千葉県薬剤師会検査センター

*⁶ 大阪市立環境科学研究所

*⁷ (一財)日本穀物検定協会

*⁸ 神奈川県衛生研究所

*⁹ (一財)東京顕微鏡院

*¹⁰ (一財)日本文化用品安全試験所

*¹¹ (一財)食品薬品安全センター

*¹² (一財)食品環境検査協会

*¹³ (一社)日本海事検定協会

*¹⁴ 大阪府立公衆衛生研究所

*¹⁵ 長野県環境保全研究所

*¹⁶ (公社)日本食品衛生協会

*¹⁷ (一財)日本食品分析センター

*¹⁸ (一財)化学研究評価機構

阿部裕, 山口未来, 六鹿元雄, 穂山浩, 河村葉子: ポリウレタンおよび繊維製玩具中のアミン類の分析.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

Kawamura Y: Bisphenol A in Japanese canned foods. 245th American Chemical Society (ACS) National Meeting and Exposition (2013.4)

Kawamura Y: Regulatory developments in food contact; an update from Japan.

Global Food Contact 2013 (2013.5)

河村葉子, 江藤政弘*, 平川佳則*, 阿部裕, 六鹿元雄: 国産及び輸入缶詰中のビスフェノールA含有量の比較.

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

* (一財)食品環境検査協会

大野浩之*¹, 鈴木昌子*¹, 金子令子*², 尾崎麻子*³, 六鹿元雄, 河村葉子: 金属製焼き網被膜中の金属類の含有量及び溶出量.

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

*¹ 名古屋市衛生研究所

*² 東京都健康安全研究センター

*³ 大阪市立環境科学研究所

尾崎麻子*, 岸映里*, 大嶋智子*, 長谷篤*, 清水充*,

河村葉子: ナノ銀抗菌剤使用表示のある合成樹脂製器具からの金属類の溶出.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* 大阪市立環境科学研究所

大野浩之*¹, 河村葉子, 有菌幸司*², 太田敬司*³, 尾崎麻子*⁴, 金子令子*⁵, 羽石奈穂子*⁵, 松井秀俊*⁶, 三宅大輔*⁷, 六鹿元雄: 生活用品試験法 器具・容器包装および玩具試験法 1,3-ブタジエンのガスクロマトグラフィー/質量分析法による定性および定量.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 名古屋市衛生研究所

*² 熊本県立大学

*³ (一財)食品環境検査協会

*⁴ 大阪市立環境科学研究所

*⁵ 東京健康安全研究センター

*⁶ 東洋製罐(株)

*⁷ (一財)日本食品分析センター

羽石奈穂子*¹, 河村葉子, 有菌幸司*², 太田敬司*³, 大野浩之*⁴, 尾崎麻子*⁵, 金子令子*¹, 松井秀俊*⁶, 三宅大輔*⁷, 六鹿元雄: 生活用品試験法 器具・容器包装および玩具試験法 トリエチルアミンおよびトリブチルアミンの高速液体クロマトグラフィー/質量分析法による定性および定量.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ 東京健康安全研究センター

*² 熊本県立大学

*³ (一財)食品環境検査協会

*⁴ 名古屋市衛生研究所

*⁵ 大阪市環境科学研究所

*⁶ 東洋製罐(株)

*⁷ (一財)日本食品分析センター

吉田智紀*, 高谷周督*, Mariogani A*, 斉藤美佳子*, 五十君静信, 松岡英明*: 保存安定性を考慮した生菌標準物質の調製.

AOACインターナショナルジャパンセクション総会 (2013.6)

* 東京農工大・生命工

高谷周督*, 吉田智紀*, Mariogani A*, 斉藤美佳子*, 五十君静信, 松岡英明*: 少数生菌汚染標準食品の調製.

AOACインターナショナルジャパンセクション総会
(2013.6)

* 東京農工大・生命工

Matsuoka H*, Yoshida T*, Takatani N*, Saito M*,
Igimi S: In Situ Preparation of Standard Material of
Viable Single-cells for Innovative Validation of
Microbiological Methods.

127th AOAC Annual Meeting and Exposition, Chicago
(2013.8)

* 東京農工大・生命工

福田典子*, 藤原翠*, 伊東悠志*, 石塚理恵*, 荻原博和*,
五十君静信: 各種食品における*Cronobacter* spp.の汚染
実態.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

* 日本大学生物資源科学部

五十君静信: ポツリヌス菌と*Cronobacter*属菌の衛生管
理はどうすればよいのだろうか.

第45回日本小児感染症学会総会 (2013.10)

川崎晋*, 持田麻里*, 等々力節子*, 五十君静信: 牛肝
臓中における腸管出血性大腸菌のガンマ線照射による殺
菌効果.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* (独)農研機構食品総合研究所

等々力節子*, 亀谷宏美*, 齋藤希巳江*, 川崎晋*, 五十
君静信: 牛肝臓のガンマ線照射による品質変化.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* (独)農研機構食品総合研究所

五十君静信: プロバイオティクスの安全性評価について.
2013年度日本乳酸菌学会秋期セミナー (2013.11)

朝倉宏, 川本恵子*, 倉園久生*, 岡田由美子, 五十君静
信: *Listeria monocytogenes* 1/2b菌株間に認められる遺
伝学・形質学的多様性.

第87回日本細菌学会学術総会 (2014.3)

* 帯広畜産大学

Asakura H: Molecular Epidemiology of *Campylobacter*
foodborne infection in Japan. 48th Annual Meeting of the
UJNR Joint Panel of Toxic Microorganisms (2014.3)

伊藤汐里*, 村上覚史*, 蓮沼裕也*, 村田亮*, 朝倉宏:
ブロイラーにおける*Campylobacter jejuni*の定着部位と
生体内移行.

第271回鶏病事例検討会 (2013.12)

* 東京農業大学

朝倉宏, 五十君静信, 山本茂貴, 春日文子: カイワレ大
根の細菌叢解析.

第156回日本獣医学会学術集会 (2013.9)

朝倉宏, 川本恵子*, 山本茂貴, 五十君静信: ウシ肝臓
より高率に分離された*Campylobacter jejuni* ST-58の比
較ゲノム解析.

第156回日本獣医学会学術集会 (2013.9)

* 帯広畜産大学

伊藤汐里*¹, 村上覚史*¹, 蓮沼裕也*¹, 村田亮*¹, 大場
剛実*², 芝原友幸*³, 朝倉宏: ブロイラーにおける
*Campylobacter jejuni*の定着部位と生体内移行.

第156回日本獣医学会学術集会 (2013.9)

*¹東京農業大学

*²富山県食肉衛生検査所

*³動物衛生研究所

Momose Y, Ekawa T, Masuda K, Asakura H, Okada Y,
Igimi S: Evaluation of the culture method NIHSJ-02
alternative to ISO 10272-1:2006 for the detection of
Campylobacter jejuni and *Campylobacter coli* in
chicken.

5th Congress of European Microbiologists (2013.7)

Momose Y, Okada Y, Asakura H, Ekawa T, Masuda K,
Matsuoka H*¹, Yokoyama K*², Kai A*², Saito S*³,
Hiramatsu R*⁴, Taguchi M*⁵, Ishimura K*⁶, Tominaga
K*⁷, Yahiro S*⁸, Fujita M*⁹, Igimi S: Evaluation of the
culture method NIHSJ-02 alternative to ISO 10272-
1:2006 for the detection of *Campylobacter jejuni* and
Campylobacter coli in chicken: Collaborative study.

48th Annual Meeting of the UJNR Joint Panel on Toxic
Microorganisms (2014.1)

*¹ Tokyo University of Agriculture and Technology

*² Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

*³ Akita Prefectural Research Center for Public Health and Environment

*⁴ Aichi Prefectural Institute of Public Health

*⁵ Osaka Prefectural Institute of Public Health

*⁶ Hiroshima City Institute of Public Health

*⁷ Yamaguchi Prefectural Institute of Public Health and Environment

*⁸ Kumamoto Prefectural Institute of Public Health and Environmental Science

*⁹ Gunma Meat Inspection Center

Okada Y, Suzuki H, Ogihara H, Monden S, Momose Y, Fukuda N, Igimi S: Characterization of growth and pathogenicities of *Cronobacter sakazakii* and related species.

5th Congress of European Microbiologists (2013.7)

小川竜也*, 岡田由美子, 久世博*, 花見正幸*, 鈴木穂高: 遊離水晶体の2症例を含む, スナネズミの眼病変5症例.

第33回比較眼科学会 (2013.8)

* (株)ボゾリサーチセンター

Okada Y, Suzuki H, Monden S, Momose Y, Igimi S: Comparison of pathogenicities of *Listeria monocytogenes* serotype 4b isolates to gerbils.

18th International Symposium on Problems of Listeriosis (2013.9)

Okada Y, Suzuki H, Ogihara H, Monden S, Momose Y, Fukuda N, Igimi S: Pathogenicity Determination of *Cronobacter* spp.

The 3rd Asia Pacific International Conference on Food Safety (2013.10)

岩屋あまね*¹, 下堂蘭栄子*¹, 榎元清美*¹, 吉村浩三*¹, 宇宿徹郎*², 佐久川さつき*³, 真保栄陽子*³, 大城直雅, 與儀健太郎*³: パラフェダイによるシガテラの食中毒事例について.

第55回鹿児島県公衆衛生学会 (2013.05)

*¹ 鹿児島県環境保健センター

*² 鹿児島県大島支庁徳之島保健所

*³ 沖縄県衛生環境研究所

與儀健太郎*¹, 佐久川さつき*², 池原強*³, 大城直雅, 安元健*⁴: 魚類食中毒シガテラの原因物質シガトキシン類のLC-MS/MS分析.

第35回日本中毒学会総会・学術集会 (2013.07)

*¹ 琉球大学医学部

*² 沖縄県衛生環境研究所

*³ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

*⁴ (一財)日本食品分析センター

Oshiro N: Occurrence of ciguatera fish poisoning (CFP) in Japan.

The 3rd IOC/WESTPAC-TMO training workshop IOC-WESTPAC Toxic Marine Organisms and their toxins (TMO) project (2013.11)

Oshiro N: Development of analytical method of CTXs in Japan.

The 3rd IOC/WESTPAC-TMO training workshop IOC-WESTPAC Toxic Marine Organisms and their toxins (TMO) project (2013.11)

與儀健太郎*¹, 佐久川さつき*², 村田龍, 大城直雅, 池原強*³, 安元健*⁴: LC-MS/MSによるシガトキシン類分析の検討.

第50回全国衛生化学協議会年会 (2013.11)

*¹ 琉球大学医学部

*² 沖縄県衛生環境研究所

*³ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

*⁴ (一財)日本食品分析センター

白石一陽*¹, 村田龍, 照屋菜津子*², 佐久川さつき*², 小島尚*¹, 大城直雅: HILIC-LC/MSによる垂熱帯産フグの毒性分析.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

*¹ 帝京科学大学

*² 沖縄県衛生環境研究所

村田龍, 大城直雅: HILIC-LC/MSによる麻痺性貝毒の一斉分析.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

内田秀明*¹, 平良洋介*², 大城直雅, 安元健*³: 渦鞭毛

藻由来パリトキシン関連新奇化合物のLC/MSによる探索と構造研究.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

*¹ アジレントテクノロジー

*² 沖縄科学技術大学院大学

*³ (一財)日本食品分析センター

辰野竜平*¹, 反町太樹*², 谷山茂人*¹, 大城直雅, 久保弘文*³, 高谷智裕*¹, 荒川修*¹: テトロドトキシンを給餌した腐肉食性小型巻貝2種の毒性.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

*¹ 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科

*² 長崎大学大学院生産科学研究科

*³ 沖縄県水産海洋研究センター

大城直雅: 話題提供「マリントキシン分析の動向」.

平成25年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会 (2013.11)

大城直雅, 佐久川さつき*¹, 円谷健*², 藤井郁雄*², 平間正博*³, 安元健*⁴: 本州沿岸産の大型イシガキダイによるシガテラが疑われる3事例.

第4回日本中毒学会九州地方会 (2014.1)

*¹ 沖縄県衛生環境研究所

*² 大阪府立大学大学院理学系研究科

*³ 東北大学大学院理学研究科

*⁴ (一財)日本食品分析センター

村田龍, 大城直雅: LC-MS/MSによる下痢性貝毒分析の検討.

平成26年度日本水産学会春季大会 (2014.3)

鈴木穂高, 岡田由美子: 下痢性貝毒オカダ酸投与後のマウスの血液学・血液生化学的变化.

第156回日本獣医学会 (2013.9)

Suzuki H, Okada Y: Food-Borne Bacterial Contamination on Food in Europe and Japan.

The 3rd Asia Pacific International Conference on Food Safety (2013.10)

Suzuki H: Rapid Decrease of Body Temperature in Mice after Okadaic Acid Injection.

The 3rd Asia Pacific International Conference on

Food Safety (2013.10)

斎藤博之*¹, 東方美保*², 岡智一郎*³, 片山和彦*³, 田中智之*⁴, 野田衛: 食品検体からのパンソルビン・トラップ法で抽出したノロウイルスRNAの検出系に関する検討.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

*¹ 秋田県健康環境センター

*² 福井県衛生環境研究センター

*³ 国立感染症研究所

*⁴ 堺市衛生研究所

上間匡, 三元昌美, 青沼えり*, 榎原慶隆*, 野田衛: ノロウイルスの感染性推定遺伝子検査の開発と応用.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

* 明治薬科大学薬学部

青沼えり*, 上間匡, 三元昌美, 野田衛: ウイルスの食品検査の精度管理に関する基礎的研究.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

* 明治薬科大学薬学部

溝口嘉範*, 木田浩司*, 葛谷光隆*, 磯田美穂子*, 濱野雅子*, 藤井理津志*, 岸本壽男*, 上間匡, 野田衛: エコーウイルス9型定量系によるノロウイルス通知法の評価.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

* 岡山県環境保健センター

野田衛: 2012/13シーズンのノロウイルス食中毒発生状況. ウイルス性下痢症研究会第25回学術集会 (2013.11)

斎藤博之*¹, 東方美保*², 岡智一郎*³, 片山和彦*³, 田中智之*⁴, 野田衛: パンソルビン・トラップ法によって得られたノロウイルスRNAの効率的な検出に関する検討.

第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11)

*¹ 秋田県健康環境センター

*² 福井県衛生環境研究センター

*³ 国立感染症研究所

*⁴ 堺市衛生研究所

名古屋真弓*, 稲崎倫子*, 板持雅恵*, 嶋一世*, 堀元栄

詞*, 小淵正次*, 野田衛, 佐多徹太郎*, 瀧澤剛則*: 患者・下水・岩ガキからのノロウイルス・サポウイルスの検出.

第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11)

* 富山県衛生研究所

佐藤裕徳^{*1}, 本村和嗣^{*2}, 横山勝^{*1}, 中村浩美^{*1}, 岡智一郎^{*1}, 片山和彦^{*1}, 武田直和^{*2}, 野田衛, 田中智之^{*3}: ノロウイルスGII.4 2006bのカプシドと酵素に働くアミノ酸変化の制約.

第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11)

*¹ 国立感染症研究所

*² 大阪大学微生物病研究所

*³ 堺市衛生研究所

本村和嗣^{*1}, 大出裕高^{*2}, 横山勝^{*2}, 中村浩美^{*2}, 佐藤彩^{*2}, 岡智一郎^{*2}, 片山和彦^{*2}, 野田衛, 武田直和^{*1}, 田中智之^{*3}, 佐藤裕徳^{*1}: ノロウイルス感染者体内における混合感染の実態.

第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11)

*¹ 大阪大学微生物病研究所

*² 国立感染症研究所

*³ 堺市衛生研究所

青木里美*, 山下育孝*, 菅美樹*, 服部昌志*, 大倉敏裕*, 野田衛, 四宮博人*: 2012/2013シーズンに検出されたノロウイルスGII.4の分子疫学的解析.

第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11)

* 愛媛県立衛生環境研究所

山下育孝^{*1}, 青木里美^{*1}, 菅美樹^{*1}, 服部昌志^{*1}, 大倉敏裕^{*1}, 野田衛, 岡智一郎^{*2}, 四宮博人^{*1}: 愛媛県におけるサポウイルスGI.2株の流行.

第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11)

*¹ 愛媛県立衛生環境研究所

*² 国立感染症研究所

重本直樹^{*1}, 谷澤由枝^{*1}, 島津幸枝^{*1}, 高尾信一^{*1}, 田中智之^{*2}, 野田衛, 福田伸治^{*3}: 蛍光RT-マルチプレックスPCR法による小児胃腸炎患者からの下痢症ウイルスの検出.

第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11)

*¹ 広島県立総合技術研究所保健環境センター

*² 堺市衛生研究所

*³ 広島文教女子大学人間科学部

上間匡, 三元昌美, 青沼えり*, 野田衛: ノロウイルスのリスク評価のための感染性推定遺伝子検査法の開発.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* 明治薬科大学薬学部

溝口嘉範*, 磯田美穂子*, 木田浩司*, 濱野雅子*, 藤井理津志*, 岸本壽男*, 安原広己*, 上間匡, 野田衛: 感染性推定遺伝子検査法の下水中のノロウイルス検出への応用.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* 岡山県環境保健センター

三元昌美, 上間匡, 榎原慶隆*, 野田衛: 感染性推定遺伝子検査法を用いたノロウイルスの乾燥状態および液体中の生存性の推定.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* 明治薬科大学薬学部

斎藤博之^{*1}, 東方美保^{*2}, 岡智一郎^{*3}, 片山和彦^{*3}, 田中智之^{*4}, 野田衛: 食中毒事例における食品のノロウイルス検査にパンソルビン・トラップ法を用いる際のRNA検出系の最適化.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

*¹ 秋田県健康環境センター

*² 福井県衛生環境研究センター

*³ 国立感染症研究所

*⁴ 堺市衛生研究所

Ohnishi T, Kikuchi Y, Yoshinari T, Yamazaki A, Kamata Y, Sugita-Konishi Y: Invasion of *Kudoa septempunctata* increases the permeability of human intestinal epithelial monolayer.

IAFP European Symposium (2013.8)

李迎春^{*1}, 都築秀明^{*2}, 佐藤宏^{*1}, Jimenez LA^{*3}, 大西貴弘, 小西良子^{*4}: キハダマグロ寄生*Kudoa neothunni*にみられたrDNA2型性.

日本獣医学会学術集会 (2013.9)

*¹ 山口大学

*² 愛知県食品衛生研究所

*³ Davao Oriental State College of Sciences and Technology

*⁴ 麻布大学

菊池裕, 大西貴弘, 古沢博子, 河合高生^{*1}, 福田譲^{*2}, 横山博^{*3}, 小西良子^{*4}: ニワトリ抗血清を用いたELISAによるヒラメ体幹筋肉中*Kudoa septempunctata*の検出. 日本防菌防黴学会第40回年次大会講演 (2013.9)

*¹ 大阪府立公衆衛生研究所

*² 大分県農林水産研究指導センター

*³ 東京大学大学院農学生命科学研究科

*⁴ 麻布大学

大西貴弘: 平成25年度日本食品微生物学会研究奨励賞受賞者講演—クドア食中毒における原因究明と病態発現機構解析に関する研究.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

大西貴弘, 古沢博子, 吉成知也, 山崎朗子, 堀川和美^{*1}, 鎌田洋一^{*2}, 小西良子^{*3}: ヒラメ寄生クドアの電子顕微鏡観察.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

*¹ 福岡県保健環境研究所

*² 岩手大学

*³ 麻布大学

Abe R^{*1}, Kaigome R^{*1}, Matsumoto H^{*1}, Takagi H^{*1}, Ohkawa H^{*2}, Yoshinari T, Sugita-Konishi Y: A Q-body Assay for DON and NIV in Wheat. ISM-MycoRed International Conference Europe 2013 (2013.5)

*¹ Ushio Inc.

*² Kobe University

大橋広行^{*1}, 阿部亮二^{*1}, 松本裕幸^{*1}, 高木広明^{*1}, 大川秀郎^{*1}, 吉成知也, 小西良子^{*2}: Q-body 法によるデオキシニバレノール (DON) の測定.

日本マイコトキシン学会第73回学術講演会 (2013.9)

*¹ ウシオ電機

*² 麻布大学

吉成知也: 日本の市販品におけるデオキシニバレノール, T-2トキシン, HT-2トキシン及びゼアラレノンの汚染実態.

日本マイコトキシン学会第73回学術講演会 (2013.9)

吉成知也, 古沢博子, 大西貴弘, 小西良子^{*}: 小麦, 大麦に含まれるデオキシニバレノールとその配糖体の分析法の検討及び実態調査.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* 麻布大学

土屋拓馬^{*1}, 作田庄平^{*2}, 降旗一夫^{*2}, 古沢博子, 石崎直人^{*1}, 小西良子^{*1}, 吉成知也: ニバレノール配糖体の単離同定とその分析法の検討.

日本マイコトキシン学会第74回学術講演会 (2014.1)

*¹ 麻布大学

*² 東京大学

松谷佐知子: RNAポリメラーゼIIIの内部プロモーターに作用するTFIIICのB-ブロック結合サブユニットの進化.

第36回日本分子生物学会年会 (2013.12)

小林直樹, 齊藤志保子^{*1}, 古川一郎^{*2}, 河野智美^{*3}, 青木佳代^{*3}, 前田詠里子^{*4}, 江藤良樹^{*4}, 堀川和美^{*4}, 小西良子, 工藤由起子: 腸管出血性大腸菌の病原因子保有パターンと臨床症状の対応についての解析.

第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

*¹ 秋田県健康環境センター

*² 神奈川県衛生研究所

*³ 滋賀県衛生科学センター

*⁴ 福岡県保健環境研究所

小林直樹, 前田詠里子^{*1}, 河野智美^{*2}, 齊藤志保子^{*3}, 古川一郎^{*4}, 青木佳代^{*2}, 江藤良樹^{*1}, 堀川和美^{*1}, 小西良子, 工藤由起子: 腸管出血性大腸菌の高病原性の指標となる病原因子についての解析.

第17回腸管出血性大腸菌感染症研究会 (2013.7)

*¹ 福岡県保健環境研究所

*² 滋賀県衛生科学センター

*³ 秋田県健康環境センター

*⁴ 神奈川県衛生研究所

李謙一^{*1}, N. P. French^{*2}, 工藤由起子, 伊豫田淳^{*3}, 小林秀樹^{*4}, 小西良子, 局博一^{*1}, 熊谷進^{*1}: 多変量解析によるヒトまたはウシ由来志賀毒素産生性大腸菌O157の遺伝的差異の究明.

第17回腸管出血性大腸菌感染症研究会 (2013.7)

^{*1} 東京大学大学院

^{*2} Massey University

^{*3} 国立感染症研究所

^{*4} 動物衛生研究所

Hara-Kudo Y, Ohtsuka K^{*1}, Konishi N^{*2}, Mori T^{*3}, Nakagawa H^{*4}, Iizuka S^{*5}, Taga K^{*6}, Kai A^{*2}: Universal enrichment followed by real-time PCR assay and plating for Shiga toxin-producing *Escherichia coli* O26, O111 and O157 in food.

127th AOAC Annual meeting and exposition (2013.8)

^{*1} Saitama Institute of Public Health

^{*2} Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

^{*3} Tokyo Kenbikyoin Foundation

^{*4} BML Food Science Solutions, Inc.

^{*5} Yokohama Quarantine Station

^{*6} Kobe Quarantine Station

小林直樹, 李謙一^{*}, 小西良子, 工藤由起子: 集団解析により明らかになった腸管出血性大腸菌の高病原性 genotype.

第15回日本進化学会 (2013.8)

^{*} 東京大学大学院

小林直樹, 渡辺麻衣子, 工藤由起子: 近縁種 *Cladosporium sphaerospermum* および *Cladosporium halotolerans* の識別を可能にする生化学的同定指標の検討.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

森哲也^{*}, 市川希美^{*}, 難波豊彦^{*}, 吉成知也, 工藤由起子: ゼリー状飲料の細菌試験における課題.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

^{*} (財)東京顕微鏡院

小西典子^{*1}, 森哲也^{*2}, 中川弘^{*3}, 大塚佳代子^{*4}, 小林直樹, 長尾清香, 甲斐明美^{*1}, 工藤由起子: 複数のリアルタイムPCR機器を用いた食品培養液中VT遺伝子検出感度の検討.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

^{*1} 東京都健康安全研究センター

^{*2} (財)東京顕微鏡院

^{*3} (株)BMLフード・サイエンス

^{*4} 埼玉県衛生研究所

渡辺麻衣子, 後藤慶一^{*1}, 小西良子^{*2}, 鎌田洋一^{*3}, 工藤由起子: マイクロプレートを用いたDNA-DNAハイブリダイゼーションによる *Fusarium* 属菌近縁種間における全ゲノム塩基配列比較手法の検討.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

^{*1} 三井農林(株)

^{*2} 麻布大学

^{*3} 岩手大学

長尾清香, 小林直樹, 工藤由起子: 大腸菌のO抗原特異的遺伝子を対象としたマルチプレックス・リアルタイムPCR法の検討.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

工藤由起子, 長尾清香, 小林直樹: 多血清群の腸管出血性大腸菌の病原因子遺伝子およびO抗原特異的遺伝子検出法の検討.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

大塚佳代子^{*1}, 中川弘^{*2}, 森哲也^{*3}, 小西典子^{*4}, 甲斐明美^{*4}, 小林直樹, 長尾清香, 工藤由起子: 食品からのペロ毒素遺伝子検出に使用するリアルタイムPCR機器及び試薬の組み合わせと反応条件の検討.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} 埼玉県衛生研究所

^{*2} (株)BMLフードサイエンス

^{*3} (財)東京顕微鏡院

^{*4} 東京都健康安全研究センター

齊藤志保子^{*1}, 古川一郎^{*2}, 磯部順子^{*3}, 長尾清香, 小林直樹, 工藤由起子: 各種血清群の腸管出血性大腸菌の酵素基質培地における生育性およびコロニーの特徴的形態の検討.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} 秋田県健康環境センター

^{*2} 神奈川県衛生研究所

^{*3} 富山県衛生研究所

小林直樹, 江藤良樹^{*1}, 前田詠里子^{*1}, 齊藤志保子^{*2}, 古川一郎^{*3}, 工藤由起子: 臨床症状の異なる腸管出血性大腸菌株間での病原性と遺伝型の解析.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} 福岡県保健環境研究所

^{*2} 秋田県健康環境センター

^{*3} 神奈川県衛生研究所

小林直樹, 古川一郎^{*1}, 江藤良樹^{*2}, 堀川和美^{*2}, 齊藤志保子^{*3}, 工藤由起子: 腸管出血性大腸菌の病原因子保有パターンによる集団解析.

第87回日本細菌学会総会 (2014.3)

^{*1} 神奈川県衛生研究所

^{*2} 福岡県保健環境研究所

^{*3} 秋田県健康環境センター

窪崎敦隆, 菊池裕, 宮原美知子, 遊佐精一, 島崎愛加^{*1}, 石橋侑季^{*1}, 鈴木俊宏^{*1}, 小原有弘^{*2}, 大谷梓^{*2}, 佐々木裕子^{*3}, 松山晃文^{*4}, 大倉華雪^{*4}, 古田美玲, 内田恵理子, 山口照英: マイコプラズマ否定試験に利用可能な標準菌株および標準DNAの調製.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1} 明治薬科大学

^{*2} (独) 医薬基盤研究所

^{*3} 国立感染症研究所

^{*4} 先端医療振興財団

内田恵理子, 古田美玲, 菊池裕, 窪崎敦隆, 遊佐精一, 宮原美知子, 佐々木裕子^{*1}, 小原有弘^{*2}, 大谷梓^{*2}, 松山晃文^{*3}, 大倉華雪^{*3}, 山口照英: 日局参考情報「バイオテクノロジー応用医薬品/生物起源由来医薬品の製造に用いる細胞基材に対するマイコプラズマ否定試験」のPCR法の見直しに関する共同研究.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1} 国立感染症研究所

^{*2} (独) 医薬基盤研究所

^{*3} 先端医療振興財団

寺嶋淳: 腸管出血性大腸菌感染症の世界の状況と国内の現状.

第87回日本細菌学会総会 (2014.3)

石原朋子^{*}, 寺嶋淳, 伊像田淳^{*}, 泉谷秀昌^{*}, 大西真^{*}:

2013年におけるO157:H7を中心としたEHECの動向.
第87回日本細菌学会総会 (2014.3)

^{*} 国立感染症研究所

熊谷浩一^{*}, 田中尚人^{*}, 渡辺麻衣子, 梶川揚申^{*}, 佐藤英一^{*}, 小西良子, 岡田早苗^{*}: せんだんごに生息する食物繊維分解微生物.

日本微生物資源学会第20回大会 (2013.6)

^{*} 東京農業大学

押方智也子^{*1}, 釣木澤尚実^{*1}, 斎藤明美^{*1}, 渡辺麻衣子, 鎌田洋一^{*2}, 斎藤博士^{*1}, 粒来崇博^{*1}, 前田裕二^{*1}, 安枝浩^{*1}, 秋山一男^{*1}: 環境改善が治療として奏功した *Penicillium* 属によるアレルギー性気管支肺真菌症の一例.

第44回日本職業・環境アレルギー学会総会学術大会 (2013.7)

^{*1} 国立病院機構相模原病院

^{*2} 岩手大学

渡辺麻衣子, 山崎朗子, 小沼ルミ^{*1}, 横瀬英里子^{*2}, 園田愛^{*3,4}, 瓦田研介^{*1}, 林健太郎^{*2,5}, 武藤真祐^{*3,4}, 鎌田洋一^{*5}: 東日本大震災被災地における住宅タイプでみた空中浮遊真菌数の比較検討.

日本防菌防黴学会第40回年次大会 (2013.9)

^{*1} 都産技研

^{*2} PCAT

^{*3} 祐ホームクリニック石巻

^{*4} RCI

^{*5} 国立保健医療科学院

渡辺麻衣子, 北山真弓^{*1}, 吉成知也, 橋本ルイコ^{*2}, 川上浩^{*1}, 高橋治男, 小西良子, 鎌田洋一: 食品由来 *Aspergillus niger* のフモニシン類産生性スクリーニング手法についての検討.

日本食品衛生学会第106回学術講演会 (2013.11)

^{*1} 共立女子大学

^{*2} 千葉衛研

中村和真^{*1}, 吉成知也, 高橋治男^{*2}, 石崎直人^{*1}, 寺嶋淳, 小西良子^{*1}, 渡辺麻衣子: 国産小豆および大豆における *Fusarium* 属菌の分布状況.

日本マイコトキシン学会第74回学術講演会 (2014.1)

*¹麻布大学

*²千葉大学真菌医学研究センター

菊池裕, 豊田淑江, 遊佐精一, 窪崎敦隆, 山口照英: 低酸素条件下で誘導されるスプライス変異GPIアンカー欠損型プリオン蛋白質の発現.

第1回低酸素研究会 (2013.7)

久保田堯*¹, 渡辺麻衣子, 鎌田洋一*², 岩沼有沙*¹, 新井佐知子*¹, 伊東正吾*¹, 小西良子*³: 各種豚用飼料とその保存条件が真菌叢に与える影響.

日本マイコトキシン学会第74回学術講演会 (2014.1)

*¹麻布大学獣医学部

*²岩手大学農学部

*³麻布大学生命環境科学部

Watanabe M: Utility of the Phylotoxigenic Relationships among Trichothecene-Producing *Fusarium* species for Predicting Their Mycotoxin Producing Potential (*Fusarium*属菌のマイコトキシン産生能を推定する - 分子系統解析の有用性 -).

48th Session of the Joint UJNR Panel on Toxic Microorganisms (2014.1)

Watanabe M, Yonezawa T*¹, Sugita-Konishi Y*², Kamata Y*³: Prediction of mycotoxin producing potential of *Fusarium* species —utility of the phylotoxigenic relationships—.

Methods of Biodiversity Research (2014.3)

*¹Fudan University

*²Azabu University

*³Iwate University

大波純一*¹, 渡辺麻衣子, 山田修*², 水谷治*², 高橋徹*³, 川上裕司*⁴, 橋本一浩*⁴, 清水公德*⁵, 高橋治男*⁵, 横山耕治*⁵, 鎌田洋一*⁶: カビアレゲンデータベースの構築.

日本農芸化学会2014年度大会 (2014.3)

*¹科学技術振興機構

*²酒類総合研究所

*³岐阜セラック製作所

*⁴エフシーエー総合研究所

*⁵千葉大学真菌医学研究所

*⁶岩手大学

出水庸介, 長久保貴哉, 川村愛, 名見耶早織, 白川真奈美, 佐藤由紀子, 土井光暢*¹, 田中正一*², 栗原正明: 核内受容体-コアクチベータ結合阻害ペプチドの開発.

日本ケミカルバイオロジー学会第8回年会 (2013.6)

*¹大阪薬科大学

*²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

古場百合恵*¹, 平田陽子*¹, 大庭誠*¹, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢*², 田中正一*¹: アセタールを有する光学活性5員環アミノ酸の合成とそのペプチドの二次構造解析.

第50回化学関連支部合同九州大会 (2013.7)

*¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

*²大阪薬科大学

小野京*¹, 島袋充史*¹, 大庭誠*¹, 土井光暢*², 栗原正明, 出水庸介, 田中正一*¹: 光学活性環状メチオニンよりなるペプチドの合成とその二次構造解析.

第50回化学関連支部合同九州大会 (2013.7)

*¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

*²大阪薬科大学

川村愛, 出水庸介, 佐藤由紀子, 栗原正明: マイクロ波の利用によるVDR-コアクチベータ結合阻害ペプチドの迅速合成.

第57回日本薬学会関東支部大会 (2013.10)

山崎徳和, 出水庸介, 佐藤由紀子, 土井光暢*¹, 栗原正明: ジアミンとジカルボン酸から構成されるヘリカルフォルダマーの創製.

第57回日本薬学会関東支部大会 (2013.10)

* 大阪薬科大学

山下博子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 大庭誠*¹, 田中正一*², 栗原正明: 二次構造制御に基づく細胞膜透過性ペプチドの創製.

第57回日本薬学会関東支部大会 (2013.10)

* 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

出水庸介, 山下博子, 佐藤由紀子, 土井光暢^{*1}, 大庭誠^{*2}, 田中正一^{*2}, 栗原正明: α, α -ジ置換アミノ酸によるLD-ペプチドのヘリカル構造制御.

第57回日本薬学会関東支部大会 (2013.10)

^{*1}大阪薬科大学

^{*2}長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

榎原紀和^{*1}, 濱崎隆之^{*2}, 馬場昌範^{*2}, 出水庸介, 栗原正明, 入江晃司^{*1}, 岩井雅俊^{*1}, 加藤善久^{*1}, 丸山徳見^{*1}: 非核酸系逆転写酵素阻害剤としての新規ウラシル誘導体合成とその抗HIV-1活性評価.

第52回薬学会中国四国支部学術大会 (2013.10)

^{*1}徳島文理大学香川薬学部

^{*2}鹿児島大学医学部

榎原紀和^{*1}, 濱崎隆之^{*2}, 馬場昌範^{*2}, 出水庸介, 栗原正明, 入江晃司^{*1}, 岩井雅俊^{*1}, 加藤善久^{*1}, 丸山徳見^{*1}: 簡便な3-(3,5-ジメチルベンジル)ウラシルの新規誘導体の合成とその抗HIV-1活性評価.

第43回複素環化学討論会 (2013.10)

^{*1}徳島文理大学香川薬学部

^{*2}鹿児島大学医学部

出水庸介, 山崎徳和, 山下博子, 佐藤由紀子, 大庭誠^{*}, 田中正一^{*}, 栗原正明: 細胞膜高透過性ペプチドの開発を目的としたヘリカル構造固定化アミノ酸の創製.

第39回反応と合成の進歩シンポジウム (2013.11)

^{*}長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

出水庸介, 山崎徳和, 山下博子, 佐藤由紀子, 大庭誠^{*}, 田中正一^{*}, 栗原正明: 細胞膜高透過性ヘリカルペプチドの開発を目的としたアルギニン誘導体の合成.

第31回メディシナルケミストリーシンポジウム (2013.11)

^{*}長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

加藤雅士^{*}, 正田卓司, 奥平桂一郎, 井上英史^{*}, 内藤幹彦, 栗原正明: エンドキシフェン骨格を持つ新規エストロゲン受容体分解誘導体の開発.

第31回メディシナルケミストリーシンポジウム (2013.11)

^{*}東京薬科大学

梅焱^{*}, 山本耕介^{*}, 岡住三枝子^{*}, 出水庸介, 栗原正明, 末宗洋^{*}, 白井一晃^{*}: 生体触媒を利用したアセトキシ[5]ヘリセン類の速度論的光学分割.

第30回薬学会九州支部大会 (2013.12)

^{*}九州大学大学院薬学部

小野京^{*1}, 島袋充史^{*1}, 大庭誠^{*1}, 土井光暢^{*2}, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一^{*1}: 光学活性5員環メチオニンよりなるペプチドの二次構造解析.

第30回日本薬学会九州支部大会 (2013.12)

^{*1}長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

^{*2}大阪薬科大学

古場百合恵^{*1}, 平田陽子^{*1}, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢^{*2}, 大庭誠^{*1}, 田中正一^{*1}: アセタールを有するキララな5員環アミノ酸よりなるペプチドの二次構造解析.

第30回日本薬学会九州支部大会 (2013.12)

^{*1}長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

^{*2}大阪薬科大学

杉山亨^{*1}, 桑田啓子^{*2}, 今村保忠^{*3}, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史^{*4}, 橘高敦史^{*4}: 側鎖に金属錯体を持った β -PNAによる配列特異的DNA切断.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1}東京大学大学院総合文化研究科

^{*2}名古屋大学ITbM

^{*3}工学院大学

^{*4}帝京大学薬学部

小野京^{*1}, 島袋充史^{*1}, 大庭誠^{*1}, 土井光暢^{*2}, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一^{*1}: 5員環状メチオニンよりなるペプチドの二次構造解析.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1}長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

^{*2}大阪薬科大学

古場百合恵^{*1}, 平田陽子^{*1}, 出水庸介, 土井光暢^{*2}, 栗原正明, 大庭誠^{*1}, 田中正一^{*1}: 側鎖にアセタールを持つ5員環アミノ酸を含有するペプチドの二次構造解析.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1}長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

*²大阪薬科大学

正田卓司, 中野達也, 瀧明子, 長谷川式子, 出水庸介, 大野彰子, 宮田直樹*, 奥田晴宏, 栗原正明: 日本薬局方名称データベースおよび日本医薬品一般名称データベースについて.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 名古屋市立大学大学院薬学研究科

加藤雅士*, 正田卓司, 奥平桂一郎, 井上英史*, 内藤幹彦, 栗原正明: タモキシフェン骨格を有する新規エストロゲン受容体分解誘導剤の開発.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 東京薬科大学

原田麟太郎, 正田卓司, 加藤雅士, 出水庸介, 栗原正明: N修飾型タモキシフェン誘導体の合成.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

宇都宮亮, 依岡桃子, 野島萌子, 佐藤由紀子, 出水庸介, 栗原正明: 非対称ビスフェノールの効率的合成.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

依岡桃子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 栗原正明: ノンセコ型ビタミンD受容体アンタゴニストの創製.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

山下博子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 大庭誠*, 田中正一*, 栗原正明: 細胞膜透過性ヘリカルペプチドの創製.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

川村愛, 出水庸介, 佐藤由紀子, 栗原正明: VDR-コアクチベータ結語阻害ペプチドの設計とマイクロ波を用いた迅速合成.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

長久保貴哉, 出水庸介, 佐藤由紀子, 諫田泰成, 奥平桂一郎, 関野裕子, 内藤幹彦, 栗原正明: エストロゲン受容体転写阻害ペプチドの創製.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

山崎徳和, 出水庸介, 佐藤由紀子, 土井光暢*, 栗原正明: (1*S*,2*S*)-シクロペンタンジアミンと2,2-ジメチルマ

ロン酸から構成されるオリゴマーの構造解析.
日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 大阪薬科大学

出水庸介, 土井光暢*¹, 佐藤由紀子, 田中正一*², 栗原正明: LD-ペプチドのヘリカル構造制御.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹大阪薬科大学

*²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

Oba M*¹, Kato I*¹, Demizu Y, Kurihara M, Doi M*², Takano Y*³, Suemune H*³, Tanaka, M*¹: Synthesis of cyclic α -amino acids bearing a pendent chiral center and conformational studies on peptides containing their amino acids in Aib sequence.

The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (2013.5)

*¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

*²大阪薬科大学

*³九州大学大学院薬学府

Demizu Y, Nagoya S, Sato Y, Doi M*¹, Tanaka M*², Kurihara M: Development of stabilized helical peptides for VDR-coactivator interaction inhibitor.

The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (2013.5)

*¹大阪薬科大学

*²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

Demizu Y, Kawamura M, Sato Y, Doi M*¹, Tanaka M*², Kurihara M: Development of stabilized helical peptides for vitamin D receptor-coactivator interaction inhibitor. The 10th Australian Peptide Conference 2013 (2013.9)

*¹大阪薬科大学

*²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

Oba M*¹, Kato I*¹, Demizu Y, Kurihara M, Doi M*², Takano Y*³, Suemune H*³, Tanaka M*¹: Synthesis of cyclic α,α -disubstituted amino acids bearing a pendent chiral center and conformational analysis of heteropeptides containing their amino acids.

The 10th Australian Peptide Conference 2013 (2013.9)

*¹ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

*² 大阪薬科大学

*³ 九州大学大学院薬学府

Demizu Y, Kawamura M, Sato Y, Doi M^{*1}, Tanaka M^{*2}, Kurihara M: Development of short helical peptides capable for inhibiting vitamin D receptor-coactivator interactions.

The 2nd Official Conference of the International Chemical Biology Society (ICBS2013) (2013.10)

*¹ 大阪薬科大学

*² 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

Sugiyama T^{*1}, Kuwata K^{*2}, Imamura Y^{*3}, Demizu Y, Kurihara M, Takano M^{*4}, Kittaka A^{*4}: Sequence-specific cleavage of DNA by β -peptide nucleic acid bearing a pendant metal complex.

4th Asia-Pacific International Peptide Symposium (APIPS2013) (2013.11)

*¹ 東京大学大学院総合文化研究科

*² 名古屋大学ITbM

*³ 工学院大学

*⁴ 帝京大学薬学部

Yamazaki N, Demizu Y, Sato Y, Doi M^{*}, Kurihara M: Development of helical foldamer containing a combination of cyclopentane-1,2-diamine and 2,2-dimethylmalonic acid.

4th Asia-Pacific International Peptide Symposium (APIPS2013) (2013.11)

* 大阪薬科大学

Demizu Y, Yamashita H, Sato Y, Doi M^{*1}, Oba M^{*2}, Tanaka M^{*2}, Kurihara M: Helical screw-sense control of LD-peptides containing equal amounts of L- and D-amino acids.

4th Asia-Pacific International Peptide Symposium (APIPS2013) (2013.11)

*¹ 大阪薬科大学

*² 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

奥平桂一郎, 大岡伸通, 最上(西巻)知子, 伊藤幸裕^{*},

石川稔^{*}, 橋本祐一^{*}, 内藤幹彦: 細胞内に局在するタンパク質を標的としたプロテインノックダウン効果の検討. 第17回日本がん分子標的治療学会学術集会 (2013.6)

* 東京大学分子細胞生物学研究所

Okuhira K, Demizu Y, Ohoka N, Shibata N, Hattori T, Nishimaki-Mogami T, Kurihara M, Okuda H, Naito M: SNIPER induces ubiquitylation and proteasomal degradation of estrogen receptor followed by rapid cell death in breast cancer cells.

The 35th Naito Conference; The Ubiquitin-Proteasome System (2013.7)

内田千晴^{*1}, 服部隆行, 高橋宏隆^{*2}, 山本直樹^{*3}, 北川雅敏^{*1}, 田矢洋一^{*3}: 分裂期進行におけるRBタンパク質とNuMAの相互作用の関与.

第86回日本生化学会大会 (2013.9)

*¹ 浜松医科大学

*² 愛媛大学

*³ 国立シンガポール大学

大岡伸通, 大畑広和^{*}, 内藤幹彦: Apollon binds cyclin A and promotes degradation in early mitosis independent of spindle assembly checkpoint.

第72回日本癌学会学術総会 (2013.10)

* 国立がんセンター研究所

柴田識人, 大岡伸通, 権藤洋一^{*}, 内藤幹彦: 終止コードのリードスルー変異によるユビキチン-プロテオソーム系を介したFLIPLの蛋白質不安定化.

第72回日本癌学会学術総会 (2013.10)

* (独) 理化学研究所バイオリソースセンター

Okuhira K, Demizu Y, Hattori T, Ohoka N, Shibata N, Nishimaki-Mogami T, Okuda H, Kurihara M, Naito M: Development of hybrid small molecules that induce degradation of estrogen receptor-alpha and necrotic cell death in breast cancer cells.

AACR-NCI-EORTC International Conference on Molecular Targets and Cancer Therapeutics (2013.10)

内田千晴^{*1}, 服部隆行, 高橋宏隆^{*2}, 山本直樹^{*3}, 北川雅敏^{*1}, 田矢洋一^{*3}: pRB-NuMAの相互作用はE2F1の機

能制御ならびに細胞周期進行に関わる。
第36回日本分子生物学会年会 (2013.12)

*¹ 浜松医科大学

*² 愛媛大学

*³ 国立シンガポール大学

服部隆行, 高橋美帆*, 大岡伸通, 西川喜代孝*, 内藤幹彦: プロテアソーム阻害によるシガトキシン誘導性アポトーシス様細胞死の抑制。

第36回日本分子生物学会年会 (2013.12)

* 同志社大学

Ohoka N, Ohata H*, Naito M: Apollon binds cyclin A and promotes degradation in early mitosis independent of spindle assembly checkpoint.

Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, The Ubiquitin System: From Basic Science to Drug Discovery (2014.1)

* 国立がんセンター研究所

Okuhira K, Demizu Y, Ohoka N, Shibata N, Hattori T, Nishimaki-Mogami T, Kurihara M, Okuda H, Naito M: Bestatin/tamoxifen hybrid molecule induces proteasomal degradation of estrogen receptor α and necrotic cell death in breast cancer cells.

Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, The Ubiquitin System: From Basic Science to Drug Discovery (2014.1)

大岡伸通, 大畑広和*, 内藤幹彦: Apollonは細胞分裂初期においてスピンドルチェックポイント非依存的な cyclin Aの分解を促進する。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 国立がんセンター研究所

服部隆行, 高橋美帆*, 西川喜代孝*, 内藤幹彦: 志賀毒素耐性THP-1細胞クローンの単離と解析。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 同志社大学

柴田識人, 内藤幹彦, Christopher K Glass*: 25ハイドロキシコレステロールによる抗ウイルス作用の分子機構。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* カリフォルニア大学サンディエゴ校

奥平桂一郎, 出水庸介, 服部隆行, 大岡伸通, 柴田識人, 最上(西巻)知子, 栗原正明, 奥田晴宏, 内藤幹彦: エストロゲン受容体分解誘導剤による乳癌の細胞死誘導分子機構。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

Nishimaki-Mogami T, Cui H, Wu W, Okuhira K, Naito M, Nishimura T, Sakamoto Y*, Ogata A*, Maeno T*, Inomata A*, Nakae D*, Miyazawa K*, Hirose A: High-temperature calcined fullerene nanowhiskers and multi-wall carbon nanotubes have abilities to induce IL-1 β secretion through NLRP3-dependent mechanism, depending on their lengths.

EUROTOX 2013 (2013.9)

*¹ 東京都健康安全研究センター

*² 物質・材料研究機構

蜂須賀暁子, 鍋師裕美, 堤智昭, 中村里香, 手島玲子, 松田りえ子: 食品中放射能スクリーニング検査の性能要件と測定機器について。

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

黒河志保*^{1,2}, 中村里香, 目島未央*², 秦裕子*², 黒田昌治*³, 竹山夏実*^{2,4}, 尾山大明*², 佐藤茂*¹, 清野宏*², 増村威宏*¹, 手島玲子, 幸義和*²: 経口コメ型ワクチン MucoRice-CTBにおける主要アレルゲンのプロテオーム解析。

日本農芸化学会関西支部例会(第479回講演会) (2013.5)

*¹ 京府大院・生命環境

*² 東大・医科研

*³ 中央農研・北陸セ

*⁴ 日生研

中村里香, 中村亮介, 安達玲子, 蜂須賀暁子, 三沢典彦*, 手島玲子: アスタキサンチン組換えレタスを用いたアレルゲン性の解析。

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

* 石川県立大学

相馬愛実, 中村亮介, 中村里香, 齋藤嘉朗, 川上浩*,

手島玲子：EXiLE法を用いた卵白アルブミンのIgE架橋活性への加熱および固相化の影響の解析。

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

* 共立女子大学

唐澤未来, 中村亮介, 酒井信夫, 安達玲子, 齋藤嘉朗, 最上知子, 山崎壮*, 手島玲子：EXiLE法を用いた牛乳アレルギー患者IgEに反応する乳糖中に含まれるアレゲンの解析。

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* 実践女子大学

近藤一成, 坂田こずえ, 赤星千絵*¹, 黒飛希美*², 中村公亮, 野口秋雄, 小林友子, 手島玲子：安全性未承認遺伝子組換え食品検知法における感度と精度について (コメの場合)。

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

*¹ 川崎市健康安全研究所

*² 横浜検疫所

近藤一成, 中村公亮, 野口秋雄, 坂田こずえ, 小林友子, 福田のぞみ, 手島玲子, 最上 (西巻) 知子：毒きのこドフラフトゲノムシーケンス。

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

Kitta K*, Kondo K, Teshima R, Nakamura K, Noguchi A, Takabatake R*, Mano J*: Novel monitoring scheme for authorized GM maize.

GMCC-13 (2013.11)

* (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

Nakamura K, Kobayashi T, Nakamura S*, Kondo K, Teshima R: Development of a novel heterogeneous and homogeneous gene screening method for detecting unauthorized genetically modified rice in processed rice products.

Pharma-nutrition 2013 (2013.4)

* 信州大学

真野潤一*, 中村公亮, 近藤一成, 手島玲子, 高畠令王奈*, 橋田和美*: デジタルPCRを利用した遺伝子組換え農産物の高精度定量。

第105回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5)

* (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

真野潤一*¹, 原田美央子*¹, 波田野修子*², 布藤聡*², 峯岸恭孝*³, 則武寛通*⁴, 飯塚太由*⁵, 中村公亮, 穂山浩, 手島玲子, 高畠令王奈*¹, 古井聡*¹, 橋田和美*¹: 遺伝子組換え農産物網羅的検知法の単一試験室による妥当性確認。

2013年度AOAC International日本セクション年次大会 (2013.6)

*¹ (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

*² (株) ファスマック

*³ (株) ニッポンジーン

*⁴ (独) 農林水産消費安全技術センター

*⁵ (財) 食品環境検査協会

中村公亮, 穂山浩, 河野徳昭*¹, 小林友子, 吉松嘉代*¹, 真野潤一*², 橋田和美*², 大森清美*³, 野口秋雄, 近藤一成, 手島玲子：コメ加工食品に混入した未承認遺伝子組換えコメ由来の遺伝子コピー数の測定。

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

*¹ (独) 医薬基盤研究所

*² (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

*³ 神奈川県衛生研究所

中村公亮, 穂山浩, 小林友子, 野口秋雄, 高畠令王奈*¹, 橋田和美*¹, 橋本博之*², 川上浩*³, 近藤一成, 手島玲子：加工食品中の遺伝子組換えジャガイモ由来DNAを高感度に検出するためのPCRプライマー設計について。

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

*¹ (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

*² 千葉県衛生研究所

*³ 共立女子大学

伊東篤志*¹, 田口朋之*¹, 田名網健雄*¹, 羽田聖治*¹, 中村公亮, 近藤一成, 穂山浩, 手島玲子, 佐々木伸大*², 山口友紀絵*², 宮原平*², 山田晃世*², 小関良宏*²: DNAマイクロアレイによるGMOスクリーニング検査法の開発。

日本食品化学学会第19回総会・学術大会 (2013.8)

*¹ 横河電気(株)

*² 東京農工大学

中村公亮, 近藤一成, 小林友子, 野口秋雄, 坂田こずえ, 大森清美^{*1}, 笠原正輝^{*2}, 高畠令王奈^{*3}, 橘田和美^{*3}, 手島玲子: 安全性未承認遺伝子組換えパパイヤ (PRSV-YK) 検知法の試験室間共同試験による妥当性確認.
第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

^{*1} 神奈川県衛生研究所

^{*2} (独) 農林水産消費安全技術センター

^{*3} (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

真野潤一^{*1}, 波田野修子^{*2}, 布藤聡^{*2}, 峯岸恭孝^{*3}, 二宮健二^{*4}, 中村公亮, 近藤一成, 手島玲子, 高畠令王奈^{*1}, 橘田和美^{*1}: ダイレクトリアルタイムPCRによる食品分析の可能性検証.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

^{*2} (株) ファスマック

^{*3} (株) ニッポンジーン

^{*4} (株) 鳥津製作所

中村公亮, 小林友子, 真野潤一^{*}, 野口秋雄, 橘田和美^{*}, 手島玲子, 近藤一成, 最上 (西巻) 知子: 漂白剤処理されたドライフルーツからの内在性遺伝子の検知について.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*} (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

中村公亮, 小林友子, 野口秋雄, 大森清美^{*1}, 高畠令王奈^{*2}, 橘田和美^{*2}, 穂山浩, 手島玲子, 近藤一成, 最上 (西巻) 知子: 熱帯・亜熱帯地域で開発の進む遺伝子組換えパパイヤの加工食品からの検出について.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} 神奈川県衛生研究所

^{*2} (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

東城雄満^{*1}, 西野浩史^{*1}, 中村公亮, 近藤一成, 深谷崇^{*1}, 大平真義^{*1}, 中西和樹^{*2}: シリカモノリススペースによる複雑系穀物マトリックスからDNAの抽出・精製.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} ジーエルサイエンス

^{*2} 京都大学

中村公亮, 小林友子, 近藤一成, 最上 (西巻) 知子: 遺伝子組換えに汎用されるウィルスプロモーターのエピジ

ェネティックメチル化修飾パターン解析.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

野口秋雄, 穂山浩, 中村公亮, 坂田こずえ, 真野潤一^{*1}, 高畠令王奈^{*1}, 峯岸恭孝^{*2}, 布藤聡^{*3}, 橘田和美^{*1}, 近藤一成, 手島玲子: スタック品種混入粉末試料における遺伝子組換えトウモロコシの定量法開発.
第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

^{*1} (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

^{*2} (株) ニッポンジーン

^{*3} (株) ファスマック

野口秋雄, 坂田こずえ, 真野潤一^{*1}, 中村公亮, 高畠令王奈^{*1}, 峯岸恭孝^{*2}, 橘田和美^{*1}, 穂山浩, 手島玲子, 近藤一成, 最上 (西巻) 知子: 2010年度米国産不分別遺伝子組換えトウモロコシ試料中の系統分析.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

^{*2} (株) ニッポンジーン

真野潤一^{*1}, 西村泰之^{*2}, 菊池洋介^{*2}, 福留真一^{*2}, 遠藤繁^{*2}, 林田拓也^{*3}, 川上裕之^{*3}, 栗本洋一^{*3}, 野口秋雄, 近藤一成, 手島玲子, 高畠令王奈^{*1}, 橘田和美^{*1}: リアルタイムPCRを用いた食品加工度評価手法の開発.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} (独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

^{*2} (株) 日清製粉グループ

^{*3} 日本製粉(株)

坂田こずえ, 小櫃冴未, 中村公亮, 小林友子, 野口秋雄, 福田のぞみ, 最上 (西巻) 知子, 手島玲子, 近藤一成: クサウラベニタケおよび近縁種のPCR-RFLPを用いた迅速同定法 (第2報): 加熱, 消化処理サンプルへの適用.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

菅野陽平, 坂田こずえ, 野口秋雄, 中村公亮, 小林友子, 福田のぞみ, 佐藤正幸^{*1}, 最上 (西巻) 知子, 手島玲子, 長澤栄史^{*2}, 近藤一成: ツキヨタケおよび近縁種のPCR-RFLPを用いた迅速同定法の検討.
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

^{*1} 北海道衛生研究所

^{*2} きのこセンター菌茸研究所

近藤一成：健康食品の安全性評価について。
第18回日本フードファクター学会学術集会 (2013.11)

安達玲子, 酒井信夫, 木村美恵, 中村里香, 福富友馬*,
手島玲子：小麦タンパク質経皮感作能への酸加水分解の
効果に関するマウスモデル実験系を用いた検討。
第25回日本アレルギー学会春季臨床大会 (2013.5)

* 国立病院機構相模原病院

金澤由基子*¹, 安達玲子, 小島幸一*², 筒井尚久*³, 佐
藤一博*⁴, 森本隆史*⁵, 武吉正博*⁶, 牧栄二*⁷, 小島肇：
*In vitro*皮膚感作性試験代替法：KeratinoSens assay の
JaCVAM第三者評価委員会における検証状況。
第20回日本免疫毒性学会学術大会 (2013.9)

*¹ (独)医薬品医療機器総合機構

*² 食品薬品安全センター

*³ 田辺三菱製薬

*⁴ 福井大学

*⁵ 住友化学

*⁶ 化学物質評価研究機構

*⁷ 安全性試験コンサルタント

武吉正博*¹, 佐藤一博*², 森本隆史*³, 筒井尚久*⁴, 安達
玲子, 金澤由基子*⁵, 小島幸一*⁶, 牧栄二*⁷, 小島肇：
In vitro 皮膚感作性試験代替法：Direct Peptide
Reactivity Assay (DPRA) のJaCVAM 第三者評価委員
会における検証状況。
第20回日本免疫毒性学会学術大会 (2013.9)

*¹ 化学物質評価研究機構

*² 福井大学

*³ 住友化学

*⁴ 田辺三菱製薬

*⁵ (独)医薬品医療機器総合機構

*⁶ 食品薬品安全センター

*⁷ 安全性試験コンサルタント

加藤重城*, 加藤綾子*, 秋元政信*, 安達玲子, 酒井信
夫, 穂山浩, 手島玲子：キウイフルーツタンパク質検出
用ELISAキットの多機関バリデーション。
第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

* プリマハム(株)

成田宏史*¹, 岡崎史子*¹, 猪又直子*², 森山達哉*³, 山口

友貴絵*⁴, 安達玲子：新規モモアレルゲンPur p7：特異
抗体による定量トリコンビナント抗原の作製。
第63回日本アレルギー学会秋季学術大会 (2013.11)

*¹ 京都女子大学

*² 横浜市立大学

*³ 近畿大学

*⁴ 京都栄養医療専門学校

安達玲子：アレルギー物質を含む食品の表示と検査法に
関する動向。

日本食品免疫学会第8回宿泊セミナー (2013.11)

安達玲子, 酒井信夫, 中村里香, 木村美恵, 佐々木和実*¹,
西嶋桂子*¹, 安宅花子*¹, 福富友馬*², 最上(西巻)知
子, 手島玲子：コムギタンパク質酸加水分解物の分子特性
解析及び経皮感作性の検討。

日本薬学会第134年会 (2014.3)

*¹ (独)製品評価技術基盤機構

*² 国立病院機構相模原病院

Sakai S, Nakamura R, Nakamura R, Adachi R, Teshima
R: Food allergic proteins in lactose as the
pharmaceutical excipient.

IMMUNOLOGY 2013 (2013.5)

Sakai S: Japanese food allergy-labeling system based on
regulatory science.

食のハラールと検定・分析技術に関するワークショップ
(2013.5)

Sakai S, Adachi R, Kato S*¹, Kato A*¹, Akimoto M*¹,
Akiyama H, Urisu A*², Teshima R: An Interlaboratory
Study of the Enzyme-Linked Immunosorbent Assay for
the Determination of Allergenic Kiwifruit Protein in
Processed Foods.

127th AOAC Annual Meeting & Exposition
(2013.8)

*¹ プリマハム(株)

*² 藤田保健衛生大学

酒井信夫, 中村里香, 薮島由二, 福井千恵, 鈴木孝昌,
中村亮介, 蜂須賀暁子, 安達玲子, 手島玲子：加水分解
小麦(グルパール19S)に特異的に発現するペプチドの
探索及び同定。

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

佐久間智宏^{*1}, 石井里恵^{*2}, 五十嵐友二^{*1}, 後藤浩文^{*1}, 岡本正志^{*3}, 佐伯憲一^{*4}, 佐野満昭^{*5}, 酒井信夫, 手島玲子, 三野芳紀^{*6}: 食品成分試験法 食物アレルギー.
日本薬学会第134年会 (2014.3)

^{*1} 日本食品分析センター

^{*2} 埼玉県衛生研究所

^{*3} 神戸学院大学

^{*4} 金城学院大学

^{*5} 名古屋女大学

^{*6} 大阪薬科大学

Sakai S, Adachi R, Nakamura R, Kimura Y, Nakamura R, Sasaki K^{*1}, Nishijima K^{*1}, Ataku H^{*1}, Fukutomi Y^{*2}, Nishimaki-Mogami T, Teshima R: Molecular Profile Analysis of Allergenic Acid Hydrolyzed Wheat Protein. Society of Toxicology 53rd Annual Meeting and ToxExpo (2014.3)

^{*1} (独) 製品評価技術基盤機構

^{*2} 国立病院機構相模原病院

山口浩明^{*1}, 小原拓^{*2}, 佐藤倫広^{*2}, 青木良子, 天沼喜美子, 大久保孝義^{*3}, 村井ユリ子^{*2}, 高村茂生^{*4}, 山田武宏^{*4}, 眞野成康^{*2}, 井関健^{*1}: 薬剤師における医薬品安全性評価に関する認識および実践に関する調査.
第16回日本医薬品情報学会学術大会 (2013.8)

^{*1} 北海道大学大学院薬学研究院臨床薬剤学研究室

^{*2} 東北大学病院薬剤部

^{*3} 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座

^{*4} 北海道大学病院薬剤部

太田有子, 青木良子, 天沼喜美子, 春日文字: 欧州EMAにおける新ファーマコビジランス法施行後の医薬品安全性レビューとその情報提供.
第3回レギュラトリーサイエンス学会学術大会 (2013.9)

飯田優太郎^{*1,2}, 小原拓^{*1-3}, 尾崎美実^{*1,2}, 高田紀子^{*1,2}, 鈴木理紗子^{*1,2}, 佐藤倫広^{*1}, 青木良子, 天沼喜美子, 大久保孝義^{*4}, 松浦正樹^{*1,2}, 佐藤真由美^{*1,2}, 眞野成康^{*1,2}: 病院薬剤師における医薬品安全性評価に関する認識および実践に関する調査.
第23回日本医療薬学会年会 (2013.9)

第23回日本医療薬学会年会 (2013.9)

^{*1} 東北大学病院薬剤部

^{*2} 宮城県病院薬剤師会

^{*3} 東北大学東北メディカル・メガバンク機構予防医学・疫学部門

^{*4} 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座

天沼喜美子, 青子良子, 春日文字: 国立衛研「医薬品安全性情報」ウェブサイトによる情報提供.

第27回公衆衛生情報研究協議会総会及び研究会 (2014.1)

太田有子, 前田初代, 丸野有利子, 青木良子, 天沼喜美子, 春日文字: 国立衛研「医薬品安全性情報2013年」から-FDAの「市販後医薬品安全性評価」およびEMAの「安全性シグナル」での公表情報について.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

青木良子, 太田有子, 丸野有利子, 前田初代, 天沼喜美子, 春日文字: 妊娠中の医薬品使用と乳児や出産への有害影響に関する最近の研究.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

Kubota K, Amanuma H, Iwasaki E^{*1}, Yanagisawa H^{*2}, Shimojima S^{*3}, Shibuya Y^{*4}, Sakurai Y^{*5}, Komatsu M^{*5}, Oguro M^{*6}, Matsuki F^{*6}, Kasuga F: Estimating the burden of foodborne illness in Japan using clinical laboratory data for whole of Japan, 2006-2010.

International Association for Food Protection, 2013 Annual Meeting (2013.7)

^{*1} Health and Prevention Policy Institute

^{*2} MIROKU Medical Laboratory Co., Ltd.

^{*3} Bio Medical Laboratories (BML) Inc.

^{*4} Mitsubishi Chemical Medience Corporation

^{*5} Miyagi Medical Association

^{*6} Sendai City Institute of Public Health

窪田邦宏, 天沼宏, 小林正裕^{*1}, 松木信幸^{*1}, 桜井芳明^{*2}, 小松真由美^{*2}, 柳沢英二^{*3}, 坂上武文^{*3}, 滝将太^{*3}, 霧島正浩^{*4}, 渋谷俊介^{*5}, 春日文字: 異なるサーベイランスデータからの食中毒被害実態推定の比較.

第34回日本食品微生物学会学術総会 (2013.10)

^{*1} 仙台市衛生研究所

^{*2} 宮城県医師会健康センター

^{*3} (株) ミロクメディカルラボトリー

^{*4} (株) ビー・エム・エル

^{*5} 三菱化学メディアエンス(株)

窪田邦宏, 天沼宏, 春日文子: 「食品安全情報 (微生物)」で紹介した欧州の最近のボツリヌス食中毒事例.
第27回公衆衛生情報研究協議会総会 (2014.1)

Toda M, Uneyama C, Kasuga F: Trends of food poisonings caused by poisonous plants in Japan, 1989-2010.

The XIII International Congress of Toxicology 2013 (2013.7)

登田美桜, 畝山智香子, 春日文子: わが国における動物性自然毒による食中毒の傾向.

第106回日本食品衛生学会学術講演会 (2013.11)

登田美桜: 日本国内で発生する自然毒による食中毒.

第50回全国衛生化学技術協議会年会 (2013.11)

登田美桜, 畝山智香子, 春日文子: 昭和36年~平成22年に報告された高等植物による食中毒事例の傾向.

第28回日本中毒学会東日本地方会 (2014.1)

登田美桜, 畝山智香子, 春田一絵, 春日文子: いわゆる健康食品に関する海外情報について - 「食品安全情報」の記事をもとに -.

第27回公衆衛生情報研究協議会総会 (2014.1)

畝山智香子: 健康食品やサプリメントの安全性.

第23回日本医療薬学会年会 (2013.9)

森田健: ECVAMワークショップ報告, Ames陽性のフォロアアップとしてin vitro哺乳類細胞試験は利用可能か?.

JEMS・MMS研究会第62回定例会 (2013.5)

Morita T, Kojima H, Hayashi M*: General principles of chemical selection for in vivo validation studies.

The XIII International Congress of Toxicology (2013.7)

* Biosafety Research Center

Morita T: Information gathering and evaluation of data quality for safety assessment of chemicals.

The 3rd China Annual Meeting of Drug Toxicology (2013.7)

Morita T, Hatano A, Honma M: Effects of reduction of the top concentration limit used in the in vitro

chromosomal aberration test.

49th Congress of the European Societies of Toxicology (2013.9)

Hamada S^{*1}, Ohyama W^{*2}, Takashima R^{*1}, Shimada K^{*3}, Matsumoto K^{*4}, Kawakami S^{*5}, Uno F^{*6}, Matsumoto H^{*7}, Nakai T^{*8}, Imamura T^{*9}, Matsumura S^{*10}, Sanada H^{*11}, Inoue K^{*12}, Muto S^{*13}, Ogawa I^{*14}, Hayashi A^{*15}, Takayanagi T^{*16}, Ogiwara Y^{*17}, Maeda A^{*18}, Okada E^{*2}, Terashima Y^{*19}, Takasawa H^{*1}, Narumi K^{*2}, Wako Y^{*1}, Kawasaki K^{*1}, Morita T, Kojima H, Honma M, Hayashi M^{*6}: Evaluation of repeated dose liver and gastrointestinal tract micronucleus assay with 22 chemicals using young adult rats (III): Summary of collaborative study by CSGMT/JEMS.MMS.

44th Annual Meeting of the Environmental Mutagenesis and Genomics Society (2013.9)

*¹ Mitsubishi Chemical Medience Corporation

*² Yakult Honsha

*³ Astellas Pharma

*⁴ Astellas Research Technologies

*⁵ Asahi Kasei Pharma

*⁶ Biosafety Research Center

*⁷ Food and Drug Safety Center

*⁸ Hokko Chemical Industry

*⁹ Ina Research

*¹⁰ Kao Corporation

*¹¹ Kaken Pharmaceutical

*¹² Maruho

*¹³ Mitsubishi Tanabe Pharma

*¹⁴ Nissan Chemical Industries

*¹⁵ Shin Nippon Biomedical Laboratories

*¹⁶ Suntory Business Expert

*¹⁷ Taisho Pharmaceutical

*¹⁸ Toray Industries

*¹⁹ Kissei Pharmaceutical

Morita T: Micronucleus test other than bone marrow/peripheral blood and liver.

6th International Workshop on Genotoxicity Testing (2013.10)

Morita T, Hatano A, Honma M: New top concentration limit will not improve positive ratio in the in vitro chromosomal aberration test, resulting in small

improvement of false positives.

11th International Conference of Environmental Mutagens (2013.11)

森田健, 幡野晶子, 本間正充: 改訂OECD TGで提案された最高上限濃度では偽陽性の削減は期待できない.

日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

森田健: 化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS) による化学物質の危険有害性情報の伝達. 第27回公衆衛生情報研究協議会総会 (2014.1)

斎藤嘉朗, 鹿庭なほ子, 佐井君江, 花谷忠昭, 中村亮介, 前川京子: ゲノミクスおよびメタボロミクス解析によるバイオマーカー探索.

第16回日本医薬品情報学会総会 (2013.8)

Saito Y, Sugiyama Y, Sai K, Asano K*, Takamatsu S*: アジア人における薬物応答関連遺伝子の機能解析7種に関する民族比較.

日本薬物動態学会第28回年会 (2013.10)

* 医薬品医療機器総合機構

斎藤嘉朗, 頭金正博^{*1}, 中村亮介, 関根章博^{*2}, 鹿庭なほ子: 重篤副作用におけるGWAS解析.

日本人類遺伝学会第58回大会 (2013.11)

^{*1} 名古屋市立大学

^{*2} 京都大学

Saito Y, Kaniwa N: Pharmacogenomics studies of drug hypersensitivity in Japan.

8th International Congress on Cutaneous Adverse Drug Reactions (2013.11)

斎藤嘉朗, 杉山永見子, 松澤由美子, 阿佐野霞*, 高松昭司*, 佐井君江: 遺伝子多型からみた東アジア圏の民族差.

第34回日本臨床薬理学会学術総会 (2013.12)

* 医薬品医療機器総合機構

斎藤嘉朗, 児玉進, 杉山永見子, 中村亮介: 重篤副作用に関する予測ゲノムマーカー.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

斎藤嘉朗, 頭金正博*: 医薬品開発・適正使用におけるバイオマーカー利用とレギュラトリーサイエンス. 日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 名古屋市立大学

鹿庭なほ子: ゲノムバイオマーカーの市販後安全対策への応用.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

花谷忠昭, 佐井君江, 頭金正博^{*1}, 瀬川勝智, 木村通男^{*2}, 堀雄史^{*2}, 川上純一^{*2}, 斎藤嘉朗: 医療情報データベースを用いた薬剤性肝障害検出アルゴリズムの構築.

第16回医薬品情報学会 (2013.8)

^{*1} 名古屋市立大学

^{*2} 浜松医科大学

Hanatani T, Sai K, Tohkin M^{*1}, Segawa K, Kimura M^{*2}, Hori K^{*2}, Kawakami J^{*2}, Saito Y: Development of an algorithm for detecting heparin-induced thrombocytopenia and assessment of the risk factors using a medical information database.

第29回国際薬剤疫学会 (2013.8)

^{*1} 名古屋市立大学

^{*2} 浜松医科大学

Sai K, Hanatani T, Azuma Y, Segawa K, Tohkin M^{*1}, Omatsu H^{*2}, Makimoto H^{*2}, Hirai M^{*2}, Saito Y: A detection algorithm for statin-induced myopathy using electronic medical records.

第29回国際薬剤疫学会 (2013.8)

^{*1} 名古屋市立大学

^{*2} 神戸大学病院

花谷忠昭: 日本のセンチネル・プロジェクトの推進に向けて (研究者の立場から).

第3回レギュラトリーサイエンス学会学術大会 (2013.9)

Sai K, Kurose K, Koizumi T, Katori N, Sawada J^{*1}, Matsumura Y^{*2}, Saijo N^{*2}, Yamamoto N^{*3}, Tamura T^{*3}, Okuda H, Saito Y: Distal promoter regions of human orosomucoid 1 and 2 genes differentially regulate their gene expressions and acute phase responses.

The 10th International ISSX Meeting (2013.10)

*¹ 医薬品医療機器総合機構

*² 国立がん研究センター東病院

*³ 国立がん研究センター中央病院

Sai K, Saito Y, Koizumi T, Katori N, Sawada J*¹, Matsumura Y*², Saijo N*², Yamamoto N*³, Tamura T*³, Okuda H, Kurose K: ORM1及びORM2遺伝子の異なる発現誘導調節における遠位プロモーター領域の役割. 日本薬物動態学会第28回年会 (2013.10)

*¹ 医薬品医療機器総合機構

*² 国立がん研究センター東病院

*³ 国立がん研究センター中央病院

花谷忠昭, 佐井君江, 頭金正博*¹, 瀬川勝智, 安德恭彰*², 中島直樹*², 横井英人*³, 大江和彦*⁴, 木村通男*⁵, 堀雄史*⁵, 川上純一*⁵, 斎藤嘉朗: 医療情報データベースを用いた行政施策の評価: オセルタミビルの10代使用制限及びクロピドグレルとオメプラゾールの併用注意. 第19回日本薬剤疫学会学術総会 (2013.11)

*¹ 名古屋市立大学

*² 九州大学

*³ 香川大学

*⁴ 東京大学

*⁵ 浜松医科大学

佐井君江, 松澤由美子, 杉山永見子, 花谷忠昭, 斎藤嘉朗: 東及び東南アジア地域における薬物応答性遺伝子多型の民族差. 日本薬学会第134年会 (2014.3)

中村亮介, 中村里香, 酒井信夫, 安達玲子, 宇理須厚雄*¹, 福富友馬*², 手島玲子: 小麦グルテンはトランスグルタミナーゼ処理により酸加水分解小麦と同様のIgE反応性を獲得する. 第25回アレルギー学会春季臨床大会 (2013.5)

*¹ 藤田保健衛生大学

*² 相模原病院

中村亮介, 中村里香, 酒井信夫, 安達玲子, 斎藤嘉朗, 宇理須厚雄*¹, 福富友馬*², 手島玲子: 酸加水分解コムギ特異的的患者血清IgEはトランスグルタミナーゼ処理コムギグルテンと交差反応する.

第20回日本免疫毒性学会学術大会 (2013.9)

*¹ 藤田保健衛生大学

*² 相模原病院

宇梶真帆, 杉山永見子, 中村亮介, 斎藤嘉朗, 打田光宏*¹, 土屋敏行*¹, 黒瀬光一*²: Human Cell Line Activation Test (h-CLAT) の医薬品のアレルゲン性評価試験法としての応用.

第20回日本免疫毒性学会学術大会 (2013.9)

*¹ MeijiSeikaファルマ(株)

*² 東京海洋大学

中村亮介, 中村政志*¹, 矢上晶子*¹, 酒井信夫, 中村里香, 安達玲子, 斎藤嘉朗, 相原道子*², 秀道広*³, 千貫祐子*⁴, 森田栄伸*⁴, 松永佳世子*¹, 手島玲子: 加水分解コムギ感作血清中IgEのEXiLE法による検出とその有用性評価.

第63回アレルギー学会秋季学術大会 (2013.11)

*¹ 藤田保健衛生大学

*² 横浜市立大学

*³ 広島大学

*⁴ 島根大学

中村亮介, 相馬愛実*, 中村里香, 斎藤嘉朗, 最上知子, 川上浩*, 手島玲子: 抗原の加熱・消化・固相化がIgE架橋活性に及ぼす影響について.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 共立女子大学

齊藤公亮, 前川京子, 浦田政世, 村山真由子, 妹尾勇弥, 石川将己, 田島陽子, 中津則之*, 山田弘*, 斎藤嘉朗: メタボロミクスを用いた肝臓性リン脂質症の血中バイオマーカー探索.

第34回日本臨床薬理学会学術総会 (2013.12)

* 医薬基盤研

Saito K, Maekawa K, Pappan KL*¹, Urata M, Ishikawa M, Kumagai Y*², Saito Y: ヒト血清・血漿検体における代謝物プロファイルの差異.

日本薬物動態学会第28回年会 (2013.10)

*¹ Metabolon, Inc.

*² 北里大学

Saito K, Maekawa K, Pappan KL^{*1}, Urata M, Ishikawa M, Kumagai Y^{*2}, Saito Y: The difference in the metabolite profiles between plasma and serum, ages or sexes, and their inter-individual variations in human subjects.

10th international ISSX meeting (2013.10).

*¹ Metabolon, Inc.

*² Kitazato University

齊藤公亮, 前川京子, 浦田政世, 村山真由子, 妹尾勇弥, 石川将己, 中津則之*, 山田弘*, 斎藤嘉朗: 脂質メタボロミクスを用いた薬剤性リン脂質症の肝バイオマーカー探索.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 医薬基盤研

Mochizuki Y^{*1}, Okiyama Y^{*2}, Fukuzawa K^{*3}, Watanabe C^{*2}, Kato A^{*3}, Tsukamoto T^{*3}, Nakano T, Tanaka S^{*4}: FMO calculations for nano-biotechnology. CBI conference (2013.10)

*¹ 立教大学

*² 東京大学

*³ みずほ情報総研

*⁴ 神戸大学

Kurauchi R^{*1}, Tanaka S^{*1}, Fukuzawa K^{*2}, Kato A^{*2}, Watanabe C^{*3}, Okiyama Y^{*3}, Mochizuki Y^{*4}, Nakano T: FMO-based cluster analysis for drug design by multi-dimensional scaling.

CBI conference (2013.10)

*¹ 神戸大学

*² みずほ情報総研

*³ 東京大学

*⁴ 立教大学

沖山佳生^{*1}, 渡邊千鶴^{*1}, 望月祐志^{*2}, 坂倉耕太^{*3}, 山本純一^{*3}, 野口孝明^{*4}, 小久保達信^{*4}, 新宮哲^{*4}, 古明地勇人^{*5}, 福澤薫^{*6}, 中野達也, 田中成典^{*7}: ABINIT-MPによる京でのフラグメント分子軌道計算.

日本化学会2014春季年会 (2014.3)

*¹ 東京大学

*² 立教大学

*³ NEC

*⁴ RIST神戸

*⁵ 産総研

*⁶ みずほ情報総研

*⁷ 神戸大学

Maekawa K, Iwata Y^{*1}, Tajima Y, Nishimaki-Mogami T, Ueno N, Ishikawa M, Murayama M, Nakanishi H^{*2}, Ikeda K^{*3}, Arita M^{*4}, Taguchi R^{*5}, Minamino N^{*2}, Wakabayashi S^{*2}, Saito Y: Lipidomic analysis of heart tissues from a hamster model for dilated cardiomyopathy.

The 9th Annual Conference of the Metabolomics Society (2013.7)

*¹ National Cerebral and Cardiovascular Center

*² Akita University

*³ Keio University

*⁴ The University of Tokyo

*⁵ Chubu University

Tajima Y, Maekawa K, Ishikawa M, Murayama M, Senoo Y, Nishimaki-Mogami T, Nakanishi H^{*1}, Ikeda K^{*2}, Arita M^{*3}, Taguchi R^{*4}, Okuno A^{*5}, Mikawa R^{*5}, Niida S^{*5}, Takikawa O^{*5}, Saito Y: Lipidomic analysis of brain tissues and plasma in a mouse model expressing mutated human amyloid precursor protein/tau for Alzheimer's disease.

The 9th Annual Conference of the Metabolomics Society (2013.7)

*¹ Akita University

*² Keio University

*³ The University of Tokyo

*⁴ Chubu University

*⁵ National Center for Geriatrics and Gerontology

Ishikawa M, Maekawa K, Senoo Y, Tajima Y, Saito K, Urata M, Murayama M, Wakisaka M^{*}, Kumagai Y^{*}, Saito Y: Fundamental properties of human blood as samples for appropriate lipid biomarker exploration.

The 9th Annual Conference of the Metabolomics Society (2013.7)

* Kitazato University

田島陽子, 前川京子, 妹尾勇弥, 浦田政世, 石川将己, 村山真由子, 頭金正博*, 斎藤嘉朗: ヒト尿中脂質代謝物の基本的性質 (性差および年齢差, 安定性) に関する網羅的検討.

第86回日本生化学会大会 (2013.9)

* 名古屋市立大学

石川将己, 前川京子, 妹尾勇弥, 田島陽子, 齊藤公亮, 浦田政世, 村山真由子, 脇坂真美*, 熊谷雄治*, 斎藤嘉朗: バイオマーカー探索・検証のための, ヒト血液中高度不飽和脂肪酸代謝物レベルに関する基盤的検討.

第86回日本生化学会大会 (2013.9)

* 北里大学

前川京子, 上番増喬^{*1}, 田島陽子, 石川将己, 村山真由子, 妹尾勇弥, 最上 (西巻) 知子, 中西広樹^{*2}, 池田和貴^{*3}, 有田誠^{*4}, 田口良^{*5}, 藤井庄人^{*6}, 柴崎友一朗^{*6}, 米山博之^{*6}, 南茂隆生^{*1}, 安田和基^{*1}, 斎藤嘉朗: 非アルコール性脂肪性肝炎モデルマウス (STAMマウス) の肝臓における脂肪酸代謝物のメタボローム解析.

第86回日本生化学会大会 (2013.9)

*¹ 国立国際医療研究センター

*² 秋田大学

*³ 慶応大学

*⁴ 東京大学

*⁵ 中部大学

*⁶ ステリック再生医科学研

Ishikawa M, Maekawa K, Senoo Y, Tajima Y, Saito K, Urata M, Murayama M, Kumaga Y*, Saito Y: Lipidomic profiles in blood from fasted healthy adults vary between plasma and serum and by subject's genders and ages.

The 10th International ISSX Meeting (2013.9)

* Kitazato University

Maekawa K, Ishikawa M, Senoo Y, Tajima Y, Saito K, Urata M, Murayama M, Kumaga Y*, Saito Y: バイオマーカー探索・検証のためのヒト血液中脂質代謝物レベルに関する網羅的検討.

日本薬物動態学会第28回年会 (2013.10)

* 北里大学

石川将己, 前川京子, 齊藤公亮, 浦田政世, 田島陽子, 村山真由子, 妹尾勇弥, 熊谷雄治*, 斎藤嘉朗: ラット血清中の内因性代謝物レベルの雌雄差に関する網羅的検討.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 北里大学

前川京子, 齊藤公亮, 山田弘*, 斎藤嘉朗: 動物モデルを用いた医薬品化合物によるリン脂質症の脂質メタボローム解析.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 医薬基盤研

杉山永見子, 鹿庭なほ子, 高橋幸利^{*1}, 古谷博和^{*1}, 村松正明^{*1}, 木下茂^{*1}, 蒔田泰誠^{*2}, 久保充明^{*2}, 前川京子, 中村亮介, 矢上晶子^{*1}, 外園千恵^{*1}, 上田真由美^{*1}, 池田浩子^{*1}, 池澤善郎^{*1}, JPDSC^{*3}, 松永佳世子^{*1}, 相原道子^{*1}, 斎藤嘉朗: 日本人における, 抗てんかん薬3種により誘因される重症薬疹とHLA型との関連解析.

第20回日本免疫毒性学会学術大会 (2013.9)

*¹ SJS/TEN遺伝子多型研究班

*² 理化学研究所

*³ 日本ファーマコゲノミクスデータサイエンスコンソーシアム

宮下雪子^{*1}, 上田哲也^{*1}, 前川京子, 宇梶真帆, 松澤由美子, 鹿庭なほ子, 斎藤嘉朗, 黒瀬光一^{*2}: BIST法を用いたカルバマゼピン誘因性重症薬疹関連多型の迅速同定法の開発.

第36回日本分子生物学会 (2013.12)

*¹ プレシジョン・システム・サイエンス(株)

*² 東京海洋大学

Kanno J: An Improved Dispersion Method (Taquan Method) of Multiwall Carbon Nanotube for a Whole-Body Inhalation Exposure System.

53rd Annual Meeting of the Society of Toxicology (2014.3)

菅野純: 炎症と癌 - 異物発癌としての中皮腫繊維発癌からの考察 -.

平成25年度「個体レベルでのがん研究支援活動」ワークショップ (2014.2)

菅野純, 高橋祐次: 多層カーボンナノチューブの中皮腫発がん性をモデル標的としたナノマテリアル高度分散全身吸入Taquanシステムによるマウス吸入毒性病変評価.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

Kanno J: Progress in Japanese Percellome Project and incorporation of TGP data.

11th International Conference of Environment Mutagens (11th ICEM) (2013.11)

Kanno J: Nanotoxicology-its chronic aspects.

6th International Symposium on Nanotechnology, Occupational and Environmental Health (NanOEH2013) (2013.10)

菅野純: ナノマテリアル安全性評価の進捗-発がん性に関わる知見を中心に-

第20回がん予防学会 (2013.7)

Kanno J: Percellome Toxicogenomics, A Quantitative and Comprehensive Approach for Basic and Applied Toxicology.

ICT2013 The XIII International Congress of Toxicology (2013.7)

菅野純: 放射線毒性学における課題.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

菅野純: "Percellome Projectケミカルバイオロジーの視点からのトキシコゲノミクス-Percellome Projectの進捗とその応用性-".

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

菅野純, 高橋祐次: ナノマテリアルの高分散小型全身暴露吸入システムの開発.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

菅野純: 網羅的絶対量遺伝子発現解析による外来物質生体影響の動的ネットワークマーカー描出, Percellome Project.

第102回日本病理学会総会 (2013.6)

Kanno J: Percellome toxicogenomics for more comprehensive and quantitative toxicology-extending the analysis among different organs and different species.

the workshop on Moving Forward in Human Cancer Risk Assessment in the Genomics Era 2.0 (2013.5)

Kanno J: Percellome Toxicogenomics application to Sick House Syndrome-level inhalation toxicity.

the Meeting of the Extended Advisory Group on Molecular Screening (2013.5)

菅野純: 受容体シグナル毒性としての内分泌かく乱化学物質の影響について.

第86回日本内分泌学会学術総会 (2013.4)

北嶋聡, 小川幸男, 大西誠*, 相磯成敏*, 相崎健一, 五十嵐勝秀, 高橋祐次, 菅野純: シックハウス症候群レベルの極低濃度暴露の際の海馬におけるPercellome法による吸入トキシコゲノミクス.

第40回日本トキシコロジー学会学術年会 (2013.6)

* 中央労働災害防止協会・日本バイオアッセイ研究センター

Kitajima S, Aisaki K, Igarashi K, Kanno J: Application of Percellome Toxicogenomics approach to food safety: A flavor, estragole appears to be a PPAR-alpha agonist. The XIII International Congress of Toxicology 2013 (ICT 2013) (2013.7)

平林容子, 壺井功^{*1}, 菅野純, 楠洋一郎^{*2}, 井上達: 放射線による遷延効果に対する加齢影響: 造血幹・前駆細胞の動態と遺伝子発現プロファイル.

第103回日本病理学会総会 (2014.4)

^{*1} 日本大学医学部

^{*2} 放影研

Hirabayashi Y, Yoon BI^{*1}, Tsuboi I^{*2}, Kanno J, Trosko JE^{*3}, Inoue T: Connexin 32 Maintains Stemness of Hematopoiesis.

Society of Toxicology 53rd Annual Meeting & ToxExpo (2014.3)

^{*1} Kangwon National University, Republic of Korea

^{*2} 日本大学医学部

^{*3} Michigan State University

平林容子, 壺井功*, 五十嵐勝秀, 菅野純, 井上達: Gene expression profiling of hematopoietic stem/progenitor

cells in elderly mice after a single dose of whole-body irradiation at 6 weeks of age.

第36回日本分子生物学会年会 (2013.12)

* 日本大学医学部

原田智紀*, 壺井功*, 平林容子, 菅野純, 井上達, 相澤信*: Age-related stromal cell impairment reduces mast cell regeneration in mice after myeloablation.

第75回日本血液学会総会 (2013.10)

* 日本大学医学部

平林容子, 壺井功^{*1}, 菅野純, 楠洋一郎^{*2}, 井上達: Synergistic effects of radiation and senescence on cell cycle of immature hematopoietic progenitors.

第75回日本血液学会総会 (2013.10)

^{*1} 日本大学医学部

^{*2} 放影研

平林容子, 壺井功^{*1}, 楠洋一郎^{*2}, 菅野純: 若齢期単回全身照射後の加齢に伴うマウス造血幹・前駆細胞の細胞動態の反応性亢進とその分子背景.

第72回日本癌学会学術総会 (2013.10)

^{*1} 日本大学医学部

^{*2} 放影研

Hirabayashi Y, Yoon BI^{*1}, Tsuboi I^{*2}, Kanno J, Trosko JE^{*3}, Inoue T: Role of Connexin 32 In Hematopoiesis: Maintaining Mechanism of Quiescent Hematopoietic Stem Cells and Their Simultaneous Steady-State Proliferation.

The XIII International Congress of Toxicology (ICT2013) (2013.7)

^{*1} Kangwon National University, Republic of Korea

^{*2} 日本大学医学部

^{*3} Michigan State University

Lee BW^{*1}, Jeon BS^{*1}, Hirabayashi Y, Inoue T, Yodoi J^{*2}, Kim DY^{*3}, Yoon BI^{*1}: Dynamic expression of thioredoxin and its encouraging effect on cell proliferation during liver regeneration.

The XIII International Congress of Toxicology (ICT2013) (2013.7)

^{*1} Kangwon National University

^{*2} 京大ウイルス研

^{*3} Seoul National University

Hirabayashi Y, Tsuboi I^{*1}, Yoon BI^{*2}, Kanno J, Trosko JE^{*3}, Inoue T: Role of Connexin 32 in Hematopoiesis: maintaining quiescence of hematopoietic stem cells and their proliferation.

55th ASH Annual Meeting and Exposition (2013.12)

^{*1} 日本大学医学部

^{*2} Kangwon National University

^{*3} Michigan State University

Hirabayashi Y, Tsuboi I^{*1}, Kanno J, Kusunoki Y^{*2}, Inoue T: Radiation and senescence: cell cycle of primitive hematopoietic progenitor cells (CFU-S13) accelerated in 2-Gy whole-body irradiated senescent mice, which shows deceleration during aging in the steady state.

The 42nd Annual meeting for the International Society for Hematology and Stem Cells (ISEH) (2013.8)

^{*1} 日本大学医学部

^{*2} 放影研

平林容子, 尹秉一^{*1}, 五十嵐勝秀, 菅野純, 藤井義明^{*2}, 井上達: アリールハイドロカーボン受容体を介した造血幹・前駆細胞の制御機構.

第40回日本毒性学会 (2013.6)

^{*1} Kangwon National University

^{*2} 東大分生研

Hirabayashi Y, Yoon BI^{*1}, Tsuboi I^{*2}, Kanno J, Fujii-Kuriyama Y^{*3}, Inoue T: Regulatory function of hematopoietic stem/progenitor cells through the aryl hydrocarbon receptor.

The 11th Annual meeting for the International Society for Stem Cell Research (ISSCR) (2013.6)

^{*1} Kangwon National University

^{*2} 日本大学医学部

^{*3} 東大分生研

平林容子, 尹秉一*, 五十嵐勝秀, 菅野純, 井上達: ベ

ンゼンが惹起する造血障害の分子病理学：C57BL/6系及びC3H/He系マウスにおける障害制御シグナルの異同。
第102回日本病理学会総会（2013.6）

* Kangwon National University

Hirabayashi Y: Apoptosis-related gene-expression-profiling of hematopoietic stem/progenitor cells after radiation exposure.

The Bone Marrow Niche, Stem Cells, and Leukemia: Impact of Drugs, Chemicals, and the Environment (2013.5)

高橋祐次, 小川幸男, 高木篤也, 辻昌貴, 森田紘一, 菅野純：多層カーボンナノチューブのp53+/-マウス全身暴露吸入実験。

「個体レベルでのがん研究支援活動」ワークショップ (2014.2)

Taquahashi Y, Ogawa Y, Takagi A, Tsuji M, Kanno J: An Improved Dispersion Method of MWCNT for Whole Body Inhalation Exposure System.

6th International Symposium on Nanotechnology, Occupational and Environmental Health (2013.10)

Taquahashi Y, Ogawa Y, Takagi A, Tsuji M, Hirose A, Kanno J: Highly-Dispersed, Aggregate/Agglomerate-Eliminated Multi-Wall Carbon Nanotube Shows Increase In Mesotheliomagenic Potency Per Unit Weight In P53 Heterozygous Mice Intraperitoneal Injection Model.

The XIII International Congress of Toxicology (2013.7)

高橋祐次, 高木篤也, 辻昌貴, 菅野純：凝集体を除去し分散性を高めた多層カーボンナノチューブはp53+/-マウス腹腔内投与モデルにおいて単位重量当りの中皮腫誘発能が増加する。

第40回日本毒性学会学術年会（2013.6）

Takahashi Y, Yasuhiko Y, Takahashi J^{*1}, Takada S^{*1}, Johnson RL^{*2}, Saga Y^{*3}, Kanno J: Metameric pattern of intervertebral disc/vertebral body is generated independently of Mesp2/Ripply-mediated rostro-caudal patterning of somites in the mouse embryo.

第36回日本分子生物学会（2013.12）

*¹ 岡崎統合バイオサイエンスセンター

*² テキサス大学

*³ 国立遺伝学研究所

Okubo Y, Sugawara T*, Abe N*, Kanno J, Kimura A*, Saga Y*: Lfng regulates the synchronized oscillation of the mouse segmentation clock via the trans-repression of Notch signaling.

第46回日本発生生物学会（2013.5）

* National Institute of Genetics

Okubo Y, Sugawara T*, Abe N*, Kanno J, Kimura A*, Saga Y*: Lfng regulates the synchronized oscillation of the mouse segmentation clock via the trans-repression of Notch signaling.

17th International Congress of Developmental Biology (2013.6)

* National Institute of Genetics

大久保佑亮, 五十嵐勝秀, 相賀裕美子*, 菅野純：後根神経節神経形成における双方向性のNotchシグナルの生理機能解析。

日本発生生物学会秋季シンポジウム2013（2013.11）

* 国立遺伝学研究所

Okubo Y, Sugawara T*, Abe N*, Kanno J, Kimura A*, Saga Y*: The Mechanism to Generate the Synchronized Oscillation of the Mouse Segmentation Clock via Notch Signaling.

第36回分子生物学会年会（2013.12）

* National Institute of Genetics

関野祐子, 白尾智明*：iPS細胞由来分化細胞の生理機能を確認するための実験プロトコル作成の試み。

第6回上肢の神経機能回復セミナー（2013.6）

* 群馬大学

関野祐子：ヒトiPS 由来分化細胞の非臨床試験法への応用：試験法の標準化の重要性について。

日本製薬医学会2013年度年次大会（2013.7）

関野祐子：ヒトiPS細胞の安全性試験法への応用。

平成25年度国立医薬品食品衛生研究所シンポジウム

(2013.7)

関野祐子：レギュラトリーサイエンスからみた創薬応用への課題。

第8回レギュラトリーサイエンス学会シンポジウム～再生医療の早期実現に向けて～ (2013.10)

関野祐子：Cardiovascular safety pharmacology Studies - Japan's future directions -.

第1回心臓安全性に関するシンクタンクミーティング (2014.1)

関野祐子：ヒトiPS細胞由来分化細胞を用いた薬理試験法の開発と公定化。

第87回日本薬理学会年会 (2014.3)

Sekino Y, Takahashi K, Mogami-Shigemoto Y, Ohtsu K, Okada Y*, Okano H*, Sato K: Calcium imaging of responses to ATP and L-glutamate stimulation of human iPS-derived neurons.

ISN-ASN 2013 satellite meeting (2013.4)

* Keio University

Sekino Y, Takahashi K, Mogami-Shigemoto Y, Ohtsu K, Okada Y*, Okano H*, Sato K: Calcium signalling of human iPS-derived neurons responding to ATP and L-glutamate stimulation.

ISN-ASN 2013 (2013.4)

* Keio University

Sato K, Takaki J*, Fujimori K*, Miura M*, Suzuki T*, Sekino Y: L-Glutamate released from activated microglia down regulates astrocytic L-glutamate transporter expression in neuroinflammation.

ISN-ASN 2013 satellite meeting (2013.4)

* Keio University

Sato K, Takaki J*, Fujimori K*, Miura M*, Suzuki T*, Sekino Y: L-Glutamate released from activated microglia down regulates astrocytic L-glutamate transporter expression in neuroinflammation: the 'collusion' hypothesis for increased extracellular L-glutamate concentration in neuroinflammation.

ISN-ASN 2013 (2013.4)

* Keio University

Katayama A, Monma A*, Akitomo K*, Hirose M*, Hoshi Y*, Moriguchi T*, Sekino Y, Sato K: Search for genetic markers for the risk of the postnatal exposure to chemical compounds in emotion and social behavior after maturation.

Neuro2013 (2013.6)

* Azabu University

Hoshikawa K, Shigemoto-Mogami Y, Ohno Y, Goldman JE*, Sekino Y, Sato K: Activated microglia enhance neurogenesis and oligodendrogenesis via inflammatory cytokines.

Neuro2013 (2013.6)

* Columbia University

Ohara Y*, Yamazaki H*, Sato K, Shirao T*, Sekino Y: Morphological development and expression of synaptic proteins of human iPSC-derived neurons.

SfN2013 (2013.11)

* Gunma University

Ohtsu K, Takahashi K, Shigemoto-Mogami Y, Okada Y*, Okano H*, Sato K, Sekino Y: An Attempt to develop a neurotoxicity evaluation system using human induced pluripotent stem cell-derived neurons vulnerable to excitotoxicity.

Neuro2013 (2013.6)

* 慶応大学

Takahashi K, Irie T, Sekino Y, Sato K: The function of glial excitatory amino-acid transporter EAAT2 is enhanced by docosahexanoic acid.

Neuro2013 (2013.6)

Sato K, Shigemoto-Mogami Y, Goldman JE*, Sekino Y: The role of microglia in neurogenesis and oligodendrogenesis in the early postnatal subventricular zone.

SfN2013 (2013.11)

* Columbia University

Shigemoto-Mogami Y, Hoshikawa K, Miura M, Sekino Y, Sato K: Development of in vitro blood-brain barrier model reflecting the function of neurovascular unit. Neuro2013 (2013.6)

Sato K, Fujimori K*, Takaki J*, Suzuki T*, Sekino Y: P2X4 receptor-mediated acceleration of microglial activation is important for the L-glutamate release from activated microglia in the early stage of inflammation. Neuro2013 (2013.6)

* 慶応大学

佐藤薫, 高橋華奈子, 重本-最上由香里, 大津香苗, 岡田洋平*, 岡野栄之*, 関野祐子: ヒトiPS細胞由来神経細胞を用いた神経毒性評価系確立の試み. 第22回日本バイオイメージング学会 (2013.9)

* 慶応大学

Takahashi K, Shigemoto-Mogami Y, Ohtsu K, Okada Y*, Okano*, Sekino Y, Sato K: An attempt to establish the neurotoxicity evaluation system using human induced pluripotent stem cell-derived neurons. The 7th Takeda science foundation symposium on pharmasciences 'iPS Cells in drug discovery and development' (2014.1)

* 慶応大学

佐藤薫: hiPSC-ニューロンで神経特異的有害反応は予測可能か. 公開シンポジウムヒトiPS細胞の創薬プロセスへの応用～国際情勢を見据えた新規試験法開発を目指して～ (2014.2)

佐藤薫: ヒトiPS細胞由来神経細胞に期待すること. 4社共催: ヒトiPS細胞由来神経ワークショップ (講演) (2014.3)

大原由貴*, 山崎博幸*, 大津真生*, 佐藤薫, 関野祐子, 白尾智明*: ヒトiPS細胞由来神経細胞の発達に関する研究. 第91回日本生理学会大会 (2014.3)

* 群馬大学

佐藤薫: ミクログリアの病理的新機能と生理的新機能-極性からみた神経疾患治療の可能性.

第87回日本薬理学会年会シンポジウム「ニューロン・グリア関連から紐解く神経疾患」(2014.3)

佐藤薫, 関野祐子: 化学物質が生後初期神経・グリア新生に及ぼす影響を簡便に検討するための in vitro評価系の開発.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

高橋華奈子, 最上(重本)由香里, 大津香苗, 岡田洋平*, 岡野栄之*, 関野祐子, 佐藤薫: ヒトiPS細胞由来神経細胞標本を用いた神経毒性評価系の構築.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 慶応大学

片山敦子, 門馬彰彦*, 秋友孝文*, 虞末愛*, 星裕姫乃*, 守口徹*, 関野祐子, 佐藤薫: 胎生期および新生期の化学物質暴露の情緒社会性への影響を予測する-遺伝子発現解析に基づく新規評価手法の開発.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 麻布大学

最上(重本)由香里, 干川和枝, 関野祐子, 佐藤薫: ミクログリアによる血液脳関門の機能制御機構の解明.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

笠原由香*, 三浦真理恵*, 最上(重本)由香里, 関野祐子, 佐藤薫, 鈴木岳之*: 抗うつ薬とP2X4受容体の相互作用の比較検討.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* 慶応大学

平田尚也, 山田茂, 関野祐子, 諫田泰成: ADAM17 mediates cancer stem cell phenotype in MCF-7 cells. 第10回幹細胞シンポジウム (2013.05)

山田茂, 古武弥一郎*, 関野祐子, 諫田泰成: ヒト胎児性癌細胞のエネルギー産生に対する有機スズ化合物の影響.

第128回日本薬理学会関東部会 (2013.07)

* 広島大学

平田尚也, 山田茂, 関野祐子, 諫田泰成: NO/sGC/cGMP経路を介した乳癌幹細胞の増殖.
第86回日本生化学会 (2013.09)

平田尚也, 諫田泰成: In vitroおよびin vivoにおけるmammosphereの増殖に対するニコチンの影響.
第72回日本癌学会学術総会 (2013.09)

石田慶士*, 古武弥一郎*, 宮良政嗣*, 青木香織*, 佐能正剛*, 諫田泰成, 太田茂*: グルタミン酸受容体が関与する鉛の神経毒性メカニズムの解明.
フォーラム2013: 衛生薬学・環境トキシコロジー (2013.09)

* 広島大学

黒川洵子*, 李敏*, 諫田泰成, 関野祐子, 古川哲史*: ヒトiPS由来心筋を用いた心臓毒性評価系の構築.
第30回心電学会 (2013.10)

* 東京医科歯科大学

平田尚也, 山田茂, 関野祐子, 諫田泰成: スフィンゴシン1リン酸受容体S1PR3を介した乳癌幹細胞の増殖機構.
第129回日本薬理学会関東部会 (2013.10)

黒川洵子*, 李敏*, 諫田泰成, 芦原貴司*, 関野祐子, 古川哲史*: ヒトiPS由来心筋を用いた薬剤誘発性不整脈の研究.
生理研研究会 (2013.11)

*¹ 東京医科歯科大学

*² 滋賀医科大学

山田茂, 古武弥一郎*, 関野祐子, 諫田泰成: トリブチルスズの新規標的分子IDH3の同定.
第36回分子生物学会 (2013.12)

* 広島大学

黒川洵子*, 諫田泰成, 古川哲史*: iPS心筋を用いた心機能評価.
第23回日本循環薬理学会 (2013.12)

* 東京医科歯科大学

高橋和也*, 早川智広*, 國弘威*, 辰田寛和*, 松居恵理子*, 矢田博昭*, 諫田泰成, 黒川洵子*, 古川哲史*: イメージングによる培養心筋細胞の拍動伝播評価.
第5回日本安全性薬理研究会 (2014.02)

*¹ ソニー(株)

*² 東京医科歯科大学

中村裕二*, 松尾純子*, 宮本憲優*, 小島敦子*, 安東賢太郎*, 諫田泰成, 澤田光平*, 杉山篤*, 関野祐子: Assessment of testing methods of the drug-induced repolarization delay and arrhythmias in an iPS-derived cardiomyocytes sheet: Multi-site validation study.
第5回日本安全性薬理研究会 (2014.02)

*¹ 東邦大学

*² エーザイ(株)

平田尚也, 山田茂, 関野祐子, 諫田泰成: 乳癌幹細胞の増殖に対するスフィンゴシン1リン酸受容体S1PR3の影響.
第13回日本再生医療学会 (2014.03)

平田尚也, 山田茂, 正田卓司, 栗原正明, 関野祐子, 諫田泰成: S1PR3は乳癌幹細胞に対する新規標的分子である.
第87回日本薬理学会 (2014.03)

山田茂, 古武弥一郎*, 関野祐子, 諫田泰成: メタボロミクスによる有機スズの新規標的分子IDH3の同定.
第87回日本薬理学会 (2014.03)

* 広島大学

麻薙美紀, 山田茂, 平田尚也, 板垣宏*, 関野祐子, 諫田泰成: 有機スズ化合物のミトコンドリア機能に対する影響.
第87回日本薬理学会 (2014.03)

* 横浜国立大学

李敏*, 諫田泰成, 芦原貴司*, 笹野哲郎*, 関野祐子, 古川哲史*, 黒川洵子*: ヒトiPS由来心筋を用いた薬物誘発性QT延長に対する新規in vitro評価系.
第87回日本薬理学会 (2014.03)

*¹ 東京医科歯科大学

*² 滋賀医科大学

藤塚美紀^{*1}, 黒川洵子^{*1}, 烏野初萌^{*2}, 中井雄二^{*3}, 永森収志^{*3}, 金井好克^{*3}, 諫田泰成, 松居恵理子^{*2}, 古川哲史: ヒトiPS由来心筋細胞の収縮に対する基質硬度の影響.

第87回日本薬理学会 (2014.03)

*¹ 東京医科歯科大学

*² ソニー(株)

*³ 大阪大学

中村裕二^{*1}, 松尾純子^{*1}, 宮本憲優^{*2}, 小島敦子^{*2}, 安東賢太郎^{*1}, 諫田泰成, 澤田光平^{*2}, 杉山篤^{*1}, 関野祐子: iPS細胞由来心筋細胞シートを用いた薬物性再分極遅延評価法の分析: 多施設間バリデーション.

第87回日本薬理学会 (2014.3)

*¹ 東邦大学

*² エーザイ(株)

諫田泰成: ヒトiPS細胞由来心筋細胞を用いた安全性薬理試験の開発.

第40回日本毒性学会 (2013.6)

諫田泰成: メタボロミクスによる有機スズの新たな毒性メカニズム.

メタロバイオサイエンス研究会2013 (2013.9)

諫田泰成: 癌幹細胞を標的とした創薬の可能性.

第36回日本生物工学会 (2013.11)

諫田泰成: ヒトiPS細胞由来分化細胞の標準化と創薬への応用.

細胞アッセイ研究会 (2013.11)

諫田泰成: Development of an in vitro cardiac safety testing using human iPS-cell derived mature cardiomyocytes.

第1回心臓安全性に関するシンクタンクミーティング2014 in霧島 (2014.1)

諫田泰成: ヒトiPS細胞を用いた心毒性評価の現状と課題.

ヒューマンサイエンス振興財団-開発振興/規制基準合同委員会 (2014.2)

諫田泰成: ヒトiPS細胞由来の成熟心筋細胞の開発-実用化に向けて.

第87回日本薬理学会 (2014.3)

Li M*, Kanda Y, Sekino Y, Furukawa T*, Kurokawa J*: Functional optimization of commercially available human induced pluripotent stem cell-derived cardiomyocytes (iCell-CMs) for evaluation of drug-induced QT prolongation.

The 2nd HD physiology international symposium on multi-level systems biology (2013.6)

* 東京医科歯科大学

Yamada S, Kotake Y*, Demizu Y, Kurihara M, Sekino Y, Kanda Y: Mitochondrial isocitrate dehydrogenase is the target of tributyltin.

4th DynaMito2013, Okinawa (2013.10)

* 広島大学

Kanda Y, Yamada S, Kotake Y*, Sekino Y: Metabolomic approach for tributyltin-induced toxicity. International Society for Trace Element Research in Humans (2013.10)

* 広島大学

Kanda Y, Li M*, Sekino Y, Furukawa T*, Kurokawa J*: Development of human iPS cell-derived mature cardiomyocytes for assessment of drug-induced QT prolongation.

The 7th Takeda Science Foundation Symposium on PharmaSciences. (2014.1)

* 広島大学

Kanda Y, Hirata N, Lin W, Sekino Y: A novel role of sphingosine-1-phosphate receptor S1PR3 in cancer stem cell expansion via a Notch-dependent pathway.

Keystone symposia (2014.2)

Li M*, Kanda Y, Sekino Y, Furukawa T*, Kurokawa J*: A novel approach for evaluation of drug-induced QT prolongation using human induced pluripotent stem cell-derived cardiomyocytes.

Biophysical Society 58th Annual Meeting (2014.2)

* 東京医科歯科大学

Oshikata A*, Ishida S, Takezawa T*: Development of A Culture Method Activating Hepatic Function of HepG2 Cells Utilizing A Collagen Vitrigel Membrane Chamber And Its Application To Assay System For Liver Metabolism And Toxicity.

日本組織培養学会第86回大会 (2013.5)

* (独)農業生物資源研究所

石田誠一: 創薬安全性評価においてiPS細胞由来肝細胞に望まれる特性とは?.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

石田誠一: iPS細胞由来肝細胞を用いた薬物安全性評価の展望と課題.

第3回レギュラトリーサイエンス学会学術大会 (2013.9)

Ishida S, Kubo T, Hojyo M, Kuroda Y, Su-Ryang Kim, Sekino Y: Simple Culture Method for the Preparation of Deactivated Hepatic Stellate Cells.

17th International Symposium on Cells of the Hepatic Sinusoid (2013.9)

Kubo T, Kuroda Y, Hojyo M, Su-Ryang Kim, Corlu A*, Morel F*, Sekino Y, Ishida S: Establishment of Simple Culture Method for the Stable Maintenance of Hepatic Progenitor Cells.

日本薬物動態学会第28回年会 (2013.10)

* INSEERM

Ishida S, Su-Ryang Kim, Kubo T, Kuroda Y, Hojyo M, Miyajima A, Matsushita T*, Sekino Y: Comparative Analysis of Human Fetal and Adult Hepatocytes by Metabolomics and Toxicity Test.

日本薬物動態学会第28回年会 (2013.10)

* 崇城大

石田誠一: in vitro試験と代替法をつなぐ 計算毒性学の立ち上げ.

CBI学会2013年回大会 (2013.10)

石田誠一: 創薬支援に有用なヒト肝in vitro/in silico代

謝・輸送予測モデルの提案と薬物動態評価における実証. 日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

湯田浩太郎*, 石田誠一: hiPSC-肝細胞とインシリコのデータ融合による安全性予測/メカニズム解析に向けた考察.

公開シンポジウム「ヒトiPS細胞の創薬プロセスへの応用」(2014.2)

* インシリコデータ

石田誠一: In vitro肝毒性評価系の計算毒性学への展開. 日本薬学会第134年会 (2014.3)

押方歩*, 石田誠一, 竹澤俊明*: コラーゲン美鳥膜チャンバーを利用した新しい肝代謝試験法の開発.

日本薬学会第134年会 (2014.3)

* (独)農業生物資源研究所

宇佐見誠, 満長克祥^{*1}, 入江智彦, 宮島敦子, 土井守^{*2}: 発生毒性物質がラット神経堤細胞の遊走に及ぼす影響に関する研究.

第53回日本先天異常学会学術集会 (2013.7)

*¹ 東邦大学

*² 岐阜大学

宇佐見誠: フリーディスカッションで生殖発生毒性を考える (仮) 第1回「生殖発生毒性試験におけるデータ解析について考える」.

第26回生殖・発生毒性学東京セミナー (2014.3)

入江智彦, 松崎泰教*, 関野祐子, 平井宏和*: 脊髄小脳変性症にみられる変異型Kv3.3チャンネルは, 培養小脳プルキンエ細胞において細胞死と興奮性変化を引き起こす. Neuro2013 (2013.6)

* 群馬大学

小島肇: シンポジウム8「in vitroを用いた創薬安全性評価とその外挿性」, in vitroによるスクリーニング(総論). 第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

山口宏之^{*1,2}, 小島肇, 竹澤俊明^{*1}: Vitrigel-EIT法: ヒト角膜上皮組織シート型培養モデルをもちいた高感度なin vitro眼刺激性試験.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

*¹ 農業生物資源研究所*² 関東化学(株)

川上哲*¹, 尾上誠良*², 松本康浩*³, 戸田嗣人*⁴, 大崎尚人*⁵, 若栗忍*⁶, 岩瀬裕美子*⁷, 山本敏誠*⁷, 高木広憲*⁵, 中村和希*⁴, 細井一弘*⁸, 小島肇: 医薬品の光毒性ポテンシャル評価のためのROSアッセイバリデーション試験. 第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

*¹ 旭化成ファーマ(株)*² 静岡県立大学大学院薬学研究科*³ あすか製薬(株)*⁴ 塩野義製薬(株)*⁵ 大正製薬(株)*⁶ (一財)食品薬品安全センター*⁷ 田辺三菱製薬(株)*⁸ 参天製薬(株)

Kojima H: Workshop: Alternative Test Methods and International Regulatory perspectives (ワークショップ: 動物実験代替法と国際的な行政展望)JaCVAM: Recent Progress and Future Plans for the Validation and Acceptance of Alternative Testing in Japan (JaCVAM: 日本における動物実験代替法バリデーションと受入れの昨今の進捗と将来計画).

The XIII International Congress of Toxicology (2013.6-7)

Kojima H: Our Practical Examples of International Validation Studies for Establishing OECD Test Guidelines (OECDテストガイドライン成立のための国際バリデーションにおける経験例).

The International Symposium of the Center of Alternative Methods for Safety Evaluation of Cosmetics (2013.7)

Kojima H, Oshimura M*¹, Saito K*², Saito F*³, Imatanaka N*³: Japanese Project "ARCH-Tox" for the Future Chemicals Management Policy: Research and Development of in vitro and in vivo Assays for Internationally Leading Hazard Assessment and Test Methods (将来の化学物質管理政策のための日本プロジェクト ARCH-Tox: 有害性評価の国際表示のためのin vitroおよびin vivo試験の研究および開発).

15th Annual Congress of European Society for

Alternative to Animal Testing (2013.9)

*¹ 鳥取大学*² 住友化学(株)*³ (一財)化学物質評価研究機構

Kojima H, Stokes W*¹, Horii I*², Hwan K.B*³, Spielmann H*⁴: Peer Review Panel Evaluation of the ROS Photosafety Assay (ROS光安全性試験の第三者評価).

15th Annual Congress of European Society for Alternative to Animal Testing (2013.9)

*¹ National Institute of Environmental and Health Sciences*² Pfizer*³ Keimyung University*⁴ Free University Berlin

小島肇: シンポジウム9「薬物動態・安全性研究における細胞アッセイ系の進歩」, in vitro探索毒性試験の展望. 日本薬物動態学会第28回年会 (2013.10)

Kojima H, Oshimura M*¹, Imatanaka N*²: Japanese Project "ARCH-Tox" for alternative to 28-day repeated dose oral toxicity study (日本プロジェクト ARCH-Tox: 28日間反復経口投与毒性試験の代替法).

10th Annual Meeting of KSAEA (Korean Society of Alternative Animal Experiments) (2013.11)

*¹ 鳥取大学*² (一財)化学物質評価研究機構

小島肇: JaCVAM国際シンポジウム: 日本動物実験代替法学会の活動.

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

小島肇: シンポジウム4「化粧品における動物実験代替法への取り組み」, 動物実験代替法の化粧品規制に関する現状.

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

小島肇: ランチョンセミナー「シルクワームによる挑戦」, 動物実験代替法開発における課題とカイコの可能性.

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

木村裕*¹, 藤村千鶴*¹, 渡辺美香*², 齋藤るみ子*^{2,3}, 鈴

木紀之^{*4}, 岩城知子^{*5}, 山影康次^{*2}, 斎藤幸一^{*4}, 中島芳浩^{*5}, 近江谷克裕^{*6}, 酒井綾子^{*2}, 丸谷あおい^{*7}, 大森崇^{*7}, 山崎晶次郎^{*8}, 小島肇, 田中憲穂^{*8}, 相場節也^{*1}: IL-8 Luc assayの施設間差試験およびデータセットの作製.

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

- *¹ 東北大学大学院医学系研究科皮膚科学講座
- *² (一財)食品薬品安全センター秦野研究所
- *³ 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構
- *⁴ 住友化学(株)生物環境科学研究所
- *⁵ (独)産業技術総合研究所・健康工学研究部門
- *⁶ (独)産業技術総合研究所・バイオメディカル研究部門
- *⁷ 同志社大学文化情報学部
- *⁸ (公財)鳥取県産業振興機構

丸谷あおい^{*1}, 相場節也^{*2}, 木村裕^{*2}, 渡辺美香^{*3}, 鈴木紀之^{*4}, 岩城知子^{*5}, 山影康次^{*3}, 斎藤幸一^{*4}, 中島芳浩^{*5}, 近江谷克裕^{*6}, 山崎晶次郎^{*3}, 小島肇, 田中憲穂^{*3}, 小林眞弓^{*1}, 森梓^{*1}, 大森崇^{*1}: IL-8 Luc assayにおけるばらつきを考慮した班手基準の提案.

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

- *¹ 同志社大学文化情報学部
- *² 東北大学大学院医学系研究科皮膚科学講座
- *³ (一財)食品薬品安全センター秦野研究所
- *⁴ 住友化学(株)生物環境科学研究所
- *⁵ (独)産業技術総合研究所・健康工学研究部門
- *⁶ (独)産業技術総合研究所・バイオメディカル研究部門

Kojima H, Stokes W^{*1}, Horii I^{*2}, Hwan K.B^{*3}, Spielmann H^{*4}: Peer Review Panel of the Japanese validation study of the ROS *in vitro* phototoxicity for ICH (ICHのためのROS *in vitro* 光毒性試験バリデーション研究の第三者評価).

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

- *¹ National Institute of Environmental and Health Sciences
- *² Pfizer
- *³ Keimyung University
- *⁴ Free University Berlin

加藤義直^{*1}, 山本直樹^{*2}, 佐藤淳^{*1}, 中田悟^{*1}, 小島肇: 不死化ヒト角膜上皮細胞株 (iHCE-NY) を用いた三次元角膜再構築モデルの作製.

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

*¹ 日本メナード化粧品(株)

*² 藤田保健衛生大学共同利用研究施設

古川正敏^{*1}, 榎原隆史^{*1}, 六川潤美^{*1}, 伊藤浩太^{*1}, 佐々木啓^{*1}, 平賀武夫^{*2}, 小島肇, 松浦正男^{*1}: 牛角膜を用いた混濁度および透過性試験法 (BCOP法) における被験物質の濃度および曝露時間の影響.

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

*¹ (株)化合物安全性研究所

*² 酪農学園大学獣医学部

大森崇^{*1}, 篠内桃子, 池田英史^{*2}, 中村香織^{*3}, 鄭美淑^{*4}, 山影康次^{*5}, 萩野滋延^{*6}, 小島肇: SIRC-CVS試験を用いた眼刺激性評価代替法の国際バリデーション研究 (II).

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

*¹ 同志社大学文化情報学部

*² 日本コルマー(株)研究開発本部

*³ (株)ボゾリサーチセンター東京研究所

*⁴ (株)バイオトクステック

*⁵ (一財)食品薬品安全センター秦野研究所

*⁶ (株)資生堂リサーチセンター

小島肇, Nicole Kleinstreuer^{*1}, Chae-Hyung Lim^{*2}, 寒水孝司^{*3}, 渡辺美香^{*4}, 新妻健^{*4}, 山下邦彦^{*5}, 福田隆之^{*6}, 山口典子^{*6}, 藤原聖^{*6}, 山口宏之^{*7,8}, 竹澤俊明^{*7}: Vitrigel-EIT (Eye Irritancy Test) 法のプレバリデーション研究.

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

*¹ ILS/NICEATM/ICCVAM

*² KOCVAM/MFDS

*³ 京都大学

*⁴ (一財)食品薬品安全センター秦野研究所

*⁵ (株)ダイセル

*⁶ (株)ボゾリサーチセンター東京研究所

*⁷ (独)農業生物資源研究所

*⁸ 関東化学(株)

成田和人^{*}, 石原有人^{*}, 小島肇, 板垣宏^{*}: 培養細胞を用いた試験における難水溶性物質の暴露方法の検討.

日本動物実験代替法学会第26回大会 (2013.12)

* 横浜国立大学大学院工学府

古川正敏^{*1}, 榎原隆史^{*1}, 六川潤美^{*1}, 伊藤浩太^{*1}, 佐々木啓^{*1}, 平賀武夫^{*2}, 小島肇, 松浦正男^{*1}: 牛角膜を用いた混濁度および透過性試験法 (BCOP法) における病理組織学的検査.

第30回日本毒性病理学会総会及び学術集会 (2014.1)

^{*1} (株)化合物安全性研究所

^{*2} 酪農学園大学獣医学

小島肇: シンポジウム「欧州化粧品指令と動物実験代替法の活用」EU化粧品規制による国内外の動向.

第87回日本薬理学会年会 (2014.3)

Inoue K, Morikawa T, Takahashi M, Matsuo S, Tamura K, Ogawa K, Yoshida M: Hypertrophy of rat parotid glands induced by feeding treatment with grape skin extract is no an adverse effect.

32nd Annual Symposium of the Society of Toxicologic Pathology (2013.6)

Matsuo S, Takahashi M, Inoue K, Irie K, Tamura K, Yoshida M: Inhibitory effect of postnatal exposure to cyclophamide on medulloblastoma development in Ptch1 heterozygous mice.

32nd Annual Symposium of the Society of Toxicologic Pathology (2013.6)

Yoshida M, Inoue K, Isama K, Kawakami T, Kodama Y, Matsuoka A: Comparison of lung lesions in rats treated with nano-suspensions of silica, silver, and zinc oxide.

32nd Annual Symposium of the Society of Toxicologic Pathology (2013.6)

梅村隆志: 遺伝毒性発がん物質のリスク評価: 新しいアプローチ.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

大波牙子, 曹永晩, 豊田武士, 赤木純一, 水田保子, 鈴木勇, 藤原賢*, 落合良介*, 辻野一茂*, 西川秋佳, 小川久美子: ラットにおける glycidol と 3-MCPD 及びこれらのエステル化合物の代謝について.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

* (株)島津テクノリサーチ

黒田顕, 日比大介, 石井雄二, 高須伸二, 木島綾希, 松下幸平, 増村健一, 児玉幸夫, 小川久美子, 梅村隆志:

オクラトキシンAにより誘発されるマウス腎臓のレポーター遺伝子突然変異および病理変化に対するp53の関与. 第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

松下幸平, 石井雄二, 高須伸二, 黒田顕, 木島綾希, 能美健彦, 小川久美子, 梅村隆志: レポーター遺伝子導入ラットを用いた短期腎発がん物質検出モデルの開発.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

日比大介, 木島綾希, 鈴木裕太, 金美蘭, 石井雄二, 小川久美子, 梅村隆志: *gpt* deltaラットを用いた遺伝毒性および肝発がん性の包括的評価によるフラン誘発肝発がん機序の検索.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

野中瑞穂^{*1}, 小川久美子, 小野寺博志^{*1}, 中江大^{*2}, 西川秋佳: 医薬品のがん原性の評価方法変更の提案について - ICH S1 EWGにおける検討内容.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

^{*1} (独)医薬品医療機器総合機構

^{*2} 東京都健康安全研究センター

川嶋潤*, 中村知裕*, 菅田恵理世*, 鈴木紗綾*, 小川祐布子*, 吉田緑, 代田真理子*: 新生ラットへのエチニルエストラジオール曝露が幼若期の卵巣における卵胞発育関連遺伝子の発現に及ぼす影響.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

* 麻布大学

Ogawa K, Onami S, Cho YM, Toyoda T, Akagi J, Suzuki I, Mizuta Y, Nishikawa A: No significant adverse effect of nanoclay primarily consisting of Montmorillonite in a rat 13-week dietary administration study.

The XIII International Congress of Toxicology (2013.7)

高須伸二, 石井雄二, 松下幸平, 黒田顕, 西川秋佳, 小川久美子, 梅村隆志: DENおよびfuran誘発GST-P陽性細胞巣へのsulforaphaneの修飾効果.

第20回日本がん予防学会 (2013.7)

高橋美和, 松尾沙織里, 井上薫, 田村圭, 入江かをる, 児玉幸夫, 吉田緑: N-ethyl-N-nitrosoureaを用いたPtch1ヘテロマウスに見られる自然発生髄芽腫の短期誘発モデル.

第20回日本がん予防学会 (2013.7)

土井悠子*, 秋山真弓*, 沼野琢旬*, 古川文夫*, 小川久美子, 西川秋佳: Dichloromethaneと1,2-dichloropropaneのハムスター肝胆臓における細胞増殖活性の検討.

第20回日本がん予防学会 (2013.7)

* (株)DIMS医科学研究所

豊田武士, 曹永晩, 赤木純一, 水田保子, 大波冴子, 鈴木勇, 西川秋佳, 小川久美子: ヘリコバクター・ピロリ感染スナネズミの除菌後胃癌に対するアスピリンの化学予防効果の検討.

第20回日本がん予防学会 (2013.7)

石井雄二, 高須伸二, 松下幸平, 黒田顕, 能美健彦, 小川久美子, 梅村隆志: LC-MS/MSを用いた網羅的DNA損傷解析によるエストラゴールのDNA傷害性評価.

第26回バイオメディカル分析科学シンポジウム (2013.8)

豊田武士, 曹永晩, 大波冴子, 水田保子, 赤木純一, 堀端克良, 本間正充, 能美健彦, 石井雄二, 梅村隆志, 吉田緑, 西川秋佳, 小川久美子: 食用油中に含まれる脂肪酸エステル類の毒性評価.

第28回発癌病理研究会 (2013.8)

野村幸世*¹, 豊田武士, 大本安一*², 大津洋*¹, 瀬戸泰之*¹: 動物胃癌モデルにおける血清TFFの検討.

第24回日本消化器癌発生学会総会 (2013.9)

*¹ 東京大学

*² (株)大塚製薬

Ishii Y, Takasu S, Matsushita K, Kuroda K, Kijima A, Nohmi T, Ogawa K, Umemura T: Possible contribution of cell proliferation to gene mutation following exposure to the hepatocarcinogen estragole.

11th European Congress of Toxicologic Pathology (2013.9)

Takasu S, Ishii Y, Matsushita K, Kuroda K, Nishikawa A, Ogawa K, Umemura T: Modifying effects of sulfuraphane on diethylnitrosamine or furan induced liver carcinogenesis in rat.

11th European Congress of Toxicologic Pathology (2013.9)

曹永晩, 安達玲子, 酒井信夫, 木村美恵, 中村里香, 福富友馬*, 手島玲子, 小川久美子: BALB/c マウスにおける酸加水分解コムギタンパク質による経皮感作に関する免疫学的及び病理組織学的解析.

第20回日本免疫毒性学会学術大会 (2013.9)

* 国立病院機構相模原病院臨床研究センター

豊田武士, 曹永晩, 赤木純一, 大波冴子, 鈴木勇, 西川秋佳, 小川久美子: *Helicobacter pylori*感染スナネズミの除菌後胃癌に対するアスピリンの化学予防効果の検討.

第72回日本癌学会学術総会 (2013.10)

野村幸世*¹, 豊田武士, 大本安一*², 多田稔*¹, 長田梨比人*¹, 市田晃彦*¹, 大津洋*¹, 愛甲丞*¹, 菅原寧彦*¹, 國土典宏*¹, 瀬戸泰之*¹: 胃癌, 膵癌のバイオマーカーとしての血清TFFと動物モデルを用いたその評価.

第72回日本癌学会学術総会 (2013.10)

*¹ 東京大学

*² (株)大塚製薬

石井雄二, 高須伸二, 松下幸平, 黒田顕, 能美健彦, 小川久美子, 梅村隆志: アルケニルベンゼン類によるDNA付加体形成と遺伝子突然変異の検出.

第72回日本癌学会学術総会 (2013.10)

曹永晩, 水田保子, 鈴木勇, 豊田武士, 赤木純一, 西川秋佳, 小川久美子: 3-MCPD脂肪酸エステルによるラット乳腺発がん修飾作用.

第72回日本癌学会学術総会 (2013.10)

黒田顕, 石井雄二, 高須伸二, 木島綾希, 松下幸平, 能美健彦, 小川久美子, 梅村隆志: 2-メチルフランの*gpt* deltaラットを用いた一般毒性・遺伝毒性・発がん性の包括的評価.

日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

石井雄二, 高須伸二, 黒田顕, 木島綾希, 児玉幸夫, 小川久美子, 梅村隆志: アクリルアミドのマウス肺発がん過程への遺伝毒性メカニズムの関与.

日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

前田潤, 井上薫, 市村亮平, 森川朋美, 小川祐布子, 児玉幸夫, 吉田緑: イチヨウ葉エキスのマウス肝発がん性機序と遺伝毒性の関与 1. *in vivo* 遺伝毒性について.

日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

木島綾希, 石井雄二, 高須伸二, 黒田顕, 松下幸平, 児玉幸夫, 梅村隆志: イチョウ葉エキスの*gpt delta*マウスを用いた*in vivo*変異原性試験.

日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

松下幸平, 黒田顕, 石井雄二, 高須伸二, 木島綾希, 能美健彦, 小川久美子, 梅村隆志: *gpt delta*マウスを用いた中期発がん評価系の開発.

日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

赤木純一, 曹永晩, 豊田武士, 大波冴子, 水田保子, 鈴木勇, 能美健彦, 西川秋佳, 小川久美子: *gpt delta*ラットを用いた反復投与毒性・遺伝毒性併合試験法の妥当性について.

第36回日本分子生物学会年会 (2013.12)

Tsukamoto T^{*1}, Toyoda T, Kiriya Y^{*1}, Tatematsu M^{*2}: Gene expression analysis of a *Helicobacter pylori*-infected and high-Salt diet-treated mouse gastric tumor model: identification of CD177 as a novel prognostic factor in patients with gastric cancer.

4th JCA-AACR Special Joint Conference (2013.12)

^{*1} Fujita Health University School of Medicine

^{*2} Japan Bioassay Research Center

小川久美子: 化学物質等をもたらす健康リスクの予測と予防.

第27回公衆衛生情報研究協議会 (2014.1)

吉田緑: 雌性生殖器に関するINHANDのトピックスと問題点について.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

石井雄二, 高須伸二, 黒田顕, 松下幸平, 横尾諭, 木島綾希, 能美健彦, 小川久美子, 梅村隆志: 肝発がん物質エストラゴールの突然変異誘発過程における細胞増殖活性の影響.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

黒田顕, 日比大介, 石井雄二, 高須伸二, 木島綾希, 松下幸平, 増村健一, 児玉幸夫, 小川久美子, 梅村隆志: p53欠損マウスにおけるオクラトキシンAの突然変異誘発機序.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

松下幸平, 高須伸二, 石井雄二, 黒田顕, 木島綾希, 北

浦敬介*, 佐藤亮*, 松本智志*, 小川久美子, 梅村隆志: 腎障害に伴う浸透圧性腎症の病態増悪機序の解明.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

* (株)大塚製薬

長谷川也須子*, 久保田久代*, 吉田緑, 宮川宗之*: 気管内投与手法およびラットの肺における投与剤の分布.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

* (独)労働安全衛生総合研究所

横尾諭, 木島綾希, 高須伸二, 石井雄二, 小川久美子, 梅村隆志: 臭素酸カリウム誘発マウス小腸発がんに対するNRF2の関与.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

鈴木勇, 曹永晩, 豊田武士, 赤木純一, 西川秋佳, 小川久美子: NMBA 誘発ラット食道がんに対するMTBITCの化学予防作用の検討.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

前田潤, 井上薫, 市村亮平, 森川朋美, 小川祐布子*, 児玉幸夫, 吉田緑: イチョウ葉エキスにより誘発した肝肥大におけるCARの関与について.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

* 麻布大学

井上薫, 鈴木大節, 小川祐布子*, 前田潤, 市村亮平, 高橋美和, 児玉幸夫, 吉田緑: PPAR α 作動薬によるマウス肝肥大及び肝発がん過程におけるConstitutive androstane receptor (CAR) の関与について.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

* 麻布大学

木島綾希, 石井雄二, 高須伸二, 松下幸平, 黒田顕, 横尾諭, 梅村隆志, 小川久美子: Piperonyl butoxideのF344ラットにおける90日間反復投与性毒性試験.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

笠原健一郎*, 安藤亮*, 星谷達*, 田村一利*, 小川久美子, 西川秋佳: トコトリエノールにより誘発される肝増殖性病変の早期変化に関する検討.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

* (株)ボゾリサーチセンター

高須伸二, 石井雄二, 松下幸平, 黒田顕, 木島綾希, 横尾諭, 能美健彦, 小川久美子, 梅村隆志: F344系*gpt delta*ラットおよびF344系ラットにおけるDENの一般毒性および肝発がん性の比較.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

豊田武士, 曹永晩, 赤木純一, 水田保子, 鈴木勇, 小川久美子: 化学物質投与ラット膀胱におけるDNA二重鎖切断マーカー (γ H2AX) 発現の病理組織学的特徴.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

市村亮平, 高橋美和, 森川朋美, プラモド・ダカール, 井上薫, 前田潤, 吉田緑, 渡辺元*: EEの臨界期曝露による遅発影響がLHサージおよびkiss1mRNA発現に及ぼす影響.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

* 東京農工大学

曹永晩, 水田保子, 鈴木勇, 豊田武士, 赤木純一, 西川秋佳, 小川久美子: 3-MCPD脂肪酸エステルによるSDラット乳腺腫瘍発生修飾作用の欠如.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

鈴木倫*, 大須賀勇*, 柄内亮太*, 永田百合子*, 畑千恵*, 安藤稔*, 内田和美*, 小林稔秀*, 吉田緑, 角将一*, 金子公幸*: 細胞障害性抗がん剤の短期間投与により誘発されたラット卵巣の形態学的特徴.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

* (株)ヤクルト本社中央研究所

西原香織^{*1}, 山口裕子^{*1}, 高木みづほ^{*1}, 隈部志野^{*2}, 今岡尚子^{*3}, 吉田緑, 佐藤順子^{*2}: ラット膀胱腫瘍の悪性指標としての被膜形成・被膜外浸潤の重要性について.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

^{*1} (株)ボゾリサーチセンター

^{*2} (株)三菱化学メディエンス

^{*3} (株)第一三共

赤木純一, 曹永晩, 豊田武士, 大波冴子, 水田保子, 鈴木勇, 能美健彦, 西川秋佳, 小川久美子: F344系およびSD系*gpt delta*ラットを用いた反復投与毒性・遺伝毒性併合試験法の標準化研究.

第30回日本毒性病理学会総会および学術集会 (2014.1)

豊田武士, 塚本徹哉^{*1}, 曹永晩, 赤木純一, 水田保子, 立松正衛^{*2}, 西川秋佳, 小川久美子: ヘリコバクター・ピロリ感染スナネズミ胃がんモデルにおけるアスピリンの化学予防効果の検討.

個体レベルでのがん研究支援活動ワークショップ (2014.2)

^{*1} 藤田保健衛生大学

^{*2} 日本バイオアッセイ研究センター

赤木純一, 曹永晩, 豊田武士, 大波冴子, 水田保子, 鈴木勇, 能美健彦, 西川秋佳, 小川久美子: 遺伝毒性肝発がん物質DENと非遺伝毒性肝発がん物質DEHPの投与による『*gpt delta*ラットを用いた反復投与毒性・遺伝毒性併合試験法』の標準化研究.

個体レベルでのがん研究支援活動ワークショップ (2014.2)

桐山諭和^{*1}, 豊田武士, 山本昌美^{*2}, 立松正衛^{*3}, 塚本徹哉^{*1}: *N*-methyl-*N*-nitrosourea誘発マウス腺胃発癌モデルにおける*Helicobacter pylori*感染と高食塩食による遺伝子発現変動.

個体レベルでのがん研究支援活動ワークショップ (2014.2)

^{*1} 藤田保健衛生大学

^{*2} 日本獣医生命科学大学

^{*3} 日本バイオアッセイ研究センター

Akagi J, Hashimoto K^{*1}, Yokoi M^{*2}, Ohmori H^{*2}, Iwai S^{*3}, Moriya M^{*1}, Hanaoka F^{*2}: Site-specific replicative analysis of 6-4 photoproduct using a series of TLS polymerases deficient mouse cells.

International Symposium on Xeroderma Pigmentosum and Related Diseases (2014.3)

^{*1} State University of New York at Stony Brook

^{*2} Gakushuin University

^{*3} Osaka University

Kuroda K, Hibi D, Ishii Y, Takasu S, Kijima A, Matsushita K, Masumura K, Watanabe M, Sugita-Konishi Y*, Nohmi T, Ogawa K, Nishikawa A, Umemura T: Ochratoxin A induces DNA double-strand breaks and large deletion mutations in the carcinogenic

target site of *gpt* delta rats.

53rd Annual Meeting of the Society of Toxicology (2014.3)

* Azabu University

Yoshida M, Ichimura R, Inoue K, Watanabe G*, Takahashi M: Disruption in the hypothalamus neonatally exposed to p-tert octylphenol is essential for induction of early occurrence of persistent estrus, a feature of delayed effect in rats.

53rd Annual Meeting of the Society of Toxicology (2014.3)

* Tokyo University of Agriculture and Technology

Inoue K, Suzuki D, Ogawa Y*, Maeda J, Morikawa T, Ichimura R, Takahashi M, Kodama Y, Yoshida M: Involvement of constitutive androstane receptor (CAR) in the liver hypertrophy and hepatocarcinogenesis induced by three fibrates in mice.

53rd Annual Meeting of the Society of Toxicology (2014.3)

* Azabu University

Maeda J, Inoue K, Ichimura R, Morikawa T, Ogawa Y*, Kodama Y, Yoshida M: *Ginkgo biloba* extract is nongenotoxic *in vivo* and constitutive androstane receptor is involved in its hepatocarcinogenesis.

53rd Annual Meeting of the Society of Toxicology (2014.3)

* Azabu University

本間正充: ICHガイドライン状況: 遺伝毒性不純物M7. MMS研究会第62回定例会 (2013.5)

堀端克良: 共同研究報告II: *Pig-a*.

MMS研究会第62回定例会 (2013.5)

本間正充: 医薬品中に含まれる遺伝毒性不純物の安全性評価.

JEMS/BMS研究会第49回定例会 (2013.6)

山田雅巳: OECDガイドライン471 ガイダンス作成進捗状況報告.

JEMS/BMS研究会第49回定例会 (2013.6)

杉山圭一: Ames試験に関する講義-試験原理-

JEMS/BMS研究会第49回定例会 (2013.6)

本間正充: 医薬品開発における遺伝毒性の予測とリスク評価.

CBI学会講演会「e-ADMET構築に向けて4: 毒性予測の現状と今後の展開」(2013.7)

本間正充: Risk assessment and management of genotoxic impurities in pharmaceuticals.

第3回中国薬物毒理学会医薬品非臨床安全性評価研究フォーラム (2013.7)

Masumura K: Aging and accumulation of gene mutations: Identification of spontaneous mutations in the tissues of *gpt* delta transgenic mice.

National Cancer Forum 2013 (2013.8)

山田雅巳, 清水雅富*¹, 片渕淳, ピーター・グルーズ, 藤井慎吾*², 碓井之雄*¹, ロベール・フックス*², 能美健彦: 大腸菌DNAポリメラーゼIIIの特異的な性質と *mutT* ミューテーター株における高い変異頻度との関係.

日本遺伝学会第85回大会 (2013.9)

*¹ 東京医療保健大学

*² フランスCNRS

鈴木哲也*, 安井学, 鴨下渚, 鶴飼明子, 本間正充: A role of BLM helicase on double strand break repair.

第44回米国環境変異原学会 (2013.9)

* (独)労働安全衛生総合研究所

増村健一, 豊田尚美, 石井雄二, 梅村隆志, 能美健彦, 西川秋佳, 本間正充: *gpt* deltaラット肝臓における自然突然変異および加齢に伴う変異蓄積の検討.

第72回日本癌学会学術総会 (2013.10)

安井学, 鴨下渚, 本間正充: DNA付加体1分子による遺伝子変異誘発性.

日本放射線影響学会第56回大会 (2013.10)

安井学: DNA付加体を部位特異的に含むDNAオリゴマーの生化学的構築とその突然変異誘発機構の解析.

日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

山田雅巳, 高宗万希子, 松田知成*: 次世代DNAシーケンサーを用いた表現型によらない変異原性試験の開発.
日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

* 京都大学・院

堀端克良, 鶴飼明子, 木本崇文*, 鴨下渚, 本間正充:
ラットを用いた*Pig-a*アッセイとトランスジェニック突然変異試験の組合せに関する研究.
日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

* 帝人ファーマ(株)

本山茂記^{*1}, 竹入章^{*1}, 松尾沙織里^{*1}, 和田直子^{*2}, 寺社下浩一^{*1}, 三島雅之^{*1}, 新見直子, Gruz P, 増村健一, 山田雅巳, 能美健彦: MitomycinCによるDNA二本鎖切断誘発に対するDNA polymerase kappaの*in vivo*における役割.
日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

^{*1} 中外製薬(株)研究本部

^{*2} 中外医科学研究所

安井学, 鴨下渚, 兼丸祐紀, 本間正充: DNA付加体による突然変異誘発頻度はゼロにならない.
日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

堀端克良*, 田中康浩*, 増村健一, 山田雅巳, 藤居互*: F344系*gpt delta*ラットを用いた突然変異試験と小核試験(末梢血, 骨髄, 肝臓, 大腸)の統合法の検討.
日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

* サントリービジネスエキスパート(株)

増村健一, 豊田尚美, 権藤洋一*, 能美健彦, 本間正充:
*gpt delta*マウスを用いたENU誘発突然変異と全エクソンシーケンスによる経世代変異の検出.
日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

* 理化学研究所バイオリソースセンター

Canipa SJ^{*1}, Cayley A^{*1}, Drewe WC^{*1}, Williams RV^{*1}, Hamada S^{*2}, Hirose A, Morita T, Honma M: Using existing *in vitro* structural alerts for chromosome damage to predict *in vivo* activity and direct future testing.
日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

^{*1} Lhasa Limited UK

^{*2} 哺乳類変異原性試験研究会

Grúz P, Nohmi T: Partial restoration of UV-mutagenesis in a *umuDC*-deletion mutant of *Escherichia coli* with human DNA polymerase η .
日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

杉山圭一, 高宗万希子, 本間正充: DNAメチル化かく乱物質の検出を目的としたヒトDNAメチル化酵素発現酵母の分子育種.
日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

青木康展^{*1}, 松本みちよ^{*1}, 松本理^{*1}, 増村健一, 續輝久^{*2}, 能美健彦: 臭素酸カリウムが*gpt delta*マウス小腸で誘導する突然変異の閾値と変異スペクトルの用量依存性変化.
日本環境変異原学会第42回大会 (2013.11)

^{*1} (独)国立環境研究所

^{*2} 九州大学

増村健一: 第6回IWGT報告および共同研究進捗報告: 生殖細胞に影響を及ぼす変異原の同定.
MMS研究会第63回定例会 (2013.11)

堀端克良: 第6回IWGT報告および共同研究進捗報告: *Pig-a*アッセイ.
MMS研究会第63回定例会 (2013.11)

杉山圭一: OECD専門家会議に関する情報提供.
日本環境変異原学会微生物変異原性試験研究会第50回定例会 (2013.11)

安井学, 鴨下渚, 本間正充: 遺伝毒性には閾値が無いことの証明.
日本リスク研究学会第25回年次大会 (2013.11)

Honma M: Risk assessment and management of genotoxic impurities in pharmaceuticals.
11th International Conference on Environmental Mutagens (2013.11)

Nohmi T, Suzuki T, Matsumoto K*, Honma M: Introduction and roles of self-defense mechanisms in thresholds for genotoxic chemicals.

11th International Conference on Environmental Mutagens (2013.11)

* (財)残留農薬研究所

Masumura K, Toyoda-Hokaiwado N, Osugi N*, Ishii Y, Umemura T, Takagi H*, Nishikawa A, Nohmi T, Honma M: Spontaneous point mutations and deletions increased with aging in *gpt* delta transgenic mice and rats.

11th International Conference on Environmental Mutagens (2013.11)

* Japan SLC. Inc.

Horibata K, Ishikawa S*¹, Ukai A, Sugano A*², Honma M: Establishment of human PIG-A assay and application to genotoxicity monitoring of cancer chemotherapeutic patients.

11th International Conference on Environmental Mutagens (2013.11)

*¹ 公立置賜総合病院

*² 山形大学医学部

Hamada S*¹, Takashima R*¹, Shimada K*², Matsumoto K*³, Kawakami S*⁴, Uno F*⁵, Sui H*⁶, Shimada Y*⁷, Imamura T*⁸, Matsumura S*⁹, Sanada H*¹⁰, Inoue K*¹¹, Muto S*¹², Ogawa I*¹³, Hayashi A*¹⁴, Takayanagi T*¹⁵, Ogiwara Y*¹⁶, Maeda A*¹⁷, Okada E*¹⁸, Terashima Y*¹⁹, Takasawa H*¹, Narumi K*¹⁸, Ohshima W*¹⁸, Wako Y*¹, Kawasaki K*¹, Kojima H, Hayashi M*⁵, Honma M, Morita T: Evaluation of repeated-dose liver micronucleus assay with 22 chemicals using young adult rats.

11th International Conference on Environmental Mutagens (2013.11)

*¹ 三菱化学メディエンス

*² アステラス製薬

*³ アステラスリサーチテクノロジー

*⁴ 旭化成ファーマ

*⁵ 安評センター

*⁶ 食薬センター

*⁷ 北興化学工業

*⁸ イナリサーチ

*⁹ 花王

*¹⁰ 科研製薬

*¹¹ マルホ

*¹² 田辺三菱製薬

*¹³ 日産化学工業

*¹⁴ 新日本科学

*¹⁵ サントリービジネスエキスパート

*¹⁶ 大正製薬

*¹⁷ 東レ

*¹⁸ ヤクルト本社

*¹⁹ キッセイ薬品工業

Yamada M, Takamune M, Matsuda Y*, Matsuda T*: A pilot study for the new mutation assay using a high-throughput DNA sequencer.

11th International Conference on Environmental Mutagens (2013.11)

* 京都大学

Honma M: A New Strategy for Hazard and Risk Assessment of Genotoxic Impurities.

6th International Workshop on Genotoxicity Testing (2013.11)

小野敦, 平田睦子, 加藤寛人*, 伊勢良太*, 広瀬明彦: 2-(2'-Hydroxy-3',5'-di-tert-butylphenyl) benzotriazoleによる肝毒性メカニズムのトランスクリプトーム解析. 第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

* (株)新日本科学

花房弘之*¹, 森川裕二*^{1,2}, 上原健城*^{1,2}, 兼藤雅子*¹, 小野敦, 山田弘*², 大野泰雄, 漆谷徹郎*³: マルチプレックス免疫アッセイによるラット肝障害時のサイトカイン変動解析.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

*¹ 塩野義製薬

*² 医薬基盤研究所

*³ 同志社女子大学薬学部

大村功*¹, 森川裕二*², 上原健城*², 林仁美*^{3,4}, 三森国敏*³, 南圭一*⁶, 神吉将之*¹, 小野敦, 山田弘*⁵, 大野泰雄, 漆谷徹郎*⁷: 肝発がんにおけるDNAメチレーションと遺伝子発現の関連.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

*¹ アステラス製薬

*² 塩野義製薬

*³ 東京農工大学獣医病理学研究室

*⁴ 岐阜大学大学院連合獣医学研究科

*⁵ 医薬基盤研究所

*⁶ 小野薬品工業

*⁷ 同志社女子大学薬学部

南圭一^{*1}, 上原健城^{*2}, 近藤千晶^{*2}, 大村功^{*3}, 神吉将之^{*3}, 堀之内彰^{*4}, 小野敦, 山田弘^{*5}, 大野泰雄, 漆谷徹郎^{*6}: ラット腎におけるmiRNA発現と腎障害モデルにおける変動の比較検討.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

*¹ 小野薬品工業

*² 塩野義製薬

*³ アステラス製薬

*⁴ 武田薬品工業

*⁵ 医薬基盤研究所

*⁶ 同志社女子大学薬学部

中根史行^{*1,2}, 八舟宏典^{*1,3}, 盛田怜子^{*1,3}, 板橋恵^{*1,3}, 赤根弘敏^{*1,2}, 小野敦, 鈴木和彦^{*4}, 渋谷淳^{*1}: Diheptyl phthalate (DHP) のラット90日間混餌投与によって誘発された肝前がん病変における細胞周期とアポトーシス関連分子の発現解析.

第40回日本毒性学会学術年会 (2013.6)

*¹ 東京農工大学・獣医病理

*² シミックバイオリサーチセンター

*³ 岐阜大・連合獣医

*⁴ 東京農工大学・獣医毒性

広瀬明彦: 食品等に含まれる化学物質のリスク評価の経験とそこから見えてきた課題.

日本リスク研究学会第26回シンポジウム (2013.6)

Ono A, Takahashi M, Yabe K*, Kato H, Kawamura T, Matsumoto M, Hirata-Koizumi M, Hirose A: The Japanese Existing Chemical Safety Survey Program: Reproductive Toxicity of 3-Cyanopyridine In Rats. XIII International Congress of Toxicology (2013.7)

* Safety Research Institute for Chemical Compounds Co., Ltd.

Hirose A: Risk assessment methodology for chemicals

and contaminants in foods.

ILSI HESI Workshop: Risk Assessment in the 21st Century (2013.7)

Hirose A, Kobayashi N, Fujitani T^{*1}, Sakamoto Y^{*1}, Yoshioka Y^{*2}, Tsutsumi Y^{*2}, Tsuda H^{*3}, Kanno J: Nanotoxicity and nano safety science in various exposure scenarios.

The 49th EUROTOX2013 (2013.9)

*¹ Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

*² Osaka University

*³ Nagoya City University

Ono A, Hirata-Koizumi M, Ise R^{*1}, Kato H^{*1}, Matsuyama T^{*2}, Ema M^{*3}, Hirose A: Gender-related difference in the toxic susceptibility of rats to an ultraviolet absorber, 2-(2'-hydroxy-3',5'-di-tert-butylphenyl)benzotriazole: a role of peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) alpha.

The 49th EUROTOX2013 (2013.9)

*¹ (株)新日本科学

*² SNBL USA Ltd.

*³ (独)産業技術総合研究所

Hirose A, Kobayashi N, Kawabe M^{*1}, Nakashima H^{*1}, Numano T^{*1,2}, Kubota R, Ikarashi Y: Developmental toxicity by intratracheal instillation of multi-wall carbon nanotubes in pregnant mice.

6th International Symposium Nanotechnology, Occupational and Environmental Health (2013.10)

*¹ DIMS医科学研究所

*² 名古屋市立大学

広瀬明彦: Q3Dガイドラインステップ2の元素の毒性評価法の概要.

第15回医薬品品質フォーラムシンポジウムICH金属不純物のガイドライン(ステップ2)の概要と評価方法 (2013.11)

Yamada T^{*1}, Tanaka Y^{*1}, Hasegawa R^{*1}, Sakuratani Y^{*1}, Yamada J^{*1}, Yoshinari K^{*2}, Yamazoe Y^{*2}, Ono A, Hirose A, Hayashi M^{*3}: Hazard Evaluation Support System (HESS) -Proposal of in vitro assays useful for predicting repeated-dose toxicity of chemical

substances.

FutureTox II: In Vitro Data and In Silico Models for Predictive Toxicology (2014.1)

*¹ National Institute of Technology and Evaluation (NITE)

*² Tohoku University

*³ BioSafety Research Center

Ono A, Honma M, Masumori S*, Matsumoto M, Hirata-Koizumi M, Hirose A: An In Vivo Mutagenicity Test of Hydroquinone Using the lacZ Transgenic Mice.

第53回米国トキシコロジー学会 (2014.3)

* Biosafety Research Center

Omura K*¹, Uehara T*¹, Morikawa Y*¹, Hayashi H*², Mitsumori K*², Minami K*¹, Kanki M*³, Yamada H*¹, Ono A, Ohno Y, Urushidani T*^{1,4}: Comprehensive DNA Methylation and Gene Expression Study on Livers Using 2-Stage Hepatocarcinogenesis Model in Rats.

第53回米国トキシコロジー学会 (2014.3)

*¹ Toxicogenomics Informatics Project

*² Tokyo University of Agriculture and Technology

*³ Astellas Pharma Inc.

*⁴ Doshisha Women's College of Liberal Arts

Hirose A, Fujii S*¹, Suzuki T*², Kato H, Kawamura T, Matsumoto M, Takahashi M, Hirata-Koizumi M, Nishimura T*³, Ema M*⁴, Ono A: Combined repeated-dose toxicity studies with the reproduction/developmental toxicity screening tests for perfluorotetradecanoic acid and perfluorohexadecanoic acid in rats.

第53回米国トキシコロジー学会 (2014.3)

*¹ (株)化合物安全性研究所

*² 東京都健康安全研究センター

*³ 帝京平成大学

*⁴ (独)産業技術総合研究所